2025年度　授業概要

学科：　作業療法科

科目名（英）	機能解剖学Ⅰ（ Functional Anatomy Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎　浩・押領司　俊介
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	水曜日　4、5限目（隔週）

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
臨床現場、実習において解剖学的知識を理解する事は重要である。そのために、1年次で学習する解剖学の内容を整理していく必要がある。具体的手法として、骨・筋を実際に触察した上で体表に描出し、立体的に人体の骨・筋の位置関係を認識する。視覚的に認識する事で従来の学習形態に比べ解剖学を理解しやすく、その機能を深く考えることが出来る。これにより、解剖学的知識の整理に大きく役立つ。
また、骨・筋の知識を整理・理解できるとその後に考えるべき治療に繋がる。実際の治療場面を体験する事により、解剖学を理解する重要性を学ぶ。機能解剖学Ⅰでは、治療場面で主に用いる体幹や肩甲帯、上肢の骨指標・筋を触察し、実際の治療を体験する。
※実務経験
藤崎　浩……1988年～理学療法士として病院勤務、一般臨床医学分野に関わった。2000年～2007年福岡市介護認定委員として活動を行う。
押領司　俊介…2005年4月より現在まで整形外科病院に所属している。術後の急性期から慢性疾患まで整形外科疾患を担当。2018年4月には運動器認定理学療法士を取得。

【到達目標】
MTA（マイオチューニングアプローチ）を治療手法として用いるために、解剖学的な基本的知識を修得する。患者様の触察ができるようになるために、まずは正常な身体が実際どのようになっているのかを理解し、本講義終了時には、それぞれの説明ができるようになる。
＜具体的な目標＞
目標①各講義で提示した筋がどの骨指標に付着しているか理解し、それぞれを触察することができる。
目標②教員が実施したデモ内容を模倣し、正しい立ち位置で描出することができる。
目標③MTAアプローチの基礎と流れを実施することができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）オリエンテーション、 （目標③）MTA（マイオチューニングアプローチ）の基本的な流れについて説明できる。
2回目	（目標①）肩甲骨の触察～描出できる。
3回目	（目標①②）肩甲骨に付着する筋を触察、抽出できる。①僧帽筋・三角筋等
4回目	（目標②③）治療体験を通して、肩甲骨周囲筋の治療ができる。
5回目	（目標①②）肩甲骨に付着する筋を触察、抽出できる。②棘上筋・棘下筋等
6回目	（目標②③）治療体験を通して、肩甲骨周囲筋の治療ができる。
7回目	（目標③）肩甲骨に付着する筋を触察、抽出できる。③肩甲挙筋・菱形筋等
8回目	（目標②③）小テスト。（1回目治療体験を通して、肩甲骨周囲筋の治療ができる。
9回目	（目標①②）肩甲骨に付着する筋を触察、抽出できる。小胸筋・広背筋等
10回目	（目標②③）治療体験を通して、肩甲骨周囲筋の治療ができる。
11回目	（目標①②）肩甲骨に付着する筋を触察、抽出できる。②上腕二頭筋・前鋸筋等
12回目	（目標②③）治療体験を通して、肩甲骨周囲筋の治療ができる。
13回目	（目標①～③）肩甲骨に付着する筋を触察、抽出できる。
14回目	（目標①～③）小テスト（2回目）.治療体験を通して、肩甲骨周囲筋の治療ができる。
15回目	（目標①～③）1回目～14回目のまとめ

準備学習 時間外学習	（目標①）前提として、解剖学の理解が不可欠です。各講義前に講義対象となる骨指標、筋名の予習が必要です。 （目標②）事前に動画で立ち位置などを確認したい場合は、動画撮影した教材を提供します。 （目標③）運動学と連携した学習が必要です。体幹・上肢帯・上肢が講義範囲のため、特に肩甲骨と肩甲上腕関節の運動の違いは重要です。 （目標①～③）小テストを2回実施予定です。それぞれのテスト対策として講義の復習が必要です。
評価方法	体表上に描出することが上手か下手かは評価対象にならない。触察時のポイントとなる内容を描出できるかどうか、解剖学的知識の到達評価を小テスト・定期試験によって行う。 ●小テスト（20%） ●定期試験（80%） 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力：患者様に信頼される作業療法士になるためには、治療者としての知識・技術は重要です。骨指標や、筋の触察が可能になると検査測定の正確性が向上するとともに、問題点の抽出～治療効果判定などに大いに役立ちます。また臨床で活躍をされ、経験豊富な講師の先生に実際の治療技術を交えながら受ける事の出来る講義は多くは無いと思います。講義への積極的な参加を期待します。 講義計画：本講義は講義・演習形態となります。いつでも演習が出来るように、毎講義実習着を着用での参加となります。忘れずに着替えて参加下さい。また、用意する機材も多いので、講義直前に慌てて準備する事の無いよう事前準備をしっかりして臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】
〈使用教科書〉河上敬介　磯貝　香：改訂第2版骨格筋の形と触察法.大峰閣
〈使用教材〉体表上に描出するためのマーカー・実習着・タオル・枕・プロジェクター・デモ確認動画

2025年度　授業概要

学科：　作業療法科

科目名（英）	運動学Ⅰ（Kinesiology　Ⅰ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	長嶺　元気
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
人体の基本的な構造、運動を理解することは、臨床で診る視点に繋がります。身体は大きく上肢、下肢、体幹に分かれます。本講義では上肢の基本構造と機能、運動力学、さらに身体運動の機構について学び、運動を理解するための基礎知識を学びます。運動学Ⅰでは、肩甲帯から上肢にかけての関節名とその構造と運動、その器官に関与する靭帯などの構造物、上肢筋の起始停止作用について説明できるようになる。
※実務経験
2007年4月～2014年3月整形外科病院に勤務、肩関節・肘関節・手関節、各関節専門の整形外科医の元で急性期・回復期リハビリテーションに従事し、医師の指示を受け、投球障害等を含むアスリートリハビリの経験を積み、一般整形～スポーツ障害の予防事業（障害予防教室）なども経験。ハンドセラピィの専門医と協働し、再接着手術後のリハビリテーション等、専門的な実務を積む。また、高齢者病棟（後期高齢者リハビリ、社会的入院の方々への対応等）では、日々集団体操を行うこと、四季に応じたレクリエーションを企画するなどし、運動器リハを主軸としたレクリエーション活動に従事。2014年4月～2023年3月株式会社MAHALO勤務。通所介護サービス、訪問看護、保険外事業開設を行い、在宅・地域リハビリテーションに従事。脳血管障害（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）、パーキンソン病、各種整形疾患、循環器疾患、認知症（アルツハイマー型、脳血管型、レビー小体型）、在宅訪問看護、ターミナルケアを含めた生活期リハ作業療法を実践してきた。

【到達目標】
運動に必要な力学、機能解剖学を学び、筋収縮や運動機能などに関する運動学の基礎知識を学び、正常運動を理解する。肩甲帯、上腕、前腕、手指の運動と機能、作用する筋について説明することができる。
＜具体的な目標＞
目標①生体力学の基礎として、身体運動の面と軸、モーメント、身体とテコについて説明できる
目標②上肢帯と肩関節での上腕の運動について説明することができる
目標③肘関節の運動について説明することができる
目標④前腕と手指の運動について説明することができる

授業計画・内容	
1回目	各骨と関節の名称について説明することができる
2回目	（目標①）面と軸の基礎　面と軸について説明することができる
3回目	（目標①）身体各部の関節運動について説明することができる
4回目	（目標①）身体各部の関節の構造と分類について説明することができる
5回目	（目標①）骨格筋の構造と筋収縮について説明することができる
6回目	（目標①）筋肥大と筋委縮、および力学の基礎として、身体とテコについて理解し説明、計算ができる
7回目	（目標②）上肢帯：肩甲帯の関節運動について説明できる
8回目	（目標②）上肢帯：肩甲帯の靭帯名と機能について説明できる
9回目	（目標②）上肢帯：肩甲帯の筋の起始停止作用について説明できる
10回目	（目標③）上肢帯：肘関節の関節運動について説明できる
11回目	（目標③）上肢帯：肘関節の靭帯名と機能について説明できる
12回目	（目標③）上肢帯：肘関節の筋の起始停止作用について説明できる
13回目	（目標④）前腕：手指の関節運動について説明できる
14回目	（目標④）前腕：手指の靭帯名と機能について説明できる
15回目	（目標④）前腕：手指の筋の起始停止作用について説明できる

準備学習時間外学習	（目標①）前提：この授業を受けるには、解剖学の骨・関節の名称、動きの予習が必要です。 （目標②）各論では肩甲帯の運動のメカニズムや制限因子などについて学びます。解剖学の知識である肩甲帯を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です （目標③）各論では肘関節の運動のメカニズムや制限因子などについて学びます。解剖学の知識である肘関節を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です （目標④）各論では前腕と手指の運動のメカニズムや制限因子などについて学びます。解剖学の知識である前腕・手関節を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です
評価方法	確認テストを実施する。定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期テスト（90%）で成績評価を行う。　●授業態度・参加姿勢（10%）：積極的な取り組みや授業への真摯な姿勢が評価されます。
受講生へのメッセージ	身体の仕組みを学ぶ上で運動学、解剖生理学はベースとなる大切な科目です。 今後疾患を学ぶ上でこれらの科目の基礎となります。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：　基礎運動学　（第6版　補訂）　医歯薬出版株式会社

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	整形外科学Ⅰ（ Orthopedics Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	押領司 俊介
						実務経験	○
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日 4、5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
運動器の障害とリハビリテーションとの関係は密である。その総論、各論について1年次に学んでいる解剖生理学・運動学知識と関係を持たせながら学習する。運動器としての四肢・脊柱の構造・機能を理解し、外傷・障害・疾病によって引き起こされる症状の診断・治療に関する基礎知識を修得する。これらの知識の上に立って運動器疾患に対する考え方を講義主体で学習する。

※実務経験
2005年より現在まで整形外科病院に所属している。術後の急性期から慢性疾患まで整形外科疾患を担当。2018年4月には運動器認定理学療法士を取得。

【到達目標】
運動器の基本的知識を修得する。外傷・傷害・疾病によって引き起こされる症状の診断・治療に関する基礎知識を修得する。

＜具体的な目標＞
目標①運動器の基本的知識を修得し、整形外科的な診断～治療までの流れを説明できる。
目標②整形外科的疾患の特徴を理解し、説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）骨、関節、筋、靭帯、腱など運動器の構造や特徴について述べることができる。
2回目	（目標①）整形外科疾患の診察法について説明できる。
3回目	（目標①）脊椎の診察法について説明できる。脊椎の疾患の特徴について述べることができる。
4回目	（目標②）慢性関節疾患について理解し、特徴を説明できる。
5回目	（目標②）関節リウマチ（RA）とその類縁疾患（主にOAなど）の違いについて説明できる。
6回目	（目標②）軟部組織・骨・関節の感染症について理解し、特徴を説明できる。
7回目	（目標②）末梢神経障害について理解し、特徴を説明できる。（前半）
8回目	（目標②）末梢神経障害について理解し、特徴を説明できる。（後半）
9回目	（目標②）骨粗鬆症について理解し、特徴を説明できる
10回目	（目標②）代謝性骨疾患について理解し、特徴を説明できる。
11回目	（目標②）良性骨腫瘍について理解し、特徴を説明できる。
12回目	（目標②）悪性骨腫瘍について理解し、特徴を説明できる。
13回目	（目標②）転移性骨腫瘍、軟部腫瘍について理解し、特徴を説明できる。
14回目	（目標②）骨腫瘍類似疾患・骨系統疾患について理解し、特徴を説明できる。
15回目	目標①②のまとめ

準備学習時間外学習	（目標①）前提条件として、解剖学の基礎知識修得が必要です。確認のための講義を何回か予定してますが、復習の時間が不十分であると、本講義の整形外科の役割を理解する事ができません。そのため、診断から治療までの流れを説明するという目標達成が困難となります。事前の準備をしっかりすることを怠らないようにしてください。 （目標②）整形外科には多くの特徴的疾患が存在します。性差・年齢等の特徴による違いなどは事前に確認しておくなど予習準備が重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士として整形外科疾患の患者様と関わる機会は多いと言えます。病前と同様の生活が営めない状態に陥った方々に対し、医師を中心とした他職種との連携により、症状が軽快し生活状態の改善が見られることで、患者様の笑顔に繋がります。そのためには解剖学・生理学・運動学的知識に基づき、整形外科疾患の特徴を把握した上で適切な治療を選択していく必要があります。術後など非常に難しい事も多いですが、成果が見られた時には喜びも大きくなります。この機会に整形外科疾患を理解し、多くの患者様の治療に役立てていただきたいと思います。 講義計画：講義は講義形式となります。内容は運動器の専門的内容となっており、総論から各論まで幅広く行う予定となります。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、十分に注意が必要です。また使用教材がたくさんあるので、講義開始5分前には必ず教材を教務室に取りにきて事前準備を忘れないようお願いします。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>松野丈夫他：標準整形外科学 第14版 医学書院

<使用教材>講義資料（毎講義前に提示）、プロジェクター、延長コード ＊PCは持ち込みますので延長コードの準備をお願いします。

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	精神医学（ Psychiatry ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	中村 薫
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	木曜日 1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

近年、老年期疾患、脳損傷や発達障害をはじめ、精神・心理障害と身体障害を合わせもつ者が急増しており、作業療法や理学療法、さらには障害受容に至る心理的援助もリハビリテーション専門職に期待されている。

精神医学を学ぶことは精神的・社会的存在としての人間を深く理解することにつながる。ここでは、作業療法学や理学療法学を学ぶための基礎として、精神機能の障害としての精神症状や、それをもたらす精神疾患の成因や診断、治療などについて学ぶ。

※実務経験

1998年～現在：精神科病院での医師としての実務経験を有する。

【到達目標】

目標① 精神障害にかかわる概念、精神医学の歴史、国際疾病分類について説明できる。
目標② 精神機能の障害と精神症状について説明できる。
目標③ 神経学的診断方法、心理テスト、精神機能各種検査法について説明できる。
目標④ 精神障害の一般的疾患について理解し、説明できる。（成因、症状、診断、経過、治療など）
目標⑤ 精神障害の治療とリハビリテーションについて理解し、説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）精神障害にかかわる概念（正常と異常、病気と疾患、精神障害者の定義）について説明できる。精神医学の歴史について説明できる。成因と分類について説明できる。
2回目	（目標②）精神機能の障害：知能・注意・見当識・性格・記憶・感情・意欲・自我意識とその障害について説明できる。
3回目	（目標②）精神機能の障害：知覚の障害（錯覚、幻覚）、思考とその障害（思路、思考体験、思考内容の障害）、病識と病感、主な状態像について説明できる。
4回目	（目標③）神経学的補助診断（脳波、髄液検査）、心理検査（知能検査、記銘力検査、HDS、MMSE）、パーソナリティ検査、精神症状の評価について説明できる。
5回目	（目標④）脳器質性精神障害（大脳皮質の変性疾患、ハンチントン病、脳の感染症、CO中毒等）について説明できる。
6回目	（目標④）症状性精神障害（膠原病、甲状腺機能障害、生殖精神病）について説明できる。 精神作用物質による精神および行動の障害について説明できる。
7回目	（目標④）てんかん（発作型、精神症状、てんかん重積状態、予後、熱性けいれん、治療、薬物療法、副作用）について説明できる。
8回目	（目標④）統合失調症（疫学、表現面、精神面に現れた症状、ブロイラー、シュナイダーの考え方、古典的病型、成因）について説明できる。
9回目	（目標⑤）統合失調症（生活のしづらさ、経過と予後、予後を左右する因子、治療とリハビリテーション）について説明できる。
10回目	（目標④）気分（感情）障害（概念、病型、うつ病、疫学、症状、重症度、評価尺度、遺伝・性格・状況因、神経科学的変化、躁うつ病、治療）について説明できる。
11回目	（目標④）神経症性障害（捉え方、不安性障害、ストレス関連障害、恐怖症、強迫性障害）について説明できる。
12回目	（目標④）解離性（転換性）障害、身体表現性障害、治療（薬物、精神療法）について説明できる。摂食障害、睡眠障害について説明できる。パーソナリティ障害、行動（習慣、衝動）の障害について説明できる。
13回目	（目標④）知的障害（脳性麻痺、Down症候群、フェニルケトン尿症、クレチン病）について説明できる。心理的発達の障害（特異的発達障害、小児自閉症、アスペルガー症候群）について説明できる。心身症について説明できる。
14回目	（目標⑤）精神障害の治療とリハビリテーション（インフォームドコンセント、精神療法、薬物療法、身体療法）について説明できる。
15回目	（目標⑤）精神保健福祉法について説明できる。社会現象とメンタルヘルスについて説明できる。

準備学習 時間外学習	教科書を読み進めながら解説を加えていくため、教科書を読んでの予習・復習が重要となります。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。
受講生への メッセージ	精神医学は国家試験においても必須となりますが、リハビリテーションの治療場面においても身体機能面のみならず、患者や障害者の精神・心理面の障害を理解することは大変重要になります。 また精神医学を学ぶことはリハビリテーションの対象者だけでなく、学校におけるメンタルヘルス、職場におけるスタッフのメンタルヘルスにも役立つことと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 「精神医学」第4版 医学書院

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	小児科学（ Pediatrics ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	桑原 みゆき
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	金曜日 2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
小児科学では、作業療法と関連する小児科学の基礎や小児期によく見られる疾患の知識を中心に学習する。その中でも特に成長と発達、小児の栄養・保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、血液・造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識が説明できる。

※実務経験
重症心身障害児を含む入所、通園施設においてリハビリテーション部門に所属（1979～84）、リハビリテーション病院において小児疾患の外来業務（発達障害）（1991～97）地域行政の中で小児疾患の療育担当＜1991～現在＞ 主業務は、小児の障害に対してのリハビリテーション（作業療法を主として）と家族指導、保育施設、学校への訪問援助を行っている。

【到達目標】
1年次に学んだ「人間発達」を基盤として、各領域（身体・運動・認知・心理など）の疾患、病態、障害を理解し、特徴を説明できる。
＜具体的な目標＞
目標①小児の成長・発達や特徴について説明できる。
目標②小児の各疾患の特徴について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①） オリエンテーション・「人間発達」の学習を踏まえて「小児科学」で学びたいこと、疑問など自身の言葉で述べることができる。
2回目	（目標①） 胎児期から小児期の成長、発達の概要を再学習し、説明できる。
3回目	（目標①） 小児の診断と治療の概要について理解し、発達評価について説明できる。
4回目	（目標②） 新生児・未熟児の疾患（PVLを中心に）について理解、説明できる。
5回目	（目標②） 先天異常と遺伝病（ダウン症を中心に）について説明できる。
6回目	（目標②） 小児の筋（筋ジストロフィーを中心に）疾患について理解、説明できる。
7回目	（目標②） 小児の神経系疾患（脳性麻痺、てんかん、二分脊椎、分娩麻痺、二分脊椎を中心に）について理解、説明できる。（1回目）
8回目	（目標②） 小児の神経系疾患（脳性麻痺、てんかん、二分脊椎、分娩麻痺、二分脊椎を中心に）について理解、説明できる。（2回目）
9回目	（目標②） 発達障害とその周辺疾患、二次障害について理解、説明できる
10回目	（目標②） 小児の骨（骨形成不全等）、消化器疾患、・循環器系疾患・呼吸器系疾患について説明できる。
11回目	（目標②） 小児の感染症、内分泌・代謝疾患、血液疾患、視覚機能・聴覚機能の疾患や合併症としての障害について説明できる。
12回目	（目標②） 小児の免疫・アレルギー疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、悪性腫瘍について説明できる。
13回目	（目標②） 小児の習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患、児童虐待の分類、今日的現状と課題について説明できる。
14回目	（目標②） 重症心身障害児・医療的ケア児について理解、説明できる。
15回目	①・②のまとめ

準備学習時間外学習	（目標①）小児疾患、障害を理解するために、解剖生理学、人間発達学の復習を行う。 （目標②）①の学習で小児領域の基礎医学と臨床医学の繋がりを理解する。
評価方法	定期試験に加え、レポートや授業への取り組み等平常点として評価する。 （判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。） ・定期試験結果（90%）、レポート提出（10%）、平常点にて成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	・小児期における疾患、障がいを学ぶことは、身体、精神・心理の成長過程を知ることであり、それは自身を理解し、作業療法士という職業の魅力の一端を知る機会になると思います。小児分野に興味を持っていただき積極的に学習されることを望みます。 ・2年次は1年次に学習した基礎医学から臨床医学へと進みますので、1年次に学習したことを復習し、知識を積み重ねていくことが重要になります。基本は講義形式ですが、感覚運動学習を取り入れたり、疑問に思ったことを自ら調べ学習をして発表もしていただこうと考えています。 ・進行具合によって、順番が前後することがあります。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>前垣義弘・小倉加恵子編集:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版.医学書院

<使用教材>講義資料（毎講義前に提示）、PC、マイク、プロジェクター、（スピーカー）

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	社会福祉論（ Social Welfare Theory ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	後藤 真衣
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火・金曜日 2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

社会福祉論では、現代の社会福祉法やそれに相まっている法律、サービス内容を学ぶ。また、作業療法士として臨床で働く際に必要な精神科領域の専門的知識を身につけるため精神保健福祉法の基礎やそれに付随する法律を学ぶ。

※実務経験
精神科グループホーム勤務（2013年）、精神科病院勤務（2014年～2021年）

【到達目標】
現代の社会福祉の理解や法律の把握、対象者個々に応じたサービス内容を理解し自分の意見を述べることができる。

＜具体的な目標＞
目標①現代の社会福祉に関連する法体系について理解し説明できる。
目標②障害者、子ども、高齢者の支援に関する法律やサービス内容を理解し説明できる。
目標③精神保健福祉法について理解し説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）社会福祉の概要について説明できる。
2回目	（目標①）社会福祉に関連する法体系について理解し説明できる。
3回目	（目標②）介護保険法の理念や対象者について説明できる。
4回目	（目標②）介護保険法に定められている給付サービスを理解し説明できる。
5回目	（目標②）障害者総合支援法の理念や対象者について説明できる。
6回目	（目標②）障害者総合支援法に定められているサービス体系を理解し説明できる。
7回目	（目標②）子育て支援の概要や現状について理解し説明できる。
8回目	（目標②）児童福祉法の理念や対象者、サービス内容について説明できる。
9回目	（目標②）貧困の定義や社会問題について理解し説明できる。
10回目	（目標②）生活保護法の原理原則について説明できる。
11回目	（目標②）生活保護法に定められている公的扶助の内容を理解し説明できる。
12回目	（目標③）精神保健福祉法の理念や対象者について説明できる。
13回目	（目標③）精神保健福祉法に定められている入院形態を理解し説明できる。
14回目	（目標③）心神喪失者医療観察法の理念や対象者について説明できる。
15回目	（目標①～③）まとめ

準備学習 時間外学習	（目標①）現代の社会福祉に関する記事（新聞記事、web情報）を調べ、講義イメージをできるような準備が必要です。 （目標②）社会福祉に関係する法律や制度を中心に学習を行います。講義中に初めて聞く言葉も多くありますので予習・復習が必要です。 （目標③）精神科領域に関連する法律や制度について調べ、講義イメージをできるような準備が必要です。 全体的に聞き慣れなかったり、初めて聞く言葉が多いと思います。そのため予習・復習を行い、統合的理解ができるように学習を進めていくことが重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。
受講生への メッセージ	**魅力**：作業療法士として臨床現場に出た際、社会福祉やそれに付随するサービス内容を理解し、作業療法士としての観点から対象者の目標設定を行う必要があります。対象者にとってよりよい社会復帰ができるよう社会福祉の基礎的知識は大変重要なものとなります。対象者に寄り添い信頼される作業療法士になるため、この機会に学びを深めてください。

【使用教科書・教材・参考書】
〈教科書〉なし
〈使用教材〉講義資料、ホワイトボード、ボードマーカー（黒・赤・青）

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	作業療法概論 (Introduction to Occupational Therapy)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	片山 華緒里
						実務経験	○
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日 1限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
作業療法士は身体障害児・者、精神障害児・者、発達障害児・者、老年期障害者などの身体機能の改善、生活適応の訓練、精神機能の改善、社会適応訓練などを行って、障害児・者の訓練、生活適応への援助をしている。この授業ではまず作業療法の定義・目的・歴史等作業療法の基盤となる概念について学び、各領域における作業療法士の役割や専門性について学習していく。

※実務経験
・2007年～2015年病院(回復期・亜急性期・療養)に勤務
・2015年～2016年訪問リハビリに勤務
・2018年～2021年介護保険施設に勤務

【到達目標】
作業療法の概念と役割を理解し、各領域について回復過程に沿った作業療法士の専門性を説明できる
①作業療法の歴史、定義について説明できる
②各領域における回復過程に沿った作業療法士の役割を説明できる
③地域における作業療法士の役割を体験し、説明できる。

授業計画・内容	
1回目	作業療法を学ぶにあたって
2回目	作業療法・作業の定義を説明できる
3回目	作業療法の歴史について説明できる
4回目	身体障害の作業療法について説明できる①
5回目	身体障害の作業療法について説明できる②
6回目	高次脳機能障害の作業療法について説明できる①
7回目	高次脳機能障害の作業療法について説明できる②
8回目	精神障害の作業療法について説明できる①
9回目	精神障害の作業療法について説明できる②
10回目	発達障害の作業療法について説明できる①
11回目	発達障害の作業療法について説明できる②
12回目	高齢者の作業療法について説明できる①
13回目	高齢者の作業療法について説明できる②
14回目	デイサービスにおける作業療法士の役割を説明できる①
15回目	デイサービスにおける作業療法士の役割を説明できる②

準備学習 時間外学習	体験学習では学んだことの感想を含めてまとめ、レポート提出してもらいます。
評価方法	●提出物20% ●定期試験80%
受講生へのメッセージ	これから目指す作業療法の基盤となる教科です。 授業では作業療法士の方に学校に来てもらう機会も設けています。 講義のみならず、実際の体験を通して、作業療法とは？を各自が主体的に考えてください。

【使用教科書・教材・参考書】
作業療法 ゴールドマスターテキスト　作業療法概論　メディカルビュー社
入学前から学べる！作業療法の基礎知識　滋慶出版

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名(英)	身体障害治療学Ⅱ (Occupational Therapy for Physically Disabled Ⅱ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	永田 敬生
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間(単位)	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	木曜日 3、4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

身体障害を生じる代表的疾患に対す基本的な作業療法ついて理解して、身体障害分野における各疾患ごとの作業療法が行えることが必要です。各疾患の病態、障害像、治療の実際について講義を通して学習し、本授業修了時には各疾患の特徴に応じた作業療法の説明・模倣実践ができるようになる。

＊代表的疾患(脊髄損傷、手外科、骨関節疾患、関節リウマチ、末梢神経損傷、熱傷、外傷性脳損傷、神経変性疾患(パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症等)、神経筋疾患(MS、ギランバレー症候群等)、内部障害)

※実務経験

2004年4月～2006年4月…リハビリテーション病院に所属。主業務は神経障害、運動器障害に対する回復期・維持期・終末期の作業療法を実践。

2006年5月～2007年4月…総合ケアセンターに所属し、デイサービスセンターなどに所属。主業務は高齢期障害に対する作業療法と地域における作業療法を実践。

2007年5月～2011年4月…総合病院に所属。業務はプライマリ・ケアから高度先進医療、救急医療、さらには在宅医療、予防医学に至るまで幅広く経験する。(糖尿病・代謝内科、透析内科、腎臓内科、内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、リウマチ科、心療内科、外科、消化器外科、乳腺外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、呼吸器外科、循環器外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、眼科、形成外科、精神科、救急科)

【到達目標】

身体障害を生じる代表的な各疾患の病態や特徴を学び、具体的な作業療法アプローチ(評価や治療技術)を修得し、それらについて説明・模倣実践ができる。

目標① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。
目標② 疾患ごとの予後について説明できる。
目標③ 治療原理について説明することができる。
目標④ 疾患ごとの作業療法について説明・模倣実践ができる。

授業計画・内容	
1回目	多発性硬化症について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
2回目	多発性硬化症に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
3回目	ギランバレー症候群について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
4回目	ギランバレー症候群に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
5回目	筋委縮性側索硬化症について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
6回目	筋委縮性側索硬化症に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
7回目	パーキンソン病について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
8回目	パーキンソン病に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
9回目	外傷性脳損傷について、その臨床像や障害特性や作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
10回目	関節リウマチについて、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
11回目	関節リウマチに対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる・模倣実践できる。
12回目	手外科について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
13回目	手外科に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
14回目	骨関節疾患について、臨床像や障害特性や作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
15回目	末梢神経損傷について、臨床像や障害特性や作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。

準備学習時間外学習	目標①②③④ 内科学、神経内科学、病理学、整形外科学等で学んだ臨床医学をもとに、各疾患に応じた身体障害や内部障害の臨床像と評価、アプローチなどの作業療法について理解することが必要になるため、基礎医学や臨床医学の復習とともに、本講義の予習・復習が必要である。
評価方法	模擬実践に必要な確認テストを3回実施する。定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●確認テスト(30%) ●定期テスト(70%) 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	当講義は身体障害、内部障害分野の代表的な疾患に応じた生活障害の特性や予後について学び、各疾患の特徴に応じて適切に作業療法が行えることが必要となってきます。臨床医学で学んだ疾患の特性を事前に復習して、授業に臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 改訂第3版 協同医書出版

病気が見える(脳と神経、免疫・膠原病・感染症、呼吸器、循環器、運動器・整形外科) メディックメディア

2025年度　授業概要

学科:　作業療法科

科目名（英）	発達障害治療学Ⅰ (Occupational Therapy for Developmental Disability Ⅰ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	桑原　みゆき
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	金曜日　2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
「ライフステージを通した人間理解」の中における胎児・乳児・幼児・学童期の正常発達の知識を整理し、小児の障害を引き起こす病因(脳性麻痺・重症心身障害・二分脊椎・筋ジストロフィー・分娩麻痺・自閉症スペクトラム・注意欠如多動症・学習障害)、病態生理、症候を学んだ後、作業療法の介入方法、プログラムへの応用について学習し、障害の特性に合わせた援助方法についても学習する。

※実務経験
重症心身障害児を含む入所、通園施設においてリハビリテーション部門に所属(1979～84)、リハビリテーション病院において小児疾患の外来業務(発達障害)(1991～97)地域行政の中で小児疾患の療育担当＜1991～現在＞　主業務は、小児の障害に対してのリハビリテーション(作業療法を主として)と家族指導、保育施設、学校への訪問援助を行っている。

【到達目標】
小児の障害に対して作業療法の基本的な知識を修得し、介入(治療・指導・援助)についてプログラムを考え、レポートに表すことができる。
(目標①)発達領域における作業療法の歴史、発達過程の理解、作業療法の意味、役割を理解し説明できる。
(目標②)疾患毎の生活障害、予後、作業療法の特性について説明・模擬実践できる。

授業計画・内容	
1回目	発達障害の作業療法(総論):歴史、発達障害、種類(疾患)について理解し説明できる。
2回目	(目標①)発達過程の基礎知識:姿勢・運動の発達、反射について理解し説明できる。
3回目	(目標①)発達過程の基礎知識:認知、思考技能、コミュニケーション技能について理解し説明できる。
4回目	(目標①)発達過程の基礎知識:認知、思考技能、コミュニケーション技能について理解し班学習においてまとめ発表できる。
5回目	(目標②)評価・介入:脳性麻痺者への治療・指導・援助について理解し説明できる。
6回目	(目標②)評価・介入:脳性麻痺者への治療・指導・援助について理解し説明できる。
7回目	(目標②)評価の種類:脳性麻痺者への様々な評価の種類について理解し説明できる。
8回目	(目標①)治療的アプローチ:感覚統合機能に対するアプローチについて理解し説明できる。
9回目	(目標②)神経筋疾患に対する作業療法アプローチについて理解し説明できる。
10回目	(目標②)知的障害他に対する作業療法アプローチについて理解し説明できる。
11回目	(目標②)ASD(自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群)の概要と作業療法アプローチについて理解し説明できる。
12回目	(目標②)ADHD(注意欠如多動性障害)の概要と作業療法アプローチについて理解し説明できる。
13回目	(目標②)LD(学習障害)の概要と作業療法アプローチについて理解し説明できる。
14回目	(目標②)筋ジス・二分脊椎・分娩麻痺の概要と作業療法アプローチについて理解し説明できる。
15回目	(目標②)嚥下障害の作業療法について理解し説明できる。

準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、臨床医学(正常発達と発達障害)についての理解が不可欠です。さらに解剖生理学、運動学について予習が必要です。 (目標②)各疾患に対する概要・評価・アプローチについて理解するため、復習が必要です。
評価方法	定期試験に加え、レポートや授業への取り組み、出席により評価する。 ●定期試験(80%) ●平常点(5%) ●レポート(15%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	発達障害における疾患の用語や分類、新しい治療方法が今注目されています。この授業を通し発達障害への関心と理解が深まることを望みます。

【使用教科書・教材・参考書】

(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) 発達障害作業療法学　改訂第3版　メディカルビュー

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	老年期障害治療学Ⅰ (Occupational Therapy for Elderly Disabled Ⅰ)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	片山 華緒里
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	金曜日 1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
作業療法士は身体障害児・者、精神障害児・者、発達障害児・者、老年期障害者などの身体機能の改善、生活適応の訓練、精神機能の改善、社会適応訓練などを行って、障害児・者の訓練、生活適応への援助をしている。老年期の各障害に対する作業療法の評価学、治療学で学習した知識・技術を臨床実践に繋げ、作業療法士の役割や専門性について学習していく。

※実務経験
・2007年～2015年病院（回復期・亜急性期・療養）に勤務
・2015年～2016年訪問リハビリに勤務
・2018年～2021年介護保険施設に勤務

【到達目標】
老年期障害を生じる可能性のある各疾患の病態や特徴を学び、具体的な作業療法アプローチ（評価や治療技術）を修得し、それらについて説明・模倣実践ができる。
目標① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。
目標② 疾患ごとの予後について説明できる。
目標③ 治療原理について説明することができる。
目標④ 疾患ごとの作業療法について説明・模倣実践ができる。

授業計画・内容	
1回目	糖尿病について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
2回目	糖尿病に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
3回目	心疾患について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
4回目	心疾患に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
5回目	呼吸器疾患について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
6回目	呼吸器疾患に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
7回目	脊髄小脳変性症について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
8回目	脊髄小脳変性症に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
9回目	腎疾患について、その臨床像や障害特性や作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
10回目	（総論）腫瘍と終末期がんについて、臨床像や障害特性について総論を中心に理解し、それらについて説明できる。
11回目	（総論）腫瘍と終末期がんに対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
12回目	（各論）腫瘍と終末期がんについて、臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
13回目	（各論）腫瘍と終末期がんに対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。
14回目	脊髄損傷について、その臨床像や障害特性について理解し、それらについて説明できる。
15回目	脊髄損傷に対応する、作業療法の介入の基本、評価と治療について理解し、それらについて説明・模倣実践できる。

準備学習時間外学習	目標①②③④ 内科学、神経内科学、病理学、整形外科学等で学んだ臨床医学をもとに、各疾患に応じた身体障害や内部障害の臨床像と評価、アプローチなどの作業療法について理解することが必要になるため、基礎医学や臨床医学の復習とともに、本講義の予習・復習が必要である。
評価方法	模擬実践に必要な課題を実施する。定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●課題（30%） ●定期テスト（70%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	当講義は老年期障害分野での生活障害の特性や予後について学び、各疾患の特徴に応じて適切に作業療法が行えることが必要となってきます。臨床医学で学んだ疾患の特性を事前に復習して、授業に臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】
作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 改訂第3版 協同医書出版 身体障害作業療法学2
内部疾患編（PT・OTビジュアルテキスト）羊土社
病気が見える（脳と神経、免疫・膠原病・感染症、呼吸器、循環器、運動器・整形外科） メディックメディア

2025年度　授業概要

学科:　作業療法科

科目名（英）	高次脳機能障害治療学Ⅰ (Occupational Therapy for Cognitive Dysfunction Ⅰ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中田　育男
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	火曜日　1限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
高次脳機能障害の一般的な分類と各状態像を知り、各障害に対応した代表的な検査項目、評価法や高次脳機能障害に対する作業療法の役割について、講義を通して学習し、高次脳機能障害に対する作業療法に必要な高次脳機能の概念や治療の基本が説明できるようになる。

※実務経験
1994年4月～1996年3月まで脳卒中を専門とするリハビリテーション病院に、2002年10月～2010年10月回復期リハビリテーション病棟に所属し、脳卒中患者の高次脳機能障害の評価と訓練に携わる。

【到達目標】
＜具体的な目標＞
目標①高次脳機能障害の各状態像を分類し、また具体的にイメージができるようになるとともに、それらについて説明できる。
目標②高次脳機能障害に各状態像に応じて、臨床場面で選択すべき各評価バッテリーについて理解し、それらについて説明できる。
目標③高次脳機能障害者に対する作業療法の役割を理解し、それらについて説明できる。

授業計画・内容	
1回目	高次脳機能障害とは　高次脳機能障害を引き起こす代表的な疾患について理解し、それらについて説明できる。
2回目	高次脳機能障害の特徴について、部位別、疾患別について理解し、それらについて説明できる。
3回目	高次脳機能の評価のプロセスについて理解し、それらについて説明できる。
4回目	高次脳機能の主な検査項目について理解し、それらについて説明できる。
5回目	左右大脳半球損傷の症状の特性について理解し、それらについて説明できる。
6回目	画像の基礎知識について理解し、それらについて説明できる。(その1)
7回目	画像の基礎知識について理解し、それらについて説明できる。(その2)
8回目	画像の基礎知識 グループワークを通して、代表的な画像所見とそれに結び付く高次脳機能障害について理解し、それらについて説明できる。
9回目	「注意障害」の状態像と代表的な評価法について理解し、それらについて説明できる。
10回目	「記憶障害」の状態像と代表的な評価法について理解し、それらについて説明できる。
11回目	「半側空間無視」「半側身体失認」「病態否認」の状態像と代表的な評価法について理解し、それらについて説明できる。
12回目	各障害の状態像と評価　「失語症」「失行症」の状態像と代表的な評価法について理解し、それらについて説明できる。
13回目	各障害の状態像と評価　「失認症」の状態像と代表的な評価法について理解し、それらについて説明できる。
14回目	各障害の状態像と評価　「遂行機能障害」の状態像と代表的な評価法について理解し、それらについて説明できる。
15回目	目標①～③のまとめ

準備学習 時間外学習	高次脳機能障を引き起こす代表的な疾患について知るとともに、その疾患や損傷部位別にみる臨床像について理解し説明できるために、本講義の復習が必要です。 高次脳機能障害の代表的な検査項目と、評価のプロセスについて理解し説明できるために、本講義の復習が必要です。 高次脳機能と機能局在を知るための、CTやMRIの画像解析について理解し説明できるために、本講義の復習が必要です。 高次脳機能障害の各障害ごとの状態像を知り、代表的な評価バッテリーを理解し説明できるために、本講義の予習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 成績評価は、定期試験（ほぼ100%）の割合で行うが、その他、出席率（欠席1回につき1点減点、遅刻・早退は3回につき1点減点）にて行う。
受講生への メッセージ	脳の障害によって引き起こされる高次脳機能障害は、障がいを有する方の日常生活に深く関わっています。一見目に見えない障害のように感じることもありますが、私たちが日常、高次脳機能を駆使して生活をなし得ていることに想像力を抱いていって、もしその機能が障害された時に、何に不自由し、どのような不便さを感じるのかを考えるように習慣づけていってください。

【使用教科書・教材・参考書】

高次脳機能障害学　第3版　医歯薬出版

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	身体障害治療学Ⅲ (Occupational Therapy for Physically Disabled Ⅲ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	永田 敬生
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	不定期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
本講義では、作業療法評価学および作業療法治療学で学んだ基礎知識・技術をもとにして、作業療法評価から治療計画の立案までの一連について片麻痺当事者に評価・立案・治療を実践します。

※実務経験
2004年4月～2006年4月…リハビリテーション病院に所属。主業務は神経障害、運動器障害に対する回復期・維持期・終末期の作業療法を実践。
2006年5月～2007年4月…総合ケアセンターに所属し、デイサービスセンターなどに所属。主業務は高齢期障害に対する作業療法と地域における作業療法を実践。
2007年5月～2011年4月…総合病院に所属。業務はプライマリ・ケアから高度先進医療、救急医療、さらには在宅医療、予防医学に至るまで幅広く経験する。（糖尿病・代謝内科、透析内科、腎臓内科、内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、リウマチ科、心療内科、外科、消化器外科、乳腺外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、呼吸器外科、循環器外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、眼科、形成外科、精神科、救急科）

【到達目標】
（目標①）作業療法評価の基礎知識と基本的流れを理解したうえで、作業療法評価を実践できる。
（目標②）作業療法評価で得ることができた結果など多くの情報を整理できる。
（目標③）①～③で得た情報をもとに作業療法治療の計画を立案できる。
（目標④）③で立案した作業療法治療を実践できる。また、必要に応じて自助具の制作ができる。
（目標⑤）実施した作業療法治療について適切だったか振り返りができる。

授業計画・内容	
1回目	目標① 一般情報に基づく評価計画を立案できる。
2回目	目標① 計画の通りに作業療法評価を実践できる。①
3回目	目標① 計画の通りに作業療法評価を実践できる。②
4回目	目標② ICFに基づいた「統合と解釈」をもとに「全体像」を記述できる。①
5回目	目標② 「対応すべき生活課題」を抽出できる。
6回目	目標③ 作業療法治療計画（ゴール設定、プログラム立案）を立案できる。①
7回目	目標③ 作業療法治療計画（ゴール設定、プログラム立案）を立案できる。②
8回目	目標④ 作業療法治療に必要な自助具の制作ができ、症例が使用できるような指導援助の準備ができる。①
9回目	目標④ 作業療法治療に必要な自助具の制作ができ、症例が使用できるような指導援助の準備ができる。②
10回目	目標④ 作業療法治療に必要な自助具の制作ができ、症例が使用できるような指導援助の準備ができる。③
11回目	目標④ 作業療法治療に必要な自助具の制作ができ、症例が使用できるような指導援助の準備ができる。④
12回目	目標④ クライアントのニーズに合わせて作業療法が実践できる。①
13回目	目標④ クライアントのニーズに合わせて作業療法が実践できる。②
14回目	目標⑤ 症例報告をまとめ、発表することができる。①
15回目	目標⑤ 症例報告をまとめ、発表することができる。②

準備学習 時間外学習	今までに学んだ作業療法について復習しておいてください。 片麻痺当事者の方に対して実践的に情報収集、評価、治療計画立案、治療の実施を行います。 また、症例報告をカルテ形式に実施し、治療に必要な自助具の制作、指導、援助も実践します。
評価方法	●情報収集、評価準備、評価の実施、症例報告兼カルテの作成、自助具制作、治療の実践、振り返り発表（100%）
受講生へのメッセージ	実践形式での学びとなります。 臨床実習に向けてこれまで学んだすべての知識と技術が総合的に必要となってきます。 習熟度の差により自宅学習時間に変化が出るため、自宅学習時間の確保をお願いします。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：購入したすべての教科書。図書室にある作業療法に関連する雑誌。
学術論文や研究資料を検索するためにJ-STAGEとGoogleスカラーの使用。
AIを用いた先行研究のリサーチのため、ログイン可能な状態にしておいてください。AIエージェントエンジン：genspark

2025年度 授業概要

学科: 作業療法科

科目名（英）	海外実学研修（ Overseas Fieldwork ）	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	永田 敬生
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
海外のリハビリテーションの実際について、施設などの見学を通して理解を深め、海外の医療制度やリハビリテーション専門教育の違いについて説明できる。
教育サポート校
カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校（作業療法科大学院）（アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ロサンゼルス）

※実務経験
2004年4月～2006年4月…リハビリテーション病院に所属。主業務は神経障害、運動器障害に対する回復期・維持期・終末期の作業療法を実践。
2006年5月～2007年4月…総合ケアセンターに所属し、デイサービスセンターなどに所属。主業務は高齢期障害に対する作業療法と地域における作業療法を実践。
2007年5月～2011年4月…総合病院に所属。業務はプライマリ・ケアから高度先進医療、救急医療、さらには在宅医療、予防医学に至るまで幅広く経験する。（糖尿病・代謝内科、透析内科、腎臓内科、内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、リウマチ科、心療内科、外科、消化器外科、乳腺外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、呼吸器外科、循環器外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、眼科、形成外科、精神科、救急科）

【到達目標】
国際社会における作業療法の現状と課題について説明できる。
目標①：国際社会における作業療法の課題を理解し説明することができる。
目標②：多様な文化的背景を持つ対象者の生活支援について説明することができる。
目標③：アメリカの作業療法について説明することができる。

授業計画・内容	
1回目	アメリカにおける作業療法士の現状と今後について述べることができる
2回目	グループ・ダイナミック・アクティビティーの模倣実践ができる①
3回目	グループ・ダイナミック・アクティビティーの模倣実践ができる②
4回目	パラシュート・アクティビティーの模倣実践ができる。
5回目	小児作業療法への感覚伝達処理、理論と応用について述べることができる
6回目	感覚伝達アクティビティーの模倣実践ができる
7回目	カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校施設見学にて海外の養成校を知ることができる。
8回目	Pomona Adult Day Health Care Centerにて高齢者リハビリテーションが実践ができる
準備学習 時間外学習	事前に渡航する国の作業療法過程を調べることで、海外の作業療法について理解が深まる。
評価方法	レポート課題（100%）にて成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	海外研修においては、準備の段階から海外へ行くために必要な知識であったり、文化の違いなどを知ることができる。この経験が海外へ行くことへの自信につながる。また、海外の文化を知ることで改めて日本の歴史や文化を知る良い機会となる。さらに、日本と海外の作業療法の違いを実感できることにより、多様な文化的背景を持つ対象者の生活について知ることができる。

【使用教科書・教材・参考書】

資料

2025年度　授業概要

学 科 ：作業療法科

科目名（英）	作業療法評価学Ⅱ （Evaluation Method Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	永田敬生
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期
コース						曜日・時限	月曜日3，4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

作業療法評価は対象者の観察・面接・検査・測定と対象者に関わる家族や他部門のリハビリテーションスタッフからの情報収集といった情報を収集する過程とそれを結合・解釈する過程からなる。
この授業では、評価法と各領域において使用される頻度の高い検査・測定法を中心に知識を得るとともに、評価が実践できるようになり、作業療法計画の立案のために情報を記録し、検査結果から得た情報の統合と解釈ができるようになる。
※実務者経験：
2004年4月～2006年4月までリハビリテーション病院に所属。主業務は神経障害、運動器障害に対する回復期・維持期・終末期の作業療法を実践。
2006年5月～2007年4月まで総合ケアセンターに所属し、デイサービスセンターなどに所属。主業務は高齢期障害に対する作業療法と地域における作業療法を実践。
2007年5月～2011年4月まで総合病院に所属。業務はプライマリ・ケアから高度先進医療、救急医療、さらには在宅医療、予防医学に至るまで幅広く経験する。（糖尿病・代謝内科、透析内科、腎臓内科、内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、リウマチ科、心療内科、外科、消化器外科、乳腺外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、呼吸器外科、循環器外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、眼科、形成外科、精神科、救急科）

【到達目標】

基本的な領域共通の評価するための検査について、その意義と実際を学ぶ。
徒手筋力検査、関節可動域検査、神経学的検査などの目的や適用について知り、手技を修得する。
目標①：関節可動域測定ができる
目標②：徒手筋力検査ができる
目標③：反射検査ができる
目標④：姿勢反射検査ができる

授業計画・内容	
1・2回目	オリエンテーション、関節可動域測定について説明ができ、実践することができる。
3・4回目	関節可動域測定について説明ができ、実践することができる（上肢）
5・6回目	関節可動域測定について説明ができ、実践することができる（下肢）
7・8回目	関節可動域測定について説明ができ、実践することができる（頭頸部、体幹）
9・10回目	筋力テスト（GMT）、徒手筋力検査（MMT；頸部・体幹）について説明ができ実践することができる。
11・12回目	徒手筋力検査（MMT；頸部・体幹）について説明ができ実践することができる。
13・14回目	徒手筋力検査（MMT；下肢）について説明ができ実践することができる。
15・16回目	徒手筋力検査（MMT；下肢）について説明ができ実践することができる。
17・18回目	徒手筋力検査（MMT；下肢）について説明ができ実践することができる。
19・20回目	徒手筋力検査（MMT；上肢）について説明ができ実践することができる。
21・22回目	徒手筋力検査（MMT；上肢）について説明ができ実践することができる。
23・24回目	徒手筋力検査（MMT；上肢）について説明ができ実践することができる。
25・26回目	徒手筋力検査（MMT；上肢）について説明ができ実践することができる。
28・28回目	反射検査（腱反射検査、病的反射検査、表在反射検査）について説明ができ、実践することができる
29・30回目	姿勢反射検査ついて説明ができ、実践することができる

準備学習 時間外学習	実技中心の授業となるため、事前に予習を行い、既習科目について、実技に必要な知識を得ておく。 授業終了後には必ず学生間で練習を繰り返し、自然と体が動くようになるまで練習が必要である。
評価方法	評価法と各領域において使用される頻度の高い検査・測定法の実践に必要な確認テストを3回実施する。（ROM、MMT下肢・体幹、MMT上肢） 定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●実技テスト（80%） ●定期テスト（20%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	当講義は作業療法の基礎的な評価を学ぶ授業であり、実技に関しては必ず実践できる必要があるが、授業時間内で修得するには難しく、十分な時間外学習を推奨します。

【教科書】
・標準作業療法学　作業療法評価学．医学書院
・ベッドサイドの神経の診かた．南山堂
・新・徒手筋力検査法．協同医書

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	基礎作業学Ⅱ（Occupational Therapy Skills Ⅱ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	後藤拓見
						実務経験	○
コース		授業形態	実技	総時間（単位）	60 2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日　3・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

作業療法はその名前の通り、治療手段として様々な作業を用いる。作業の意味するものは広範囲にわたるが、この授業では手工芸のうち、臨床場面でよく用いられる基本的な数種目について学んでいく。作業療法士として治療に用いていくには、その作業に必要な道具・材料・制作工程をまず理解しておくことが必要である。この授業では、まず基本的な作業種目について、必要な道具・材料・工程について理解し、実際に作品制作ができるようにしていく。そのうえで各作業種目の治療的効果、ならびに応用的展開について考える。

実務経験：精神科デイケア勤務（2013～2015）、精神科病院勤務（2015～2018）

【到達目標】

作業療法の治療手段としての基本的な作業種目について、必要な道具や材料・工程等、制作に関する知識を修得し、実際に制作できるようになる。実技した作業種目に関して、その治療的活用を説明できるようになる。

<具体的な目標>

目標①各種作業の道具・材料・作業工程の知識を修得し、作品制作ができる。

目標②各作業種目の治療的効果が説明でき、作業の治療的展開、応用方法を考えることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①②）革細工コースターをスタンピング技法により制作できる。革細工に用いる道具・材料、作業工程、ならびに必要な身体的・精神的機能を説明できる。
3・4回目	（目標①②）革細工小銭入れをカービング技法による制作できる。カービングに用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
5・6回目	（目標①②）革細工小銭入れをカービング技法による制作できる。カービングに用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
7・8回目	（目標①②）木工作業による自助具（片手用爪切り）が制作できる。木工作業に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
9・10回目	（目標①②）木工作業による自助具（片手用爪切り）が制作できる。木工作業に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
11・12回目	（目標①②）モザイクによるコースターが制作できる。モザイクに用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
13・14回目	（目標①②）銅板細工による表札が制作できる。銅板細工に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
15・16回目	（目標①②）銅板細工による表札が制作できる。銅板細工に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
17・18回目	（目標①②）陶芸のひもづくりによる作品が制作できる。陶芸に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
19・20回目	（目標①②）陶芸のたたらづくりによる作品が制作できる。陶芸に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
21・22回目	（目標①②）陶芸の電動ろくろによる作品が制作できる。陶芸に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
23・24回目	（目標①②）陶芸の素焼き作品に絵付け、釉薬がけができる。窯での素焼き、本焼きの方法を説明できる。陶芸に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
25・26回目	（目標①②）エコクラフトによるかごが制作できる。エコクラフトに用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
27・28回目	（目標①②）てん刻による印鑑が制作できる。てん刻に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
29・30回目	（目標①②）集団を用いた貼り絵作品づくりができる。貼り絵に用いる道具・材料、制作工程、ならびに必要となる身体的・精神的機能を説明できる。
準備学習時間外学習	目標①・②実技で制作した作業種目について、用いた道具・材料・制作工程を振り返るとともに、その作業の治療的活用、展開の工夫をレポートとしてまとめてもらいます。
評価方法	制作作品や実技後のレポートにて知識・技能の到達評価を行う。 ●実技での制作作品（50%） ●レポート（50%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	作業療法で用いる作業活動はきれいに制作することが目的ではありませんが、授業ではまずは丁寧になるべく出来栄えの良いものができるよう取り組んでほしいと思います。初めて行う作業が多いと思いますが、きっと作業療法の楽しさが感じられるはずです。制作を通して、"右手がつかえなかったとしたらどのように工夫したらできるだろうか？" といったことや、"作業をやっている自分は今どのように感じているか？"などいろいろなことを考えながら実技に取り組んでもらえたらと思います。授業に欠席すると作品提出ができなくなるので、体調管理に気を付けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：古川 宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル. 医歯薬出版株式会社

2025年度　授業概要

学 科 ：　作業療法科

科目名（英）	作業療法評価学Ⅰ (Evaluation Method Ⅰ)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	片山 華緒里
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 / 4	開講区分	後期
コース						曜日・時限	水曜 1・2限

【授業の学習内容】 （※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法評価の基本として、その定義、目的、流れについて説明します。同時に作業療法評価を実施するうえで必要不可欠な知識となる「国際生活機能分類（ICF）」についても解説します。これに次いで、身体障害分野の作業療法で主に用いられる各検査・測定の目的と実施方法について実習を交えながら解説します。これが一通り終わったら、ICFに基づいた作業療法評価結果の整理の方法（対応すべき生活課題の抽出）、治療計画の立案に関わる基本的な考え方を教授します。

＊実務者経験
・2007年～2015年病院（回復期・亜急性期・療養）に勤務
・2015年～2016年訪問リハビリに勤務
・2018年～2021年介護保険施設に勤務

【到達目標】
①作業療法評価の定義、目的、段取りを説明できる
②主な身体障害分野の作業療法で主に用いられる検査・測定方法の目的と手順・留意点を説明できる
③作業療法評価の結果を整理して作業療法士が対応するべき生活課題を抽出する方法を説明できる
④治療計画（ゴール設定やプログラム立案）を立てる方法を説明できる

授業計画・内容	
1・2回目	オリエンテーション、評価は「いつ、どこで、誰に、何のために」行われるか理解でき、ICFの概念図について概略を説明できる
3・4回目	評価の過程を説明できる
5・6回目	情報収集、面接・観察は、いつ何をするか方法と注意点を説明できる 検査・測定の定義と種類、条件を説明できる
7・8回目	意識状態、バイタル測定の主なものについて、その目的と方法、注意点を説明できる（実技）
9・10回目	形態測定について、その目的と方法、注意点を説明できる（実技）
11・12回目	関節可動域テスト、筋力テスト（MMT、GMT）の目的と方法、注意点を説明できる 知覚テストの目的と方法、注意点を説明できる（実技）
13・14回目	上肢機能テストの目的と方法、注意点を説明できる（実技）
15・16回目	姿勢反射、協調性検査の主なものについて、その目的と方法、注意点を説明できる（実技）
17・18回目	筋緊張検査、反射検査について、その目的と方法、注意点が説明できる（伸張反射、表在反射、病的反射）（実技）
19・20回目	脳神経と主な機能について、その目的と方法、注意点を説明できる
21・22回目	高次脳機能検査のうち主要なものを列挙し、その目的と方法、注意点を説明できる 身体障害分野で用いられる主な精神・知能テストを列挙して、その目的と方法、注意点を説明できる
23・24回目	ADLの評価方法であるBIとFIMの特徴、目的、方法を説明できる QOL評価について主なものを列挙して、その目的と方法を説明できる
25・26回目	作業療法評価として実施した検査・測定の結果を取りまとめて、対象者の現状である「全体像」を導き出す方法と考え方を説明できる
27・28回目	対象者の「全体像」から作業療法士が「対応するべき生活課題」を抽出する方法を説明できる
29・30回目	対象者の「対応するべき生活課題」から、「ゴール設定」、「プログラム立案」を導き出す方法と考え方を説明できる
準備学習 時間外学習	この授業では検査・測定方法をお伝えしますが、その情報量は多いです。毎回の授業を聞くだけでは、授業内容を理解することは困難だと思います。したがって、時間外学習として、毎回の授業で予習あるいは復習の課題を配布します。これを次回の授業までに必ず実施しておいてください。
評価方法	課題（予習・復習）（30%） 定期試験（記述試験）（70%）
受講生へのメッセージ	本講義で学ぶ作業療法評価は、作業療法の開始時と節目節目で必ず実施される最も重要な過程です。本格的な作業療法の方法を学ぶ科目になりますので、強い関心を持って授業に臨むことを期待しています。また、これまでに学んだ運動学や解剖生理学の応用となりますので、授業の際にこれらの科目の復習も実施して授業内容が深くできると思います。 ※本講義では、検査・測定方法の目的や方法をお伝えするときに実技を行います。この時は、購入した「実習着」「実習靴」を着用し、購入した検査用具を持参してください。

【使用教科書・教材・参考書】
矢谷令子（監：標準作業療法学 作業療法評価学. 医学書院）
作業療法技術ガイド　第4版　文光堂
ベッドサイドの神経の診かた　南江堂

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	老年期障害治療学Ⅱ (Occupational Therapy for Elderly Disabled Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	片山華緒里
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	金曜日・1 限

jigenn

老年期における身体的、精神的特徴、内部障害、廃用症候群、認知症などの疾患や障害の特性や状態像を把握し、作業療法実践の基本的枠組みやその過程について学習し、本授業修了時には各々の説明ができるようになる。

＊実務者経験

・2007年～2015年病院（回復期・亜急性期・療養）に勤務

・2015年～2016年訪問リハビリに勤務

・2018年～2021年介護保険施設に勤務

【到達目標】

＜具体的な目標＞

目標①　高齢化の進展と社会的施策の変遷、老年期の課題について理解し、それらについて説明できる。

目標②　老年期の身体的、精神的特性、主な疾患やリスク、その課題や老年期を支える社会制度を把握し、それらについて説明できる。

目標②　老年期の障害、内部障害、廃用症候群、認知症などに対する作業療法の過程を知り、病気の経過やその治療、援助方法について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	高齢者とは？高齢社会とは？　我が国の高齢化率の推移、高齢期の特徴、高齢者への社会施策の変遷について理解し、説明することができる。
2回目	高齢者の生理的・身体的特徴の総論、「老い」の受容　について理解し、説明することができる。
3回目	高齢者の就業意識と余暇活動、高齢者の地域での役割、高齢期の悩みなどの課題、高齢者を守る法律などについて理解し、説明することができる。
4回目	高齢期に特異的な「廃用症候群」「フレイル」「サルコペニア」などの用語を知り、高齢期作業療法の目的、役割と機能について理解し、説明することができる。
5回目	高齢期の生理的・身体的特徴について　生理的機能の加齢変化、循環器系の機能、腎機能、神経系の加齢変化について理解し、説明することができる。
6回目	高齢期の生理的・身体的特徴について　呼吸器系、消火器系、内分泌系、運動器（筋・骨格）系、血液および造血系、生殖器系の加齢変化について理解し、説明することができる。
7回目	高齢期の生理的・身体的特徴について　知能、記憶と学習、感情と情緒、人格特性などの加齢変化について理解し、説明することができる。
8回目	高齢期に多い疾患　循環器系疾患を中心に　虚血性心疾患、心不全、不整脈などの病態を知り、心臓リハビリテーションにおける作業療法士の役割、各種評価と目標設定、指導、訓練の概要について理解し、説明することができる。
9回目	高齢期に多い疾患　呼吸器系疾患を中心に　肺炎、慢性閉塞性肺疾患COPD、肺癌などの病態について理解し、説明することができる。
10回目	高齢期に多い疾患　呼吸器系疾患を中心に　呼吸器リハビリテーションにおける作業療法士の役割、各種評価と目標設定、指導、訓練の概要について理解し、説明することができる。
11回目	高齢期に多い疾患　認知症を中心に　定義、特徴、病型分類、原因疾患、中核症状とBPSDなどの病態について理解し、説明することができる。
12回目	高齢期に多い疾患　認知症を中心に　アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病などの病態像、特徴、互いの相違点について理解し、説明することができる。
13回目	高齢期に多い疾患　認知症を中心に　接し方の原則、在宅介護支援のコツ、認知症の予防と薬物療法、認知症作業療法の目的について理解し、説明することができる。
14回目	高齢期に多い疾患　認知症を中心に　作業療法評価と目標設定、計画、方法と活動、リハビリ実施の際の注意点、症状別対応について理解し、説明することができる。その1
15回目	目標①～③の確認、まとめ
準備学習 時間外学習	2年時に学んだ「老年学」をもとに、高齢化の進展や老年期における社会的施策の変遷、老年期の課題などをさらに深く知り説明できるために、事前の復習とともに、本講義の復習が必要です。 2年時に学んだ「内科学」をもとに、高齢期の身体的、精神的特徴と老年期に多い内科的疾患とリスクについて説明できるために、事前の復習とともに、本講義の復習が必要です。 内部障害、廃用症候群、認知症など老年期に多い各疾患と障害に対するアプローチを説明できるために、本講義の復習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 成績評価は、定期試験（100%）
受講生へのメッセージ	老年期における作業療法の発展は、世界的にも最長寿となり将来的にもさらに拡大する高齢社会の我が国にあって、喫緊の社会的要請の高い命題です。将来病院や施設で作業療法に従事する皆さんにとっても、最も多く接するであろう対象者の世代です。そのために老年期の障害の特性を知り、老年期に多い内部障害や廃用症候群、認知症といった疾患へのアプローチについて、基本的な知識を修得する必要があります。

【使用教科書・教材・参考書】

標準作業療法学　専門分野　「高齢期作業療法学」　医学書院

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	国際教育学Ⅱ International EducationⅡ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	片山　華緒里
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース						曜日・時限	月曜・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

国際教育学Ⅱは臨床現場において、多職種間での患者の情報共有時に多く用いられている。また、カルテ・処方箋などにも使用されているため、医療人として学習の必要がある。
授業は講義形式で実施する。配布資料に記載された基本的な解剖学用語、関連する疾患・疾病の専門用語を修得する。

＊実務者経験
・2007年～2015年病院（回復期・亜急性期・療養）に勤務
・2015年～2016年訪問リハビリに勤務
・2018年～2021年介護保険施設に勤務

【到達目標】

作業療法士として知っておくべき基本的な解剖学用語、関連する疾患・疾病の専門用語について意味を理解し、説明できるようになる。また、学習した用語を記述・発音できるようになる。
〈具体的な目標〉
目標①基本的な解剖学用語（骨、筋肉、神経、体位、方向など）を覚え、記述・発音ができる。
目標②疾患に関する用語、臨床現場で多く使用する用語を覚え、記述・発音ができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）体の位置・方向・動きに関する用語を覚え、記述・発音ができる。
2回目	（目標①）骨に関する用語を覚え、記述・発音ができる。
3回目	（目標①）上肢の筋肉に関する用語を覚え、記述・発音ができる。
4回目	（目標①）下肢の筋肉に関する用語を覚え、記述・発音ができる。
5回目	（目標①）神経に関する用語を覚え、記述・発音ができる。
6回目	（目標②）疾患に関する用語を覚え、記述・発音ができる。
7回目	（目標②）臨床現場で多く使用する用語を覚え、記述・発音ができる。
8回目	目標①②のまとめ
準備学習 時間外学習	●基本的な解剖学用語や疾患に関する医学英語を習得するため、解剖学についての予習が必要です。 ●国際教育学Ⅱを記憶に定着させるため、毎回の授業の復習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識の到達評価を行う。 ●定期試験（100%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	単に英語を暗記するのではなく、その用語の意味を理解することが重要です。解剖学で学んだ知識と結びつけながら学んでいきましょう。 多くの用語を覚える必要があるため、授業後の復習を必ず行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：岡田　栞　他：最新医学用語演習．南雲堂
清水雅子：リハビリテーションの基礎英語．メジカルビュー社
青野淳子：やさしい医学英語．医学書院
中尾俊治：ステッドマン医学大辞典．メジカルビュー社

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	基礎作業学 Ⅲ Occupational Therapy SkillsⅢ	必修選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	長嶺元気 ○
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	15 1	開講区分 曜日・時限	前期・後期 不定期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

作業療法の治療手段としての様々な作業活動を通して治療や応用を学習する。班で症例を具体的に想定し、作業活動を用いた治療の実際を指導的立場として模擬的に実施する。机上課題とレク課題の作業活動を立案し実施する事ができる。

実務経験：

2007年4月～2014年3月

整形外科病院に勤務、肩関節・肘関節・手関節、各関節専門の整形外科医の元で急性期・回復期リハビリテーションに従事し、医師の指示を受け、投球障害等を含むアスリートリハビリの経験を積み、一般整形～スポーツ障害の予防事業（障害予防教室）なども経験。ハンドセラピィの専門医と協働し、再接着手術後のリハビリテーション等、専門的な実務を積む。また、高齢者病棟（後期高齢者リハビリ、社会的入院の方々への対応等）では、日々集団体操を行うこと、四季に応じたレクリエーションを企画するなどし、運動器リハを主軸としたレクリエーション活動に従事。

2014年4月～2023年3月

株式会社MAHALO勤務。通所介護サービス、訪問看護、保険外事業開設を行い、在宅・地域リハビリテーションに従事。脳血管障害（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）、パーキンソン病、各種整形疾患、循環器疾患、認知症（アルツハイマー型、脳血管型、レビー小体型）、在宅訪問看護、ターミナルケアを含めた生活期リハ作業療法を実践してきた。

【到達目標】

作業活動の基本的技能、道具類の管理、禁忌事項について理解し、指導できるようになる。作業活動の一般的特性、治療的利用について理解し説明できる。机上課題とレク課題の作業活動を考えることができる。

＜具体的な目標＞

(目標①)障害の病態、課題について理解し、病態に則した作業活動を立案することができる。

(目標②)立案した作業活動を模擬患者に実施する事ができる。模擬患者をする学生は障害の病態を理解し則した行動をすることができる。

(目標③)立案した作業活動を臨床現場にて実際に実施することができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：授業内容・目的について理解することができる。到達目標を理解し、治療計画書作成～事前準備～プレ発表～本番までのイメージを作る
2回目	(目標①)班ごとに対象障害像を硬め、アプローチする方向性（狙い）をグループ内で共有し治療計画書に着手する（準備期間の過ごし方をイメージしスケジュールする）。
3回目	(目標①②) グループワーク ※ 治療計画書の作成　～ レクレーション活動実施に向けた準備を具体化する ～ 活動分析する症例の障害像を想定することができ、想定した症例情報から統合し対応すべき生活課題を上げることができる。模擬症例に即した作業活動を立案することができる。
4回目	(目標①②) グループワーク ※ 治療計画書の提出　～ レクレーション活動実施に向けた準備開始 ～ 立案した作業活動において目的・方法・段階付け・注意事項・OTSの介助内容など具体的に想定できる。立案した作業活動を実施するための適切な準備を行うことができる。
5回目	(目標①②) グループワーク ※ 治療計画書の提出　～ レクレーション活動実施に向けた準備開始 ～ 立案した作業活動において目的・方法・段階付け・注意事項・OTSの介助内容など具体的に想定できる。立案した作業活動を実施するための適切な準備を行うことができる。
6回目	(目標①②) グループワーク ※ 治療計画書の提出　～ レクレーション活動実施に向けた準備開始 ～ 立案した作業活動において目的・方法・段階付け・注意事項・OTSの介助内容など具体的に想定できる。立案した作業活動を実施するための適切な準備を行うことができる。
7回目	(目標①②) 立案した治療計画書の内容について発表することができる　～ レクレーション活動実施に向けた準備開始 ～ 模擬患者に対し作業活動を実施する事ができる。また病態を理解し模擬患者役を実施する事ができる。
8回目	(目標③)臨床現場において、地域の皆様を対象に、各班実際に立案した作業活動を実施する。※ 各班ごとの開催となるため、発表班＋補助班で本番を行う。
準備学習時間外学習	(目標①)1・2年生で学んだ疾患についての病態と生活課題に対し、作業活動立案、統合させる必要があります。これまで教わった疾患の予習をしておいてください。 (目標②)発表する人は、症例を想定し、必要な援助を考えて実施して下さい。発表を聞く側が症例になりますので、聞く側も疾患の病態を理解し、どのような病態が現れるか想定した上で模擬患者になってください。
評価方法	計画書、発表、レポートとその課題に対する取り組み（他のグループ発表時の模擬患者役も含む）を評価する。 ●発表および授業態度（50%） ●治療計画書（30%） ●レポート（20%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	作業療法士は作業を用いて治療を行います。『ひとは作業をすることで元気になれる』をモットーに、作業活動を治療として用いる為の考え方を学びましょう。また、グループで計画を立て作業活動を実施するため、一人一人が主体性を持って役割分担を明確にし、ときにリーダーシップを発揮しながら協調性をもって授業に取り組んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：日本作業療法士協会：作業-その治療的応用. 協同医書出版社

寺山 久美子：レクリエーション・社会参加を促す治療的レクリエーション. 三輪書店

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	運動学Ⅱ（Kinesiology　Ⅱ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	長嶺　元気
						実務経験	○
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

人体の基本的な構造、運動を理解することは、臨床で診る視点に繋がります。身体は大きく上肢、下肢、体幹に分かれます。本講義では手指と下肢の基本構造と機能、運動力学、さらに身体運動の機構について学び、運動を理解するための基礎知識を学びます。運動学Ⅱでは、手指、下肢の関節名とその構造と運動、その器官に関与する靭帯などの構造物、上肢筋の起始停止作用について説明できるようになる。

実務経験：

2007年4月～2014年3月

整形外科病院に勤務、肩関節・肘関節・手関節、各関節専門の整形外科医の元で急性期・回復期リハビリテーションに従事し、医師の指示を受け、投球障害等を含むアスリートリハビリの経験を積み、一般整形～スポーツ障害の予防事業（障害予防教室）なども経験。ハンドセラピィの専門医と協働し、再接着手術後のリハビリテーション等、専門的な実務を積む。また、高齢者病棟（後期高齢者リハビリ、社会的入院の方々への対応等）では、日々集団体操を行うこと、四季に応じたレクリエーションを企画するなどし、運動器リハを主軸としたレクリエーション活動に従事。

2014年4月～2023年3月

株式会社MAHALO勤務。通所介護サービス、訪問看護、保険外事業開設を行い、在宅・地域リハビリテーションに従事。脳血管障害（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）、パーキンソン病、各種整形疾患、循環器疾患、認知症（アルツハイマー型、脳血管型、レビー小体型）、在宅訪問看護、ターミナルケアを含めた生活期リハ作業療法を実践してきた。

【到達目標】

運動に必要な力学、機能解剖学、筋収縮や運動機能などに関する運動学の基礎知識を学び、正常運動を理解する。上肢・手指・骨盤帯・大腿・膝関節・下腿・足部の運動と機能、作用する筋について説明することができる。

＜具体的な目標＞

目標①前期に行った上肢・手指の運動について復習し理解・説明することができる

目標②骨盤帯の運動について説明することができる

目標③股関節の運動について説明することができる

目標④膝関節の運動について説明することができる

目標⑤足関節の運動について説明することができる

授業計画・内容	
1回目	（目標①）前期で学習した上肢・手指の関節名と機能について説明できる
2回目	（目標②）下肢帯の関節運動について説明できる
3回目	（目標②）骨盤の構造について説明できる
4回目	（目標③）股関節の関節運動・靭帯名とその機能について説明できる
5回目	（目標③）股関節の筋の起始停止作用について説明できる
6回目	（目標②③）下肢帯・股関節のまとめ（小テスト）
7回目	（目標④）膝関節の構造について説明できる
8回目	（目標④）膝関節の関節運動・靭帯名とその機能について説明できる
9回目	（目標④）膝関節の筋の起始停止作用について説明できる
10回目	（目標④）膝関節のまとめ（小テスト）
11回目	（目標⑤）足関節の構造について説明できる
12回目	（目標⑤）足関節の関節運動・靭帯名とその機能について説明できる
13回目	（目標⑤）足関節の筋の起始停止作用・足の変形について説明できる
14回目	（目標⑤）足関節のまとめ（小テスト）
15回目	②～⑤のまとめ
準備学習 時間外学習	（目標①）前期で学習した上肢・手指の運動メカニズムや制限因子などについて復習します。解剖学の知識である上肢・手指を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です （目標②）各論では骨盤帯の運動のメカニズムや制限因子などについて学びます。解剖学の知識である骨盤帯を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です （目標③）各論では股関節の運動のメカニズムや制限因子などについて学びます。解剖学の知識である股関節を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です （目標④）各論では膝関節の運動のメカニズムや制限因子などについて学びます。解剖学の知識である膝関節を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です （目標⑤）各論では足関節の運動のメカニズムや制限因子などについて学びます。解剖学の知識である足関節を構成する関節名、関与する靭帯、筋の復習が必要です
評価方法	確認テストを実施する。定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●小テスト（15%） ●定期テスト（85%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	身体の仕組みを学ぶ上で運動学、解剖生理学はベースとなる大切な科目です。 今後疾患を学ぶ上でこれらの科目の基礎となります。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：　基礎運動学　（第6版　補訂）　医歯薬出版

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	義肢装具学 (Prosthetics and Orthotics)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	長嶺元気
						実務経験	○
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

義肢が必要な四肢を欠損した者や装具で身体各部位の保護やアライメントの保持・矯正・修正が必要な者に対して補装具を用いることで、生活機能の改善や維持を可能にするために、義肢装具学を学ぶ必要がある。そこで、義肢装具に関わる基本的な作業療法について理解する必要がある。
○義肢に関しては切断・離断の部位名称が言えることができ、評価が行えるようになる。 また、上肢・前腕義手の部品の名称や適合判定を覚え、作業療法（使用訓練）が模擬実践できるようになる。
○装具に関しては神経麻痺や上肢・手指の変形など各疾患をイメージすることができ、それに対応する装具（スプリント）を選定することができるようになり、スプリント作成ができるようになる。
※実務者経験（2007年4月～2014年3月）整形外科病院に勤務、肩関節・肘関節・手関節、各関節専門の整形外科医の元で急性期・回復期リハビリテーションに従事し、医師の指示を受け、投球障害等を含むアスリートリハビリの経験を積み、一般整形～スポーツ障害の予防事業（障害予防教室）なども経験。ハンドセラピィの専門医と協働し、再接着手術後のリハビリテーション等、専門的な実務を積む。また、高齢者病棟（後期高齢者リハビリ、社会的入院の方々への対応等）では、日々集団体操を行うこと、四季に応じたレクリエーションを企画するなどし、運動器リハを主軸としたレクリエーション活動に従事。（2014年4月～2023年3月）株式会社MAHALO勤務。通所介護サービス、訪問看護、保険外事業開設を行い、在宅・地域リハビリテーションに従事。脳血管障害（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）、パーキンソン病、各種整形疾患、循環器疾患、認知症（アルツハイマー型、脳血管型、レビー小体型）、在宅訪問看護、ターミナルケアを含めた生活期リハ作業療法を実践してきた。

【到達目標】

義肢装具に関する基本的な作業療法について説明できる。また、各疾患に応じた義肢装具が選定でき、スプリントの作成が行える。
目標①　義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる。
目標②　切断について説明ができ、義肢の基本構造と各種名称について理解し、評価・訓練ができる。また、義肢の適合判定を行うことができる。
目標③　装具について説明できる。また、装具の目的を理解し、各疾患に応じた装具が選定できる。
目標④　スプリントについて説明でき、作成することができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）義肢とは何か、装具とは何か説明ができ、義肢装具の使用者に対する作業療法の理念と役割を説明できる
2回目	（目標②）上肢・下肢切断について説明することができる
3回目	（目標②）義肢の構成要素と機能を学び基本構造について説明することができる（手先具、幹部、継手）
4回目	（目標②）義肢の構成要素と機能を学び基本構造について説明することができる（ソケット、ｺﾝﾄﾛｰﾙｹｰﾌﾞﾙｼｽﾃﾑ、ハーネス）
5回目	（目標②）義肢の適合判定について説明することができる
6回目	（目標②）仮義手、本義手の評価及び訓練方法が理解でき、模擬実践できる。
7回目	（目標②）筋電義手の構成要素を理解し、訓練方法について説明できる
8回目	（目標③）装具の定義とスプリントの違いが説明でき、リハビリテーション医学における装具の位置づけを述べることができる。
9回目	（目標③）体幹装具の構成要素と機能を理解し、目的について説明できる。また、各疾患に応じた体幹装具を選定できる
10回目	（目標③）上肢装具の構成要素と機能を理解し、目的について説明できる。また、各疾患に応じた上肢装具を選定できる
11回目	（目標③）各疾患に応じた装具の特徴や目的について説明できる（脊髄損傷、関節リウマチ、末梢神経損傷、）
12回目	（目標③）各疾患に応じた装具の特徴や目的について説明できる（脳血管障害、腱損傷、骨折等）
13回目	（目標④）スプリントの作成手順が説明でき、実際に作成することができる
14回目	（目標②③）下肢切断、義足、下肢装具について説明することができる。また、各疾患に応じた下肢装具を選定できる①
15回目	（目標②③）下肢切断、義足、下肢装具について説明することができる。また、各疾患に応じた下肢装具を選定できる②
準備学習時間外学習	目標①②③ ・切断について理解するためには人体の骨格構造の理解が必要になるため、解剖学の復習が必要です。また、各疾患に応じた義肢装具を選定する必要があるため、病理学、内科学、神経内科学、整形外科学などの臨床医学の復習が必要です。 ・義肢装具は構成要素など各部名称を覚えることが多いため、授業後にテキストの図や実際の模型を用いて復習が必要です。 目標④ ・スプリントを製作する上で、手の機能の理解が必要となるため、機能解剖学や運動学の予習が必要です
評価方法	●確認テスト（30%）：切断、義肢装具の基本構造、適合検査について確認テストを実施する。 ●定期テスト（50%）：基本的な知識の到達評価を行う ●スプリント作成（20%）：カックアップスプリントを作成し完成度合いで評価する。 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	当講義は部品の名称や構成要素などの名称とイメージを合わせて覚えることが必要なため、実際にある義肢装具に触れながら復習してください。 適応疾患別に適した装具を選定する必要があるので、代表的な疾患は事前に予習・復習しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

①作業療法学全書［改定第3版］第9巻　作業療法技術学1義肢装具学　共同医書出版社

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	精神障害治療学Ⅰ (Occupational Therapy for Mentally Disabled Ⅰ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	春口　春奈
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	水曜日　1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

精神障害のある人たちに対する作業療法のプロセスには、他領域の作業療法と同様に、作業療法の導入-初期評価-目標設定-作業療法計画立案-作業療法実施-再評価という一連の流れがある。しかし、精神認知機能に障害がある人に対しては、身体機能の支障とは異なる視点を持つ必要がある。この授業では、精神科作業療法の歴史を振り返ったうえで、精神分野における作業療法実践、評価の概要を学習する。特に評価の中心となる観察、面接については、評価の視点を演習を交えながら理解し、記録できるようにしていく。

※実務経験
　総合病院勤務（2007～2013）、精神科病院勤務（2013～2024）

【到達目標】

目標①精神医療の歴史の中での作業療法の起源を理解し、日本における精神障害作業療法の流れを説明できる。

目標②精神科作業療法の治療構造や一連の実践プロセスを説明できる。

目標③精神障害における評価の特性を説明できる。評価方法・評価項目を説明できる。

目標④基本的なカウンセリング技法を理解し、インテーク面接、作業面接が行える。

目標⑤外観ならびに行動観察の視点を理解し、記録の原則にもとづき、観察したことを適切に記録することができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）精神科医療の現状について理解し、精神科作業療法の概要について説明できる。
2回目	（目標①）精神医療の歴史と作業療法の起源、推移について説明できる。
3回目	（目標②）精神科作業療法の治療構造について説明できる。
4回目	（目標②）精神科作業療法の実践の場について説明できる。
5回目	（目標②）精神科作業療法のプロセスについて説明できる。
6回目	（目標③）情報収集の方法について説明できる。
7回目	（目標④）インテーク面接、作業面接の目的、留意点について説明できる。
8回目	（目標④）面接環境や位置関係に配慮し、面接を行うことができる。
9回目	（目標⑤）外観の観察の視点を理解し、そこから得られる情報を説明できる。
10回目	（目標⑤）作業遂行機能評価表を用いて、観察した情報を記録としてまとめることができる。
11回目	（目標③）精神障害における評価の特性と評価方法・項目について説明できる（LASMI、Rehab、BPRSCOPM、OSA、興味チェックリストなど）。
12回目	（目標②）作業療法計画の立案、治療実施の方法について説明できる
13回目	（目標②）回復過程に応じた作業療法の役割について説明できる。
14回目	（目標②）回復段階に応じた作業療法の計画をたてる。
15回目	目標①～⑤のまとめ
準備学習時間外学習	（目標①～⑤）精神科作業療法における面接、観察、評価等を学ぶためには、精神疾患の障害特性を理解することが必要です。そのため、精神医学の復習に取り組んでください。また、定期試験に向けて毎回の授業の復習も行ってください。 （目標④・⑤）面接、観察の演習後にはレポート提出を求めます。
評価方法	定期試験や演習後の提出課題にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験（80%） ●提出課題（20%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	精神疾患により生活のしづらさを抱える対象者にとって、作業療法士は生活を豊かに変化させてくれる必要不可欠な存在です。対象者に合った作業療法を実施するためには、精神科作業療法の一連のプロセスを理解し、様々な評価を通して全体像をまとめ、作業療法計画を立案する必要があります。この授業を通して、精神分野の作業療法に少しでも興味を持ってもらえると嬉しいです。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：日本作業療法士協会：作業療法学全書　作業治療学2　精神障害．協同医書出版社
参考書：山根寛：精神障害と作業療法．三輪書店
　　堀田英樹・他：精神疾患の理解と精神科作業療法．中央法規
　　長崎重信：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学．メジカルビュー社
教材：パソコン、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	精神障害治療学Ⅱ (Occupational Therapy for Mentally Disabled Ⅱ)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	春口　春奈
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	60 4	開講区分	後期
コース						曜日・時限	火曜日3・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

精神科の疾患には統合失調症をはじめ、うつ病、双極性障害、不安・ストレス関連障害、依存症、パーソナリティ障害等、様々な疾患があり、そうした疾患のために生きづらさをかかえる方を作業療法士は支援していく。この授業では、各疾患の障害特性を理解するとともに、心理・社会生活面においてどのような問題が生じるかを学び、その上で各疾患の回復過程に応じた作業療法のアプローチを学んでいく。

※実務経験

総合病院勤務（2007～2013）、精神科病院勤務（2013～2024）

【到達目標】

精神障害領域における各疾患の障害像についての知識とそれぞれの回復過程に応じた作業療法の基本的アプローチの方法論を習得する。

疾患に応じた評価方法・検査法を適切に選択できるようになり、それにつづく作業療法アプローチを対象者に応じて個別に考えることができるようになる。

＜具体的な目標＞

目標①各疾患における障害特性とそれぞれの回復過程の状態像を説明・実践することができる。

目標②精神科領域の作業療法に関連する理論・モデル・技法について説明することができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①）回復段階に応じた作業療法の実践を経験することが出来る。
3・4回目	（目標①）統合失調症の維持期における障害像と作業療法について、地域生活支援と就労支援を含めて説明できる。
5・6回目	（目標②）心理教育プログラムの概要について理解し、説明することができる。
7・8回目	（目標②）神経認知障害と認知矯正療法について理解し、説明することができる。
9・10回目	（目標①）気分障害の障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
11・12回目	（目標①）気分障害の維持期における障害像と作業療法について、地域生活支援と就労支援を含めて説明できる。
13・14回目	（目標②）認知行動療法の基本モデル、理論的背景を説明することができる。
15・16回目	（目標②）SSTの基本モデル、理論的背景を説明することができる。
17・18回目	（目標①）神経症性障害の障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
19・20回目	（目標①）摂食障害の障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
21・22回目	（目標①）パーソナリティ障害の障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
23・24回目	（目標①）児童・思春期精神障害の障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
25・26回目	（目標①）認知症の障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
27・28回目	（目標①）てんかんの障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
29・30回目	（目標①）依存性障害の障害像と回復過程に沿った作業療法について説明できる。
準備学習時間外学習	（目標①）各疾患について精神医学の側面（原因、症状、医学的治療等）からの理解が基本になってくるため、精神医学の復習に取り組んでください。 （目標②）精神科領域の作業療法に関連する理論・モデル・技法について学ぶためには、精神疾患の障害特性や各疾患に合わせた作業療法の実施方法を理解する必要があります。そのため、精神医学や精神障害治療学Ⅰの復習に取り組んでください。また、定期試験に向けて毎回の授業の復習も行ってください。
評価方法	定期試験や演習後の提出課題にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験（80%） ●提出課題（20%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	近年の精神科作業療法では、統合失調症のみならず、気分障害、パーソナリティ障害、認知症、パニック障害など、さまざまな障害を持つ方を対象として関わる機会が増えてきています。病理的な側面を理解しておくことは基本ですが、それを踏まえたうえで対象となる方の生活背景を含め、支援していく必要があります。基本的な作業療法アプローチを理解したうえで、さらに対象者一人ひとりに応じた作業療法ができるよう、主体的に考えていく力を身につけていってほしいと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：日本作業療法士協会：作業療法学全書　作業治療学2　精神障害. 協同医書出版社
上野武治：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　精神医学. 医学書院

参考書：山根寛：精神障害と作業療法. 三輪書店
堀田英樹・他：精神疾患の理解と精神科作業療法. 中央法規
長崎重信：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学. メジカルビュー社

教材：パソコン、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	精神障害治療学Ⅲ （Occupational Therapy for Mentally Disabled Ⅲ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	春口　春奈
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜日3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

精神科領域の作業療法に関連する理論・モデル・技法には精神医療の流れの中で様々なものが登場している。この授業では臨床での作業療法に活用・応用しやすいものを主にとりあげ、実践的な演習を通して作業療法に関連する理論・技法を学んでいく。また、模擬症例演習を通して精神科領域における作業療法評価や治療立案など、基本的な作業療法の実践について体験的に学習する。授業終了時には症例に応じた評価方法の選択や作業療法プログラムについて、適切な理論・技法の選択、説明ができるようになる。

実務経験：総合病院勤務（2007～2013）、精神科病院勤務（2013～2024）

【到達目標】

精神障害に対する作業療法を行うための評価方法や実践的な作業療法の方法論を演習を通して修得する。関連する各種理論・モデルについて説明できるようになり、授業終了時には模擬症例演習を通して精神障害に対する作業療法の統合的理解を促し、適切な作業療法計画の立案ができるようになることを目指す。

＜具体的目標＞

目標①精神科領域の作業療法に関連する理論・モデル・技法について説明することができる。
目標②司法精神医療、地域訪問、就労支援など各領域における作業療法士の役割について説明することができる。
目標③精神科領域における生活行為向上マネジメントの活用方法について説明することができる。
目標④精神科作業療法の治療構造や一連の実践プロセス、評価方法について説明することができる。
目標⑤提示された症例について評価を検討し、作業療法計画の立案ができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）WRAPの演習を行う。WRAPの概要について理解し、説明することができる。
2回目	（目標①）アンガーマネジメントの演習を行う。アンガーマネジメント、アサーションの実践方法について説明することができる。
3回目	（目標①）心理療法の基本モデル、理論的背景を説明することができる。
4回目	（目標①）芸術療法、園芸療法、森田療法の基本モデル、理論的背景を説明することができる。
5回目	（目標②）司法精神医療における作業療法士の役割について説明することができる。
6回目	（目標②）精神科領域の訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割について説明することができる。
7回目	（目標②）精神科領域の就労・就学支援における作業療法士の役割について説明することができる。
8回目	（目標②）精神科領域に関連する社会資源・医療制度について説明することができる。
9回目	（目標③）精神科領域における生活行為向上マネジメントの活用方法について理解し、説明することができる。
10回目	（目標④）精神科作業療法の治療構造や一連の実践プロセスを説明できる。
11回目	（目標④）精神障害における評価の特性、評価方法・項目を説明できる。
12回目	（目標⑤）模擬症例演習を行う。作業療法計画立案に必要な情報収集および作業療法評価を行うことができる。
13回目	（目標⑤）模擬症例演習を行う。作業療法評価結果から模擬症例の全体像をまとめることができる。
14回目	（目標⑤）模擬症例演習を行う。模擬症例の生活課題を整理し、作業療法治療計画を立案することができる。
15回目	（目標⑤）模擬症例演習を行う。模擬症例の全体像、生活課題、治療計画について文書で記録報告することができる。
準備学習 時間外学習	（目標①～③）精神科領域の作業療法に関連する理論・モデル・技法について学ぶためには、精神疾患の障害特性や各疾患に合わせた作業療法の実施方法を理解する必要があります。そのため、精神医学や精神障害治療学Ⅱの復習に取り組んでください。また、定期試験に向けて毎回の授業の復習も行ってください。 （目標④・⑤）精神科作業療法の一連の流れについて理解するために、精神障害治療学Ⅰの復習に取り組んでください。模擬症例演習後にはレポート提出を求めます。授業時間外でも課題に取り組んでください。
評価方法	定期試験や演習後の提出課題にて、実践的知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験（70%） ●提出課題（30%） 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	精神科作業療法では対象者の障害像や回復過程に応じて、様々な治療法を活用していきます。この授業ではWRAPやアンガーマネジメント、心理療法など、臨床での作業療法に活用しやすい治療法について学ぶことができます。対象者に合わせて幅広い治療を提供できる作業療法士になれるように、積極的に授業に取り組んでください。また、模擬症例演習を通して作業療法実践の一連のプロセスを体験することで、臨床実習に向けて思考能力を高めることができます。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：日本作業療法士協会：作業療法学全書　作業治療学2　精神障害. 協同医書出版社
参考書：山根寛：精神障害と作業療法. 三輪書店
　　姫田英樹・他：精神疾患の理解と精神科作業療法. 中央法規
　　長崎重信：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学. メジカルビュー社
教材：パソコン、プロジェクター

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	解剖生理学Ⅰ（Anatomical Physiology Ⅰ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	熱田 生
						実務経験	○
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。作業療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学Ⅰでは、生物学と並行して解剖学で使用される用語や細胞・組織・器官・器官系などヒトを構成する要素、骨格系など、どのようなものがあるのか、またその機能的役割は何かなどを中心に学習する。

※九州大学大学院歯学府歯学専攻博士課程、南カリフォルニア大学顎顔面分子生物学研究所で学んだ解剖生理学の知見に基づいて講義を行う。

【到達目標】
解剖生理学の基礎的知識である人を構成する細胞の要素や骨格系の役割、機能について説明することができる。

＜具体的な目標＞
目標①細胞・組織・器官・器官系など人の身体を構成する要素とその役割について説明できる。
目標②骨格系について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）細胞総論：細胞と組織について説明できる。
2回目	（目標①）筋の働き、形態による分類および骨格筋の興奮収縮連関について説明できる。
3回目	（目標①）神経の区分、構成について説明ができる。
4回目	（目標②）骨の形態と構造及び血管と神経の基本的特徴について説明できる。
5回目	（目標②）骨の機能・発生、リモデリングについて説明できる。
6回目	（目標②）骨格総論、頭蓋骨の基本的構造を理解し、その特徴について説明できる。
7回目	（目標②）脊柱の基本的構造を理解し、その特徴について説明できる。
8回目	（目標②）胸郭の基本的構造を理解し、その特徴について説明できる。
9回目	（目標②）上肢の骨1　上肢帯、上腕骨についてその特徴を理解し、説明できる。
10回目	（目標②）上肢の骨2　前腕部の骨についてその特徴を理解し、説明できる。
11回目	（目標②）上肢の骨3　手部の骨についてその特徴を理解し、説明できる。
12回目	（目標②）下肢の骨1　下肢帯、大腿骨についてその特徴を理解し、説明できる。
13回目	（目標②）下肢の骨2　下腿部の骨についてその特徴を理解し、説明できる。
14回目	（目標②）下肢の骨3　足部の骨についてその特徴を理解し、説明できる。
15回目	目標①②のまとめ
準備学習時間外学習	（目標①②）前提条件として、生物学の理解が重要です。高校で学んだ経験がある方は高校の授業資料を参考にしながら復習する。また、学校内で実施している生物学も同様に参考にしながら復習することが重要です。この講義は解剖学の基礎です。この講義理解が困難となると、この後の解剖生理学Ⅱ以降の講義理解も難しくなります。復習の時間を十分に確保し臨むことが重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、作業療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけで見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは作業療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である作業療法士に近づくために、まずこの解剖生理学から理解を始めることが大事だと言えます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学の基礎的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
〈教科書〉
野村嵩編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学.医学書院
石澤光郎他：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　生理学.医学書院
病気が見える11 運動器・整形外科　メディックメディア

〈使用教材〉
講義資料（毎講義前に提示）、人体模型、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	解剖生理学Ⅳ（ Anatomical Physiology Ⅳ ）	必修選択	必修	年次	1
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）

担当教員	熱田 生
実務経験	○
開講区分	後期
曜日・時限	月曜・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。作業療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学Ⅳでは、神経系を構成する要素としてどのようなものがあるのか、またその機能的役割は何かなどを中心に学習する。

※九州大学大学院歯学府歯学専攻博士課程、南カリフォルニア大学顎顔面分子生物学研究所で学んだ解剖生理学の知見に基づいて講義を行う。

【到達目標】
神経系を中心としてその特徴を理解し、適切な解剖学・生理学用語を用いて説明できる。
＜具体的な目標＞
目標①中枢神経系の特徴について説明できる。
目標②末梢神経系の特徴について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）神経総論：神経の興奮伝導、シナプスについて説明できる。
2回目	（目標①）髄膜と脳室系について説明できる。
3回目	（目標①）大脳の形態1：大脳皮質の構造、機能局在について説明できる。
4回目	（目標①）大脳の形態2：大脳基底核、間脳の機能について説明できる。
5回目	（目標①）脳幹の形態と機能について説明できる。
6回目	（目標①）小脳の形態と機能について説明できる。
7回目	（目標①）脊髄の形態と機能について説明できる。
8回目	（目標①）伝導路1：上行性伝導路について説明できる。
9回目	（目標①）伝導路2：下行性伝導路について説明できる。
10回目	（目標①）反射について説明できる。
11回目	（目標②）脳神経1：Ⅰ～Ⅵについて説明できる。
12回目	（目標②）脳神経2：Ⅶ～Ⅻについて説明できる。
13回目	（目標②）脊髄神経1：頸神経叢、腕神経叢について説明できる。
14回目	（目標②）脊髄神経2：胸神経叢、腰神経叢、仙骨・尾骨神経叢について説明できる。
15回目	目標①②のまとめ
準備学習時間外学習	（目標①②）前提条件として、生物学の理解が重要です。高校で学んだ経験がある方は高校の授業資料を参考にしながら復習する。また、学校内で実施している生物学も同様に参考にしながら復習することが重要です。この講義は解剖学の基礎です。この講義理解が困難となると、この後の専門科目の講義理解も難しくなります。復習の時間を十分に確保し臨むことが重要です。また、人の構造的・機能的役割について考えながら講義を受講できるよう準備して臨むことが重要です。分からない事があれば、そのままにせず確認し理解できるまで繰り返し学習することが必要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、作業療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけで見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは作業療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である作業療法士に近づくために、まずこの解剖生理学から理解を始めることが大事だと言えます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学の基礎的内容となっています。神経系など今まで学習した事の無い内容が多く含まれると思います。毎講義理解を深めることができるよう積極的な参加を期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】
＜教科書＞
野村嵯編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学.医学書院
石澤光郎他：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　生理学.医学書院
病気が見える7 脳・神経　メディックメディア

＜使用教材＞
講義資料（毎講義前に提示）、人体模型、AV教育機材（液晶プロジェクター、ビデオ装置など）

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	情報処理学Ⅱ（Information Processing Ⅱ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	上城憲司
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	15 / 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では，作業療法研究の基礎知識を得ることを目的とする．研究の意義や倫理などの基本的な概念を理解した上で，実際に研究を進めるために必要となる基本事項（文献検索，研究計画，統計処理，研究成果の発表など）について学習する．この授業を通して，作業療法士として必要な研究に必要な情報処理ができる。
＊実務者経験：作業療法士として12年の臨床実務と14年の大学教育の経験を有している．臨床では、老年病センターにて身体障害・老年期障害のリハビリテーションに従事，大学教育では20名の大学院修士論文の指導を行った．また，博士（保健医療学）を有している．

【到達目標】
①研究のプロセスを理解し，説明できる．
②研究デザインの具体的方法を理解し，説明できる．
③研究疑問に応じた研究デザインを選択することができるようになる．
④自ら研究計画書を作成できるようになる．
⑤研究計画の統計学的分析が説明できる．

授業計画・内容	
1回目	作業療法研究，研究のプロセスについて説明できる
2回目	研究疑問と研究デザインについて説明できる
3回目	量的研究について説明できる
4回目	パラメトリック検定（t検定），正規分布，尺度について説明できる
5回目	ノンパラメトリック検定（Wilcoxonの符号順位和検定，Mann-WhitneyのU検定）について説明できる
6回目	相関分析，独立性の検定について説明できる
7回目	質的研究について説明できる
8回目	研究計画書の作成ができる
準備学習時間外学習	各講義終了時に次回の講義範囲を提示するので，その部分を予習すること（予習時間60分）．復習は，講義資料を中心に板書を基に講義ノートを作成し，まとめること（復習時間60分）．
評価方法	筆記試験と参加度で成績評価を行う．参加度は，授業への参加態度や回答，発表への積極性を鑑みて，総合的に判断する． ●筆記試験（50%），レポート（40%），発表（10%）の割合で成績評価を行う．
受講生へのメッセージ	本講義は，作業療法研究論文をレビューしながら，研究法，統計処理を学びます．また，学生自身が研究計画書を作成するまでを体験いたします． 近年の国家試験でも出題割合が増していますので，積極的に受講し,卒業後の科学的根拠に基づく医療（EBM）の一助にしてください．

【使用教科書・教材・参考書】
すぐできる!リハビリテーション統計[解析ソフト付](改訂第2版)：南江堂；勝平純司,下井俊典,窪田聡

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	整形外科学Ⅱ（ Orthopedics Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	押領司　俊介
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	水曜・4限/5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

作業療法士としての役割において、その対象として運動器疾患は関わることが多い。本講義では、2年前期で学んだ整形外科学Ⅰをさらに発展させ、整形外科疾患各論について学習する。特に骨折脱臼などの治療プロセスや各関節部位における疾患、障がいなどの特徴を学び、選択された治療に応じたリハビリテーション手法なども含めて学習する。

＊実務経験：2005年4月より現在まで整形外科病院に所属している。術後の急性期から慢性疾患まで整形外科疾患を担当。2018年4月には運動器認定理学療法士を取得。

【到達目標】

運動器疾患との関わりを理解し、整形外科疾患の病態や症状に加え、それぞれの疾患の好発年齢や性差などの特徴について説明することができる。

＜具体的な目標＞
目標①各関節の解剖学的特徴を説明できる。
目標②整形外科分野の代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。

授業計画・内容

1回目	（目標②）外傷総論、軟部組織損傷について説明できる。
2回目	（目標②）外傷のプライマリーケアについて説明できる。
3回目	（目標①）頚椎部の解剖学的特徴が説明できる。頚椎部でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
4回目	（目標①）胸部、胸椎、腰椎の解剖学的特徴が説明できる。胸部、胸椎、腰椎でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
5回目	（目標②）脊椎・脊髄損傷について説明できる。（前半）
6回目	（目標②）脊椎・脊髄損傷について説明できる。（後半）
7回目	（目標①）骨盤・下肢の骨折の特徴を説明できる。骨折と脱臼の違いと特徴について説明できる。
8回目	（目標①）股関節の解剖学的特徴が説明できる。股関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
9回目	（目標①）膝関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
10回目	（目標①）足関節と足趾の特徴的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
11回目	（目標②）上肢の骨折の特徴を説明できる。骨折と脱臼の違いと特徴について説明できる。
12回目	（目標①）肩関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
13回目	（目標①）肘関節の解剖学的特徴が説明できる。肘関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
14回目	（目標①）手関節および手指の解剖学的特徴が説明できる。手関節および手指でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
15回目	目標①②のまとめ
準備学習時間外学習	（目標①）各関節における解剖の理解と、運動学で学んだ各関節運動の理解が重要です。また、解剖生理学で学んだ骨格筋との関連についても理解が重要です。これらの科目の復習が必要です。 （目標②）整形外科分野には多くの疾患があり、特徴が似ているものも多いと言えます。そのため、好発年齢や性差といった疾患特徴を列挙するためには、それぞれの疾患特性についてはまず予習を行っておくことが重要です。講義前には必ず一度目を通すように心掛けてください。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士として整形外科疾患の患者様と関わる機会は多いと言えます。病前と同様の生活が営めない状態に陥った方々に対し、医師を中心とした他職種との連携により、症状が軽快し生活状態の改善が見られることで、患者様の笑顔に繋がります。そのためには解剖学・生理学・運動学的知識に基づき、整形外科疾患の特徴を把握した上で適切な治療を選択していく必要があります。術後の作業療法など非常に難しい事も多いですが、成果が見られた時には喜びも大きくなります。この機会に整形外科疾患を理解し、多くの患者様の治療に役立てていただきたいと思います。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は運動器の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
＜教科書＞
標準整形外科学第15版（医学書院）
病気が見える11　運動器・整形外科（メディクメディア）
＜使用教材＞
講義資料（毎講義前に提示）、プロジェクター、延長コード　＊PCは持ち込みますので延長コードの準備をお願いします。

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	発達障害治療学Ⅱ Occupational Therapy for Developmental Disability Ⅱ	必修選択	必修	年次	3	担当教員	桑原　みゆき
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期
コース						曜日・時限	金曜日　3・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

「発達障害治療学Ⅰ」の学習を展開できるように、症例を通し演習・実技を行う。

実務経験：重症心身障害児を含む入所、通園施設においてリハビリテーション部門に所属（1979～84）、リハビリテーション病院において小児疾患の外来業務（発達障害）（1991～97）地域行政の中で小児疾患の療育担当＜1991～現在＞
主業務は、小児の障害に対してのリハビリテーション（作業療法を主として）と家族指導、保育施設、学校への訪問援助を行っている。

【到達目標】

（目標①）発達領域の障害（疾患）の知識・理解を深め、理解し説明できる。
（目標②）対象児の方の協力を得ることにより、演習・実技を行うことができる。
（目標③）評価結果から統合と解釈ができ、生活課題を導き出すことができる。
（目標④）対象児に合わせたアプローチを考えることができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）オリエンテーション、（目標②）小児領域の評価の復習と演習準備ができる。
2回目	（目標②）小児領域の評価演習を行うことができる。
3回目	（目標①・③）事例の評価からADLの課題を導き出し、ICFにまとめることができる（発表）
4回目	（目標①）SI理論を感覚→知覚→認知からの学習を深め、事例のSI障害を理解することができる。
5回目	（目標②）症例①現病歴等から評価項目を選定し（目標①）評価に適した演習準備ができる（レポート）
6回目	（目標②）症例①評価演習ができる（症例に対して実習を行う）
7回目	（目標③・④）症例①評価演習の反省と評価結果から結果の解釈ができ、（目標④）プログラムを考えることができる
8回目	（目標③・④）症例①のプログラムを班ごとに発表することで、評価結果のまとめ、プログラム立案の力をつけることができる
9回目	（目標①）症例①の脳画像を学習し、基礎医学と臨床医学から症例の理解を深めることができる
10回目	（目標①）症例②の脳画像を学習し、基礎医学と臨床医学から症例の理解を深めることができる
11回目	（目標②）症例②現病歴等から評価項目を選定し（目標①）評価に適した演習準備ができる（レポート）
12回目	（目標②）症例②評価項目に適した演習を行うことができる
13回目	（目標②）症例②評価演習ができる
14回目	（目標③）評価演習の反省と評価結果から結果の解釈ができ、（目標④）プログラムを考えることができる
15回目	事例・2症例のまとめ
準備学習時間外学習	（目標①）正常発達と発達障害についての理解が不可欠です。症例に適した評価計画立案するので、評価の復習、準備をしておいてください。 （目標②）評価の復習、予習をしておいてください。 （目標③）評価結果から評価の解釈をして発表しますので準備をしてください。 （目標④）プログラム立案に際し、必要な文献などを収集しておいてください。
評価方法	定期試験に加え、レポートや授業への取り組みにより評価する。 （判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。） ・定期試験（80%）、レポート（10%）、実習評価（10%）の割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	・実習前に症例の方にご協力頂き、評価を実際に実施したり、アプローチを見たりすることができる機会は多くありません。しっかりと準備して臨んでいただきたいと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

〈教科書〉 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト　発達障害作業療法学　改訂第2版　メディカルビュー

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	人間発達学	必修選択	必修	年次	1	担当教員	桑原みゆき
						実務経験	○
	（Human Growth & Development ）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	金曜・2限目

【授業の学習内容】
胎児期から老年期までの生涯を人間発達の過程として捉え、各期における身体的機能、運動機能、認知的機能、情緒・社会的機能を理解し説明できる。各期特有の疾病とリハについての概要に触れ、小児科学、発達障害の作業療法につなげることができる。
※実務経験：重症心身障害児を含む入所、通園施設においてリハビリテーション部門に所属（1979～84）、リハビリテーション病院において小児疾患の外来業務（発達障害）（1991～97）地域行政の中で小児疾患の療育担当＜1991～現在＞
主業務は、小児の障害に対してのリハビリテーション（作業療法を主として）と家族指導、保育施設、学校への訪問援助を行っている。

【到達目標】
各発達段階における特徴、正常値・異常値について説明できる。正常発達と発達障害の基本的知識を修得する。

＜具体的な目標＞
目標①正常発達の各時期における特徴や、発達検査について説明できる。
目標②人の発達を機能と構造の視点から理解し、障害とリハビリテーションについて説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）人間発達の見方や発達検査について説明できる。
2回目	（目標①）胎児期・新生児期の発達について説明できる。
3回目	（目標①）乳児期の発達について説明できる。
4回目	（目標①）幼児期の発達について説明できる。
5回目	（目標①）学童期の発達について説明できる。
6回目	（目標①）青年期の発達について説明できる。
7回目	（目標①）成人期・老年期の発達について説明できる。
8回目	（目標②）身体構造と運動機能の発達と障害について説明できる。
9回目	（目標②）脳・神経系の発達と障害について説明できる。
10回目	（目標②）脳・神経系の発達、感覚・知覚・認知機能の発達と障害について説明できる。
11回目	（目標②）情緒・社会性の発達と障害について説明できる。
12回目	（目標②）言語機能の発達と障害について説明できる。
13回目	（目標②）内部機能の発達と障害について説明できる。
14回目	目標①のまとめ
15回目	目標②のまとめ
準備学習時間外学習	（目標①）正常発達の特徴を知るためには、個体差や発達理論を理解する必要があります。授業後の復習が重要となります。 （目標②）機能障害を理解するには、人体の構造を理解する必要があります。他の解剖生理学や運動学などの身体特性を理解した上で、障害とリハビリテーションについて学んでいきます。人間発達学だけではなく、他の科目との関連も考えて学ぶことが重要です。
評価方法	定期試験（判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする） 及び確認テスト
受講生へのメッセージ	作業療法の対象者は、小児から老人まで様々で、リハビリテーションも多様化しています。また、心身の発達過程の中で、逸脱したものやその課題は何かを学ぶ必要があります。それらを踏まえてリハビリテーションの専門家は対象者のニーズに応じた適切なリハビリテーションを実施していきます。したがって、上記にあるように、この科目を勉強するには、他の科目との関連性を随時考えながら学んでいく必要があります。人間発達だけを考えて学んではいけません。学ばなければならないことが多いため、予習・復習が大切になる科目です。

【使用教科書・教材・参考書】
＜教科書＞
大城 昌平 著:リハビリテーションのための人間発達学　メディカルプレス

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	高次脳機能障害治療学Ⅱ (Occupational Therapy for Cognitie Dysfunction Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	中田育男
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜　2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

前期で学んだ高次脳機能障害の一般的な分類とそれぞれの状態像を再度復習するとともに、高次脳機能障害の各障害像に対応した、検査・観察をはじめとする評価法を実際に学生間で行うことでその使用法を修得し、それぞれの状態像に応じた作業療法訓練・支援など介入方法を理解し、それらについて説明できる。

※実務者経験：1994年4月～1996年3月まで脳卒中を専門とするリハビリテーション病院に、2002年10月～2010年10月回復期リハビリテーション病棟に所属し、脳卒中患者の高次脳機能障害の評価と訓練に携わる。

【到達目標】

＜具体的な目標＞

目標①　高次脳機能障害の各障害の具体的な生活上の問題点を観察、また推し量ることができるようになる。
目標②　高次脳機能障害の各障害像ごとに、評価(検査・観察)を選択しまた実際に使用することができるようになる。
目標③　上記の評価の結果について解釈してまとめ、そこから訓練・支援といった作業療法介入方法を組み立てることができるようになる
目標④　高次脳機能障害の各障害別にみた訓練方法の理論と実際を知り、それらについて説明できる。

	授業計画・内容
1回目	障害別評価・訓練「注意障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
2回目	障害別評価・訓練「注意障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。 その2
3回目	障害別評価・訓練「注意障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。 その3
4回目	障害別評価・訓練「半側空間無視」「半側身体失認」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
5回目	障害別評価・訓練「半側空間無視」「半側身体失認」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。その2
6回目	障害別評価・訓練「Pusher症候群」「Balint症候群」「着衣障害」「構成障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
7回目	障害別評価・訓練「Pusher症候群」「Balint症候群」「着衣障害」「構成障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。 その2
8回目	障害別評価・訓練「地誌的障害　街並失認　道順障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
9回目	障害別評価・訓練「失語症」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
10回目	障害別評価・訓練「失語症」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。 その2
11回目	障害別評価・訓練「行為の障害」「失行症」「脳梁離断症状」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
12回目	障害別評価・訓練「行為の障害」「失行症」「脳梁離断症状」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。 その2
13回目	障害別評価・訓練「前頭葉症候群」「遂行機能障害」「行動と感情の障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
14回目	障害別評価・訓練「前頭葉症候群」「遂行機能障害」「行動と感情の障害」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。 その2
15回目	障害別評価・訓練「失認症」「Gerstmann症候群」の障害別評価、訓練の方法 理論と実際について理解し、それらについて説明できる。
準備学習時間外学習	3年前期で学んだ「高次脳機能障害治療学Ⅰ」を基本に踏まえ、高次脳機能の日常生活における問題点についてさらに深く知り、評価と介入につなぐ手段を説明できるために、事前の復習とともに本講義の復習が必要です。 高次脳機能障害の各障害ごとの状態像と、障害別の代表的な評価バッテリーについて事前に予習するとともに、さらにその評価を実際に行い、訓練の方法を理解し説明できるために、本講義の予習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 成績評価は、定期試験（ほぼ100%）の割合で行うが、その他、出席率（欠席1回につき1点減点、遅刻・早退は3回につき1点減点）にて行う。
受講生へのメッセージ	臨床に携わる作業療法士にとって、脳の障害によって引き起こされる高次脳機能障害は、それこそごく日常に当たり前に遭遇する状態像です。日常生活に深く関わっている高次脳機能障害を正しく評価し、その状態像をとらえる術を知り、基本的なアプローチを知ることによって、将来、患者様の生活の再建に尽力できるようになっていってください。

【使用教科書・教材・参考書】

高次脳機能障害マエストロシリーズ③～④　医歯薬出版
高次脳機能障害の作業療法　三輪書店
高次脳機能障害学　第2版　医歯薬出版

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	地域作業療法学Ⅰ (Occupational Therapy for Community Ⅰ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中田　育男
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

対象者のQOL向上を目指した地域作業療法を実践するため、地域作業療法の背景や、関連する福祉、介護、教育などの制度、あるいは訪問や通所、入所のほか、住宅改修や福祉機器の導入といった具体的な介入方法、サービスに関する基礎的な知識を学習し、本授業修了時には各々の説明ができるようになる。

※実務者経験：1994年4月～1996年3月まで脳卒中を専門とするリハビリテーション病院に、2002年10月～2010年10月回復期リハビリテーション病棟、2019年～現在まで訪問看護ステーションに所属し、訪問リハビリに従事。

【到達目標】

地域作業療法の理念や理論を理解し、具体的な制度や社会資源に関する知識を修得し、それらについて説明できる。

＜具体的な目標＞

目標①　地域作業療法における、福祉、介護、教育などの具体的な制度やサービスに関する情報を説明できる。

目標②　地域作業療法を支える支援である、在宅ADL指導における住宅改修や福祉機器などの社会資源について説明できる。

目標③　近年、作業療法士協会でその実践を推奨する、生活行為向上マネジメントMTDLPについて説明し、実習や卒後において実践できる。

授業計画・内容	
1回目	地域・地域社会・地域リハビリテーションとは。地域作業療法と生活障害について理解し、説明することができる。
2回目	地域・地域社会・地域リハビリテーションとは。地域作業療法と生活障害について理解し、説明することができる。その2
3回目	地域作業療法を支える制度・支援サービスについて理解し、説明することができる。
4回目	地域作業療法を支える制度・支援サービスについて理解し、説明することができる。その2
5回目	地域作業療法の現状を理解し、作業療法に必要となる評価について説明することができる。
6回目	地域リハビリテーションにおける社会生活支援を理解し、説明することができる。
7回目	地域作業療法の具体的サービス　①　介護保険を中心に施設サービスについて理解し、説明することができる。
8回目	地域作業療法の具体的サービス　②　介護保険を中心に通所サービスについて理解し、説明することができる。
9回目	地域作業療法の具体的サービス　③　介護保険を中心に訪問サービスについて理解し、説明することができる。
10回目	地域作業療法を支える支援　在宅ADL指導における作業療法士の役割　福祉機器と社会資源について理解し、説明することができる。
11回目	地域作業療法を支える支援　在宅ADL指導における作業療法士の役割　住宅改修、環境調整と社会資源の活用について理解し、説明することができる。
12回目	地域作業療法を支える支援　在宅ADL指導における作業療法士の役割　社会資源の活用について理解し、説明することができる。
13回目	生活行為向上マネジメント　MTDLPの概要、基本的な考え方を理解し、説明することができる。
14回目	生活行為向上マネジメント　MTDLP　聞き取りシートやアセスメント演習シートなど、グループワークを通してその活用方法を理解し、説明することができる。
15回目	目標①～③の確認とまとめ
準備学習時間外学習	地域作業療法の理念や理論を理解し、福祉、介護、教育などの具体的な制度やサービスに関する情報を説明できるために、本講義の復習が必要です。また、地域作業療法を支える支援として、在宅ADL指導における住宅改修や福祉機器などの社会資源について説明できるために、本講義の復習が必要です。 近年、作業療法士協会でもその実践を推奨する、生活行為向上マネジメントMTDLPについて理解し、また実習や卒後に実践していくために、本講義の復習を行う必要があります。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 成績評価は、定期試験（100%）
受講生へのメッセージ	地域リハビリテーション、地域作業療法の現場は、傷病を発症して医療機関における機能訓練、生活機能訓練をひと通り経てきた方々が、あらためて地域に戻られてその後に、単に機能訓練のみにとどまらず、その方の生活にダイレクトに関わり、予後を支え、ひいてはそのライフワークを人生の終焉まで支えていく過程にあります。それらを提供する福祉、介護サービスの制度や社会資源の仕組みを知って、自らも作業療法士として生活を支えていく術を提供できるようになりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

標準作業療法学　専門分野「地域作業療法学」医学書院

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	地域作業療法学Ⅱ Occupational Therapy of Community Ⅱ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中田育男
						実務経験	○
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜・2限

【授業の学習内容】

本講義では、地域作業療法を実践するための基礎的な知識をを理解したうえでサービス内容とその提供計画について学習する。そのために地域包括システムや障害者総合支援法を理解したうえで、事例や課題を通じて、対象者への支援方法について理解を深める。
※実務者経験：1994年4月～1996年3月まで脳卒中を専門とするリハビリテーション病院に、2002年10月～2010年10月回復期リハビリテーション病棟、2019年～現在まで訪問看護ステーションに所属し、訪問リハビリに従事。

【到達目標】

①地域作業療法と地域包括ケアシステム、障害者総合支援法に関わる基礎知識をあげて説明できる。
②事例から地域における作業療法士の役割をあげることができる。

授業計画・内容	
1回目	①地域とはなにか、地域リハビリテーションとはなにか、地域包括ケアシステムとはなにか簡潔に説明できる。
2回目	①生活障害の評価とICFについて簡潔に説明できる。
3回目	①地域作業を支えている制度や施策をあげて、簡潔に説明できる。
4回目	①介護保険制度と地域包括ケアシステムについて簡潔に説明できる。
5回目	①障害者総合支援法について簡潔に説明できる。
6回目	①社会生活支援と多職種連携について簡潔に説明できる。
7回目	①地域作業療法の枠組みと地域包括ケアシステムについて簡潔に説明できる。
8回目	①地域作業療法の実践課程について簡潔に説明できる。
9回目	①地域作業療法の実践の場をあげて、それぞれについて簡潔に説明できる。
10回目	②病院（身体障害分野）における作業療法士の役割と連携について簡潔に説明できる。
11回目	②病院（精神分野）における作業療法士の役割と連携について簡潔に説明できる。
12回目	②訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割と連携について簡潔に説明できる。
13回目	②通所リハビリテーションにおける作業療法士の役割と連携について簡潔に説明できる。
14回目	②発達支援や学校における作業療法士の役割と連携について簡潔に説明できる。
15回目	②認知症支援や終末期における作業療法士の役割と連携について簡潔に説明できる。
準備学習時間外学習	この授業で学んだことは、地域作業療法の臨床で必ずと言ってよいほど問われる基礎知識です。将来に備えて、ここで学んだことはノートなどに整理しておいてください。
評価方法	試験（100%）
受講生へのメッセージ	本講義では、事例や課題を課すことがあります。この課題は、授業内容を深く理解すること以外に臨床での思考過程を育てることにも役立ちます。そのつもりでしっかりと取り組んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

特に指定していませんが、活用できそうな文献は適宜紹介したいと思います。

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	機能解剖学 Ⅱ（Functional Anatomy Ⅱ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎浩[1]・押領司俊介[2]
						実務経験	○
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜・4.5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

臨床現場、実習において解剖学的知識を理解する事は重要です。そのために、1年次で学習している解剖学の内容を整理していく必要があります。具体的手法として、骨・筋を実際に触察した上で体表に描出し、立体的に人体の骨・筋の位置関係を認識していきます。視覚的に認識する事で従来の学習形態に比べ解剖学を理解しやすく、その機能を深く考えることが出来るものと思われます。これにより、解剖学的知識の整理に大きく役立つと考えられます。

また、骨・筋の知識を整理・理解できるとその後に考えるべき治療に繋がります。実際の治療場面を体験する事により、解剖学を理解する重要性を学びます。機能解剖学Ⅱでは、治療場面で主に用いる腰背部や骨盤、下肢の骨指標・筋を触察し、実際の治療を体験していきます。

＊実務者経験：昭和63年～理学療法士として病院勤務、一般臨床医学分野に関わった。平成12年～平成19年福岡市介護認定委員として活動を行う。[1]
＊実務経験：2005年4月より現在まで整形外科病院に所属している。術後の急性期から慢性疾患まで整形外科疾患を担当。2018年4月には運動器認定理学療法士を取得。[2]

【到達目標】

MTA（マイオチューニングアプローチ）を治療手法として用いるために、解剖学的な基本的知識を修得する。患者様の触察ができるようになるために、まずは正常な身体が実際どのようになっているのかを理解し、本講義終了時には、それぞれの説明ができるようになる。

＜具体的な目標＞
目標①各講義で提示した筋がどの骨指標に付着しているか理解し、それぞれを触察することができる。
目標②教員が実施したデモ内容を模倣し、正しい立ち位置で描出することができる。
目標③MTAアプローチの基礎となる流れを実施することが出来る。

授業計画・内容

1回目	（目標①、③）オリエンテーション、脊椎棘突起・骨盤・大腿骨のランドマーク、脊柱起立筋、腰方形筋の特徴を説明できる。MTAの流れについて説明できる。
2回目	（目標②）治療体験を通して、脊柱起立筋、腰方形筋を触察し描出ができる。
3回目	（目標①）大殿筋、中殿筋を触察し描出ができる。
4回目	（目標②）大殿筋、中殿筋の治療体験をおこなう。
5回目	（目標①）大腿四頭筋、縫工筋を触察し、描出ができる。
6回目	（目標②）大腿四頭筋、縫工筋の治療体験をおこなう。
7回目	（目標①～③）小テスト（1回目）大腿二頭筋、半腱・半膜様筋を触察し、描出ができる。
8回目	（目標②）大腿二頭筋、半腱・半膜様筋の治療体験をおこなう。
9回目	（目標①）前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋を触察し、描出ができる。
10回目	（目標②）前脛骨筋、長趾伸筋、長母指伸筋を治療体験をおこなう。
11回目	（目標①）腓腹筋、ひらめ筋、後脛骨筋を触察し、描出ができる。
12回目	（目標②）腓腹筋、ひらめ筋、後脛骨筋の治療体験をおこなう。
13回目	（目標①～③）小テスト（2回目）1～12回講義までの振り返りを行い、全体の触察を行い描出ができる。各筋に対してMTAを実施できる。①
14回目	（目標①～③）1～12回講義までの振り返りを行い、全体の触察を行い描出ができる。各筋に対してMTAを実施できる。②
15回目	（目標①～③）まとめ
準備学習時間外学習	（目標①）前提として、1年次の解剖学の理解が不可欠です。各講義前に講義対象となる骨指標、筋名の予習が必要です。 （目標②）事前に動画で立ち位置などを確認したい場合は、動画撮影した教材を提供します。 （目標③）MTAは一般理学療法関連書籍に記載の無い特別な技術となります。参考書籍等閲覧したい場合は、教材を提供します。 （目標①～③）小テストを2回実施予定です。それぞれのテスト対策として、講義の復習は必要です。
評価方法	体表上に描出することが上手か下手かは評価対象にならない。触察時のポイントとなる内容を描出できるかどうか、解剖学的知識の到達評価を小テスト・定期試験によって行う。 ●小テスト（20%） ●定期試験（80%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	魅力：患者様に信頼される作業療法士になるためには、治療者としての知識・技術は重要です。骨指標や、筋の触察が可能になると検査測定の正確性が向上するとともに、問題点の抽出～治療効果判定などに大いに役立ちます。また、臨床で活躍をされ経験豊富な講師の先生に実際に治療技術を交えながら、受ける事の出来る講義は多くは無いと思います。積極的な講義への参加を期待しています。 授業計画：本講義は講義・演習形態です。いつでも演習が出来るように毎講義実習着着用で参加してください。忘れずに持参してください。また、用意する機材も多いので、講義直前に慌てて準備する事にならないよう、事前準備をしっかりして臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】
<使用教科書>
河上敬介　磯貝　香：改訂第2版骨格筋の形と触察法.大峰閣
<使用教材>
体表上に描出するためのマーカー・実習着・タオル・枕・プロジェクター・デモ確認動画

2025年度　授業概要

学科：　作業療法科

科目名（英）	作業療法管理学 (Management of Occupational Therapy)	必修選択	必修	年次	3年	担当教員	長 彰純／後藤 真衣
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	水曜2限／金曜2限

【授業の学習内容】
作業療法管理学では、作業療法の管理業務で求められる医療保険・介護保険制度と実践の体系と基礎を把握します。次いで、作業療法の臨床における倫理・職場管理・生涯教育について体系と基礎を学びます。そこから、専門職である作業療法士として目指すべきものは何か、どのように取り組めばよいかを考えます。
※実務者経験：
（後藤 真衣）精神科グループホーム勤務（2013年）、精神科病院勤務（2014年～2021年）

【到達目標】
医療保険・介護保険に関する知識・理解を発展させることで、生活支援の実践を通して社会資源をどのように活用すべきか説明することができる。また、作業療法士として活躍する際に求められる倫理、職場管理、生涯教育についてどう行動すればよいか説明できる。
＜具体的な目標＞
目標①社会保障制度について成り立ちやその内容について説明できる。
目標②医療保険制度についてその内容や他の保険制度との違いについて説明できる。
目標③介護保険制度についてその内容や他の保険制度との違いについて説明できる。
目標④作業療法の臨床における倫理について説明できる。
目標⑤作業療法の臨床における職場管理について説明できる。
目標⑥作業療法の臨床における教育について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）オリエンテーション、社会保障制度の成り立ちについて説明できる。
2回目	（目標①）社会保障制度Ⅰ（社会福祉）について説明できる。
3回目	（目標①）社会保障制度Ⅱ（公的扶助）について説明できる。
4回目	（目標②）医療保険制度Ⅰ（医療保険の種類）について説明できる。
5回目	（目標②）医療保険制度Ⅱ（給付の仕組み）について説明できる。
6回目	（目標③）介護保険制度Ⅰ（利用方法と認定審査）について説明できる。
7回目	（目標③）介護保険制度Ⅱ（サービスの種類）について説明できる。
8回目	（目標④）作業療法における倫理の概要を説明できる（職業倫理、リスボン宣言、インフォームドコンセント）
9回目	（目標⑤）作業療法に関わる医療安全のマネジメントをいえる
10回目	（目標⑤）作業療法を行う施設（病院、施設）の組織をいえる
11回目	（目標⑤）作業療法における情報管理のマネジメントをいえる
12回目	（目標⑤）作業療法における労働時間管理とハラスメント（職場内）をいえる
13回目	（目標⑥）卒後教育、学会発表の方法や意味をいえる
14回目	（目標⑥）臨床実習と作業療法業務のマネジメントをいえる
15回目	（目標①～⑥）まとめ
準備学習時間外学習	（目標①）社会保障に関する内容については、高校時社会で学んだ内容も含まれています。一般的な内容を復習した上で、医療的措置などの理解を深めていくことが重要です。 （目標②）医療保険に関する内容については、各種保険制度の違いなどをしっかりと理解する必要があります。年齢によって対象となる法律が違うため、講義内容をしっかりと振り返ることが重要です。 （目標③）1年次に学習した社会福祉論など、介護保険に関する学習科目は他にもあります。それぞれの科目で学んだ内容を再度復習しておくことが重要です。 （目標④～⑥）各講義内容を自分なりに整理して、臨床実習の現場でどのように実践しているか体験すること。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士は患者様の自宅復帰など生活基盤の調整に関わる役割もあります。そのため、社会保障制度と医療現場における管理に関する知識を持つことは、その調整に対する幅を持つことを意味します。また、作業療法士として職場管理や自己研鑽・生涯教育についての知識が、将来の自分に役立つことでしょう。それ故、この科目で学ぶ知識を持つことは、臨床で生活支援ができるようになると言えます。この機会にぜひ多くを学び、作業療法士として働く時に活かせるよう努力されることを望んでいます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
＜教科書＞
なし
＜使用教材＞
講義資料プリント、PC、プロジェクター、ホワイトボード、ボードマーカー（黒・赤・青）

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	生物学 (Biology)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	今福　千明
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	火曜・1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

生物学には専門基礎科目である解剖学・生理学の基礎となる分野（身体における各器官系の働きなど）が多数ある。生物学を学ぶことで、解剖学・生理学を学ぶための基盤を作り、理解を助ける。
授業は授業プリントと確認プリントを配布して進めていく。

【到達目標】

生物学の知識を身につける。

目標①：生物学の基本的な用語を理解し、説明することができる。
目標②：解剖学・生理学における身体の器官系について、導入部分を理解し、説明することができる。

授業計画・内容	
1回目	授業の目的および身体を構成する物質の性質を説明できる。
2回目	細胞の構造と機能および、内部環境の調節（細胞小器官）を説明できる。
3回目	細胞の構造と機能および、内部環境の調節（細胞分裂　他）を説明できる。
4回目	組織・器官系、肺循環について説明できる。
5回目	循環系（血液、心臓の構造及び機能）について説明できる。
6回目	循環系（リンパ）、神経の基本的構造及び性質を説明できる。
7回目	感覚器（視覚・聴覚・嗅覚・味覚）について説明できる。
8回目	中間試験（第1～第7回）
9回目	皮膚の構造、皮膚感覚について説明できる。
10回目	筋の構造及び収縮のしくみを説明できる。
11回目	エネルギー産生（好気呼吸・嫌気呼吸）を説明できる。
12回目	消化・吸収について説明できる。
13回目	腎臓における尿の生成とその役割を説明できる。
14回目	恒常性維持について（自律神経、ホルモン）説明できる。
15回目	遺伝の基礎を説明できる。
準備学習時間外学習	授業準備は特に必要ありません。1回、1テーマで授業を進めますので、欠席しないようにしてください。 授業後は授業プリントを用いての復習及び解剖学・生理学の教科書でさらに知識を深めてください。 イメージがつきにくい構造についてはカラーの図説、特にフリガナがふってある参考書を利用することをお勧めします。
評価方法	筆記試験により成績を判断する。 筆記試験は2回実施し、中間試験50%、期末試験50%の割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	生物学から解剖学・生理学の内容へとスムーズに移行できるように授業を行うことを心掛けています。 内容や用語の読み方など何でもかまいませんので、わからないことがあればぜひ質問してください。

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書：特になし（プリントを配布）
参考図書：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（医学書院）、ぜんぶわかる　人体解剖図（成美堂出版）
　　標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学（医学書院）

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	物理学 (Physics)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	豊福　不可依
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース					1	曜日・時限	火曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

自然界の法則を基本とし、リハビリテーションにおける力学の基礎、運動の解明に必要な力学を中心に学び、リハビリテーション医療に関係の深い物理分野を理解する。医療関係者にとって身体の動きを理解することは非常に重要で、その際に物理学の知識は必ず役立ちます。しかし、物理学を苦手だと感じている方も少なくありません。この講義では、バイオメカニクスの前に身体運動を理解するための基礎について、理解しやすいように繰り返し解説を交えながら講義をすすめていきます。

【到達目標】

目標①：自然界における基本法則と運動の基本となる力学について理解し説明できる。
目標②：運動学、運動力学に関係する物理学の分野である幾何学的分析や力学諸法則について理解し説明できる。

授業計画・内容	
1回目	医療従事者に、なぜ物理学が必要なのかについて説明できる。（ -単位系について- ）
2回目	日常生活で使用する道具で、テコの原理が使用されている状況について説明できる。
3回目	輪じく、滑車、歯車がテコの応用であることを説明できる。
4回目	生体中のテコについて説明できる。
5回目	作用・反作用、力の分解、斜面、振り子、摩擦力について説明できる。
6回目	物体の速度と加速度について説明ができる。
7回目	力と加速度について説明ができる。
8回目	力学的仕事とエネルギーについて説明ができる。
準備学習時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士は、作業を通して、治療を行う職種である。作業活動の中には身体運動も含まれているため、運動を理解するためには、物理・力学的エネルギーが人体にどのような影響を及ぼしているかを知ることが非常に重要と言える。地球上で生活する上ではこの物理要素とは切り離せない。例えば、ボールを投げると必ず放物線を描くなど当たり前に起こる現象は知っていても、何故そうなるのか説明できないことは多くあります。物理学には、物理現象を説明する力が身に付く多くのヒントがある。それは作業療法士として治療に活かすことができる機会が増えることを意味します。この機会に是非理解を深めていただけることを望みます。 講義計画：授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：細田 多穂（監修），磯崎 弘司（編集），両角 昌実（編集），横山 茂樹（編集）　身体運動の理解につなげる物理学　南江堂
機　材：AV教育教材（液晶プロジェクター、ビデオデッキなど）

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	文章表現 (Japanese Composition)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員 実務経験	古賀　葵
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜・2限

【授業の学習内容】
「OECD生徒の学習到達度調査2022年調査（PISA2022）」では、我が国の対象生徒（高校1年生）の読解力は、前回2018年調査から平均得点・順位ともに上昇した。今後も、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、実生活、実社会の中で自ら思考し、判断・表現できる力を育成することが求められている。本学科では、言葉による記録、要約、説明、論述、話合い等の言語活動を伴う適切な文章表現を身に付ける必要がある。授業では、テーマやルールに沿って毎回文章を書いて基本的な知識・技能を理解し、テキスト・スライド等の活用や話合い・グループ活動等により、文章表現に必要な思考力、判断力、表現力を高める。

【到達目標】
読むこと、聞くことで育成した力を活用し、テーマに沿った情報収集を行い、内容や構成を検討するとともに、言葉の特徴やきまり、使い方を理解し、適切な伝え方を選択できる。また、情報を多面的・多角的に捉え、他者とのコミュニケーションを通して自分の考えを形成・深化させながら、推敲した文章を記述できる。
＜具体的な目標＞
目標①自分のことを相手にわかりやすく伝え、相手のことを正しく知る。お互いの立場で考えたり、気付いたりしたことを文章にまとめることができる。
目標②示されたテーマについて、選択肢から自分の立場を決めて、自分の意見を論理的に書く。他者の立場からの意見も聞き、多面的に物事を考えることができる。
目標③意見の妥当性、正当性を論理的に述べ、相手を納得させる文章や自分の意見を主張する文章を書く。仮定の表現や代替案を示す方法等を活用できる。
目標④示されたテーマについて、自分で問題点を見い出し、自分の意見を論理的に自由に書くことができる。対人関係能力やプレゼンテーション能力を高めることができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）定められた時間内に、自分のことを他の学生や講師にわかりやすく伝えることができる。（言葉での自己紹介、紙面記入による自己紹介）
2回目	（目標①）クイズや演習を通して、自分のことを伝え、他の学生や講師のことを知り、考えたり気付いたりしたことを文章にまとめることができる。
3回目	（目標①）絵本「なんでバイバイするとやか？」の読み聞かせにより、登場人物の立場で考え、気付いたことを、定められた文字数で書くことができる。
4回目	（目標②）示されたテーマに、賛成か反対か、自分の立場を決めて、その理由を定められた条件にしたがって書くことができ、発表できる。
5回目	（目標②）示されたテーマに、賛成か反対か、自分の立場を決めて、その理由を定められた条件にしたがって書き、話し合うことができる。
6回目	（目標②）示されたテーマと条件にしたがって、どちらかの立場を選択し、その理由や根拠を定められた文字数で書くことができ、発表できる。
7回目	（目標②）示されたテーマと条件にしたがって、どちらかの立場を選択し、その理由や根拠を定められた文字数で書き、話し合うことができる。
8回目	（目標③）示されたテーマと条件にしたがって、相手を納得させる文章や自分の意見を主張する文章を書くことができる。
9回目	（目標③）示されたテーマと条件にしたがって、相手を納得させる文章や自分の意見を主張する文章を書き、発表できる。
10回目	（目標③）示されたテーマと条件にしたがって、相手を納得させる文章や自分の意見を主張する文章を書き、話し合うことができる。
11回目	（目標③）示されたテーマと条件にしたがって、相手を納得させる文章や自分の意見を主張する文章を書き、話し合うことができる。
12回目	（目標④）示されたテーマについての自分の意見とその理由を、定められた条件にしたがって書くことができる。
13回目	（目標④）示されたテーマについての自分の意見とその理由を、定められた条件にしたがって書くことができ、発表できる。
14回目	（目標④）示されたテーマについての自分の意見とその理由を、定められた条件にしたがって書き、プレゼンテーションすることができる。
15回目	（目標①）示されたテーマについての自分の意見とその理由を、定められた条件にしたがって書き、プレゼンテーションすることができる。
準備学習 時間外学習	（目標①）授業で使用する資料は毎回プリント配布します。授業時間に記入した課題等は授業後回収し、各自の記入内容を確認し、添削やコメント記入後、翌週以降の授業時に各自返却しますので、ファイル等に綴じて復習してください。前の授業で使用したプリント類はその後の授業での活用もあるので、プリントを綴じるファイル等は毎回授業に持参してください。また、文章記入のため、鉛筆、消しゴム等も毎回授業に持参してください。 （目標②）毎回授業では、上記授業内容と併せて、スライドやプロジェクター等を活用した教材や絵本「なんでバイバイするとやか？」による授業を展開します。併せて、その日の新聞記事等を当日の授業や自宅学習に取り入れることも検討しています。なお、詳細は授業開始後に連絡します。 （目標③）下部の【使用教科書・教材・参考書】に挙げている書籍類は、今後の読解力や文章表現力を主体的・計画的に学んでいく上で参考になるものを挙げています。興味のある方は、自分に合った1冊を持たれると、今後役立つと思われます。（※購入は強制ではありません）
評価方法	定期試験結果による判定とともに、授業への意欲・態度、授業時の課題達成評価（文章作成） ●毎回の授業への出席と授業中の発言や受講態度等（20%）　●授業時の課題に対する達成度＜毎回回収、点検・添削等＞（30%） ●定期試験結果による判定＜判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。＞（50%）
受講生への メッセージ	授業内容の工夫と授業後の振り返りシート等の活用により、皆さんの意見や感想を参考にしながら、より良い授業にしていきたいと思います。 本授業では、毎回講義と文章記入等の個人作業だけではなく、話合い・グループ活動等による演習形式を取り入れて、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：特になし（プリントを配布）
機　材：PC、プロジェクター

2025年度　授業概要

学 科 ：作業療法科

科目名（英）	医学総論Ⅰ Medical Introduction Ⅰ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	長 彰純
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	水曜日・1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

・現代社会の医療分野で生起する医療倫理問題に適切に対処するため、医療倫理に関する基本的事項を修得させる。
・インフォームド・コンセント、生殖技術、臓器移植および安楽死・尊厳死等現代社会の「医療と臨床医学」の問題点を中心に講義をすすめて行きます。
・5～10名程度の小グループにより事例研究を行い、グループ単位で発表をしていただきます。

【到達目標】

目標①：倫理学、生命倫理学、医療倫理学とはどのような学問領域であるのか理解し、倫理学の原理・原則について説明できる。
目標②：生命倫理学における種々の問題を理解し説明できる。
目標③：種々の問題に対して、自分自身で考え、且つ周囲と協力して対処する能力を養うことができる。

授業計画・内容	
1回目	概説、倫理学の位置付け、倫理学諸理論について説明できる。
2回目	生命倫理学の歴史、倫理綱領、法と倫理について説明できる。
3回目	パターナリズム、インフォームド・コンセントについて説明できる。
4回目	ゲノム、遺伝子診断治療、生殖補助医療について説明できる。
5回目	生殖補助医療、再生医療について説明できる。
6回目	脳死と臓器移植、安楽死について説明できる。
7回目	終末期医療、臨床上の倫理的ジレンマについて説明できる。
8回目	授業内容のまとめ
準備学習 時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：倫理学とは、規範の根拠について考える学問です。規範とは「～すべきだ」「～すべきではない」などの文で表現される事柄であり、ルール、戒め、道徳などの内容をなしています。また、それは「権利」「義務」「責任」などの言葉によって表現されることもあります。医療従事者にとって、規範を遵守することは非常に重要な意味があります。作業療法士においては患者様の命を、生活を守るという自身の道徳観に基づいた行動ができるかどうかと言い換える事も出来るでしょう。この機会に是非、作業療法士としての感性を磨いていただきたいと思います。 講義計画：授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書 ： 特になし（プリントを配布）
機　材 ： PC、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	国際教育学Ⅰ International Education Ⅰ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	未定

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

医療現場に関係する英語での表現力の修得を通して、国際的な考え方を理解するとともに、英会話がスムーズにできるようになる。
また、海外研修での日常会話程度の英会話ができるようになる。

【到達目標】

(Course goal) In this course we aim to help students develop English communication skills that can be used in their foreign study trips abroad and in their professional fields thereafter. Students will therefore learn how to communicate in English in a medical environment.
臨床現場に関係した英語表現に慣れ親しみ、実際に英会話が必要とされたときに対応できる能力を修得する。
海外研修時、英語でコミュニケーションをとることができる。
目標①英語でのコミュニケーションスキルを身に付ける。
目標②海外研修およびその後の作業療法分野で英語を使用できる。
目標③医療現場で英語によるコミュニケーションができる。

授業計画・内容	
1回目	Orientation, Introductions（オリエンテーション、自己紹介）
2回目	（目標①）Chap. 1 pp.6~11 Reception: Students will learn how to help patients fill out a clinical registration form and how to politely ask for medical and clinical information.（受付：患者に丁寧に情報について尋ねるかができるようになる）
3回目	（目標①）Chap. 1 pp.6~11 Chapter 1 continued.（第1 章続き）
4回目	（目標①）Chap. 2 pp.12~17 Giving directions: Students will learn how to give correct directional information in a hospital setting.（病院案内：病院案内を英語でできるようになる）
5回目	（目標①）Chap. 2 pp.12~17 Chapter 2 continued.（第2章続き）
6回目	（目標②）Chap. 3 pp.18~23 Anatomy and different types of pain: Students will learn English anatomy. They will also learn how to describe the many different feelings of pain in English.（症状（1）痛み：体の部位に関する単語と痛みの表現を英語でわかるようになる）
7回目	（目標②）Chap. 3 pp.18~23 Chapter 3 cont.（第3 章続き）
8回目	（目標②）Chap. 4 pp.24 ~29 Symptoms and illness: Students will learn how to ask patients whether or not they are suffering from various symptoms.（症状（2）その他：患者の症状について尋ねることができるようになる）
9回目	（目標②）Chap. 5 pp.30~35 Medical history: Students will learn how to politely ask patients about their and their family's medical history.（既往歴・家族歴：患者と家族の病歴について丁寧に尋ねることができるようになる）
10回目	（目標②）Chap. 5 pp.30~35 Chapter 5 cont.（第5 章続き）
11回目	（目標②）Chap. 6 pp.36~41 Allergies and health issues: Students will learn how to ask a patient about their daily habits, how to ask a patient about their allergies and whether or not they are presently taking medication.（アレルギー・生活習慣：習慣、アレルギーや服用している薬について尋ねることができるようになる）
12回目	（目標②）Chap. 6 pp.36~41 Chapter 6 cont.（第6 章続き）
13回目	（目標③）Chap 7 pp. 42-45 Internal medicine: explaining measurements and asking patients about their symptoms.（内科（1）身体測定・診察時の表現：測定や症状について説明することができるようになる）
14回目	（目標③）Chap 7 pp. 42-45 Chapter 7 cont.（第7 章続き）
15回目	（目標①②③）Review Review of chapters 1 to 7（第1－7 章までの復習）
準備学習時間外学習	（目標①）前提：この授業を受けるには、まず日本語で案内方法を予習しておくことが必要です。 （目標②）前提：この授業を受けるには、まず検査方法を予習しておくことが必要です。 （目標③）前提：この授業を受けるには、まず検査・測定を予習しておくことが必要です。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験（100%） 成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	魅力：グローバル化している現代社会において、英会話はコミュニケーションスキルとして必要となっている。臨床現場や海外研修時に英語で対応できるスキルを身に付けることで、より楽しい時間を過ごすことができます。英会話を楽しむことができるように授業展開して行きます。 授業計画：臨床現場や海外研修時に即実践できるよう、演習を交えながら授業を行いますので、体調管理には、気を付けて欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医療英語コミュニケーション テキスト・解答集　国際教育社

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	医学総論Ⅱ Medical introduction Ⅱ	必修選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	山嵜朋枝・小手川郁人
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

医療職業人として、多様な生活・ライフスタイルをもつ人を理解し、その人にとって健康な生活の在り方を考えるための基礎となる生活と健康の関連について学ぶ必要がある。また、人が健康行動をとることができるように支援するために必要な知識についても学習が求められる。
複雑化している現代社会の中で、心身の健康や活力の再新の為に展開されるレクリエーションなどを学び、集団力動を応用した作業療法、人間関係の構築方法やストレスマネジメントについて理解し、説明や実践ができるようになる。

【到達目標】
健康に対する概要と、健康とレクリエーションの関係について理解し、障害・疾患に応じたレクリエーション指導を実施できる。障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を修得する。
〈具体的な目標〉
目標①高齢者に対するレクリエーションの治療的活用方法について説明ができる。
目標②障害者スポーツ初級指導員認定の申請ができる。

	授業計画・内容
1回目	(目標①)高齢者に対するレクリエーションの指導理論について説明ができる。
2回目	(目標①)脳トレを用いるレクリエーションの効果や目的について説明ができる。
3回目	(目標①)歌・音楽を用いるレクリエーションの効果や目的について説明ができる。
4回目	(目標①)季節行事を用いるレクリエーションの効果や目的について説明ができる。
5回目	(目標①)高齢者に対するレクリエーションの計画を立て、学生同士で実施ができる。
6回目	(目標②)パラスポーツの意義と理念について説明ができる。
7回目	(目標②)パラスポーツの種類について説明ができる。
8回目	(目標②)パラスポーツの指導方法について説明ができる。
9回目	(目標②)各分野・疾患に応じたスポーツの治療的活用方法について説明ができる。
10回目	(目標②)日本国内におけるパラスポーツの現状と指導者育成制度について説明ができる。
11回目	(目標②)パラスポーツの実践(障碍者スポーツセンター：車いすバスケット、風船バレー、フロアバレーボール、ボッチャ、サウンドテーブルテニス)①
12回目	(目標②)パラスポーツの実践(障碍者スポーツセンター：車いすバスケット、風船バレー、フロアバレーボール、ボッチャ、サウンドテーブルテニス)②
13回目	(目標②)パラスポーツの実践(障碍者スポーツセンター：車いすバスケット、風船バレー、フロアバレーボール、ボッチャ、サウンドテーブルテニス)③
14回目	
15回目	
準備学習　時間外学習	●疾患に応じたレクリエーション・スポーツについて理解するため、疾患の症状や特徴についての予習が必要です。 ●レクリエーションの計画・実施を行うため、文献を調べたり、講義の復習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識の到達評価を行う。レクリエーション計画書の提出、レクリエーションの実施を行う。 ●レクリエーション計画書の提出、レクリエーションの実施、課題の提出(山嵜先生30%) ●障がい者スポーツセンターにおけるレクリエーションの実施及び課題提出(小手川先生70%) 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	レクリエーションは作業療法の治療手段として多くの分野で取り入れられています。疾患・障害に応じたレクリエーションの活用方法を学ぶことで、対象者への治療選択の幅が拡がります。 授業を通して障害者スポーツ初級指導員認定の申請が可能です。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：緒方正名　監修：最新健康科学概論. 朝倉書店

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	国際教育学Ⅰ International Education Ⅰ	必修選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	ILC
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 未定

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

医療現場に関係する英語での表現力の習得を通して、国際的な考え方を理解するとともに、英会話がスムーズにできるようになる。
また、海外研修での日常会話程度の英会話ができるようになる。

【到達目標】

(Course goal) In this course we aim to help students develop English communication skills that can be used in their foreign study trips abroad and in their professional fields thereafter. Students will therefore learn how to communicate in English in a medical environment.
臨床現場に関係した英語表現に慣れ親しみ、実際に英会話が必要とされたときに対応できる能力を修得する。
海外研修時、英語でコミュニケーションをとることができる。
目標①英語でのコミュニケーションスキルを身に付ける。
目標②海外研修およびその後の作業療法分野で英語を使用できる。
目標③医療現場で英語によるコミュニケーションができる。

授業計画・内容	
1回目	Orientation, Introductions（オリエンテーション、自己紹介）
2回目	（目標①）Chap. 1　pp.6~11 Reception: Students will learn how to help patients fill out a clinical registration form and how to politely ask for medical and clinical information.（受付：患者に丁寧に情報について尋ねるかができるようになる）
3回目	（目標①）Chap. 1　pp.6~11 Chapter 1 continued.（第1 章続き）
4回目	（目標①）Chap. 2　pp.12~17 Giving directions: Students will learn how to give correct directional information in a hospital setting.（病院案内：病院案内を英語でできるようになる）
5回目	（目標①）Chap. 2　pp.12~17 Chapter 2 continued.（第2章続き）
6回目	（目標②）Chap. 3　pp.18~23 Anatomy and different types of pain: Students will learn English anatomy. They will also learn how to describe the many different feelings of pain in English.（症状（1）痛み：体の部位に関する単語と痛みの表現を英語でわかるようになる）
7回目	（目標②）Chap. 3　pp.18~23 Chapter 3 cont.（第3 章続き）
8回目	（目標②）Chap. 4　pp.24 ~29 Symptoms and illness: Students will learn how to ask patients whether or not they are suffering from various symptoms.（症状（2）その他：患者の症状について尋ねることができるようになる）
9回目	（目標②）Chap. 5　pp.30~35 Medical history: Students will learn how to politely ask patients about their and their family's medical history.（既往歴・家族歴：患者と家族の病歴について丁寧に尋ねることができるようになる）
10回目	（目標②）Chap. 5　pp.30~35 Chapter 5 cont.（第5 章続き）
11回目	（目標②）Chap. 6　pp.36~41 Allergies and health issues: Students will learn how to ask a patient about their daily habits, how to ask a patient about their allergies and whether or not they are presently taking medication.（アレルギー・生活習慣：習慣、アレルギーや服用している薬について尋ねることができるようになる）
12回目	（目標②）Chap. 6　pp.36~41 Chapter 6 cont.（第6 章続き）
13回目	（目標③）Chap 7　pp. 42-45 Internal medicine: explaining measurements and asking patients about their symptoms.（内科（1）身体測定・診察時の表現：測定や症状について説明することができるようになる）
14回目	（目標③）Chap 7　pp. 42-45 Chapter 7 cont.（第7 章続き）
15回目	（目標①②③）Review Review of chapters 1 to 7（第1－7 章までの復習）
準備学習時間外学習	（目標①）前提：この授業を受けるには、まず日本語で案内方法を予習しておくことが必要です。 （目標②）前提：この授業を受けるには、まず検査方法を予習しておくことが必要です。 （目標③）前提：この授業を受けるには、まず検査・測定を予習しておくことが必要です。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験（100%） 成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	魅力：グローバル化している現代社会において、英会話はコミュニケーションスキルとして必要となっている。臨床現場や海外研修時に英語で対応できるスキルを身に付けることで、より楽しい時間を過ごすことができます。英会話を楽しむことができるように授業展開して行きます。 授業計画：臨床現場や海外研修時に即実践できるよう、演習を交えながら授業を行いますので、体調管理には、気を付けて欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医療英語コミュニケーション テキスト・解答集　国際教育社

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	情報処理学Ⅰ （Information Processing Ⅰ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	松尾雅宣
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	火曜・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
WindowsのwordやExcelなどのソフトを使用し、基礎的な操作だけでなく、、実用的な文書作成を実践しながら講義演習にて学習する。また、作業療法士として今後、必要となる文書作成（レポート作成）も定型的な一般文書作成を通じて学ぶ。

【到達目標】
文書・表作成ソフトの基本的な操作を行うことができる。また、実習生として作業療法士業務として報告書が作成できる能力を獲得する。
＜具体的な目標＞
目標①Microsoft Wordを操作し、実用的な文書を作成し、編集、印刷ができる。
目標②Microsoft PowerPointを操作し、プレゼンテーション資料を作成することができる。
目標③Microsoft Excelを操作し、表を作成し、グラフや関数を使いこなして集計や分析ができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）Wordの基本操作を学び、文字入力ができる。
2回目	（目標①）Wordを使い、文書作成や印刷、ファイル管理ができる。
3回目	（目標①）Wordのグラフィック機能を使い表現力のある文書を作成できる
4回目	（目標①）Wordの表機能を使い効率的な文書を作成できる
5回目	（目標①）Wordを使い報告書・レポートを作成できる
6回目	（目標②）PowerPointの基本操作、文字が入力できる。
7回目	（目標②）PowerPoint 図形やSmartArtを使ってスライドを作ることができる。
8回目	（目標②）PoerPointで画面切り替えやアニメーションを使ってスライドを作り、発表できる。
9回目	（目標③）Excelの基本操作を学び、文字入力ができる。
10回目	（目標③）Excelでデータを入力しブックを作成できる。
11回目	（目標③）Excelで関数の入力、書式の設定、印刷ができる。
12回目	（目標③）Excelでグラフを作成できる。
13回目	（目標③）Excelでデータを分析できる。
14回目	（目標③）アプリ間でデータを共有できる。
15回目	（目標①②③）定期試験（終講試験の場合あり）
準備学習 時間外学習	（目標①）WordはPCの基本です。操作だけでなく、データの保存や印刷などにも慣れておく必要があります。また、キーボードやマウス操作に慣れ、PC操作がスムーズにできると作業効率が向上します。 （目標②）できるだけPowerPointを使った発表の機会を得るよう心がけ、関心を持つことが大切です。 （目標③）Excelは、実用的な機能や効率的な操作を学習するだけでなく、集計や分析が効率的に行えます。日常の生活で集計や分析を実践することが重要です。
評価方法	Word課題提出（20%）、PowerPoint課題提出（20%）、Excel定期試験結果（60%）による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：現代社会においてPCを的確に操作できるスキルは欠かせないものとなっている。中でも作業療法士はさまざまなプラン立案などを行う関係から、文書作成能力を問われ、文書作成ソフトを使用する機会は非常に多い。その他、PCを操作できることは、日常生活においても非常に有効で有意義なものとなる。そのため本講義は作業を行う演習中心の講義となる。是非この機会を有効に使い、技能習得に役立てていただけることを期待します。 講義計画：講義は講義演習形式です。通常教室と異なりPC教室で行いますので、準備忘れや遅刻のないよう注意が必要です。また、実際にPCを操作して、作業ができるようになることを目標としているので、欠席が続くと作業が出来ないことになりますので、注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
COMPUTER BASIC WORD 2019 滋慶出版、COMPUTER BASIC POWERPOINT 2019 滋慶出版、COMPUTER BASIC EXCEL 2019 滋慶出版
<使用教材>
講義資料（毎講義前に提示）、PC、マイク、プリンタ、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	心理学 Psychology	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	中村　百合香
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜日・3限

【授業の学習内容】

近年、医療分野における心理学の役割は進歩してきている。 リハビリテーション領域においても身体機能面のみならず、患者・障害者の心に共感し、

全人的リハ医療を実践していくには医療行動科学の考え方と方法について学んでいくことは重要である。

この授業で医療人にとって必要な心理学、心理学的介入のための基礎知識を修得することが出来る。

【到達目標】

人の心理と行動について理解する知識と方法を修得し、効果的なリハビリテーションが実践できるようになる。

＜具体的目標＞

目標①　対人関係の心理について説明できる。

目標②　グループダイナミックスについて実習を行い説明できる。

目標③　パーソナリティの理論、検査について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）医療行動科学とは何かを理解し説明できる（医療と心理学、医療の行動科学、心理学関連情報）
2回目	（目標①）心のモデルについて説明できる
3回目	（目標①）学習の理論について説明できる（古典的・道具的条件付け、認知学習など）
4回目	（目標①）記憶の構造と働きについて説明できる（記憶の区分、記憶の障害など）
5回目	（目標①）知覚の様式について説明できる（視覚、聴覚、その他の感覚、痛みなど）
6回目	（目標①）感情について説明できる（情動、感情の機能、感情の障害など）
7回目	（目標①）動機と覚醒水準について説明できる
8回目	（目標②）社会心理学について説明できる（自己と他者、集団の中の個人、集団における人間関係など）
9回目	（目標②）ストレスのメカニズムとコーピングについて説明できる（ストレスの性質、緩和要因、マネジメントなど）
10回目	（目標③）パーソナリティについて説明できる（パーソナリティ理論、形成、諸相、測定など）
11回目	（目標③）知性と感性について説明できる（知能、知能検査、知能の発達と障害など）
12回目	（目標③）心の発達と心の危機について説明できる①（子どもの心の発達、親子関係の発達、中年以降の心理的発達など）
13回目	（目標③）心の発達と心の危機について説明できる②（子どもの心の発達、親子関係の発達、中年以降の心理的発達など）
14回目	（目標③）心理学的介入について説明できる①（精神分析療法、行動療法など）
15回目	（目標③）心理学的介入について説明できる②（カウンセリング、メンタルヘルスなど）
準備学習時間外学習	自宅での予習・復習
評価方法	定期試験
受講生へのメッセージ	講義とグループワークを中心にして行っていきます。 体験を通しての気づきから学んでいくことは大切です。

【使用教科書・教材・参考書】

医療の行動科学Ⅰ　山田冨美雄編集　北大路書房

2025年度　授業概要

学 科 ：作業療法科

科目名（英）	解剖生理学Ⅱ (Anatomical Physiology Ⅱ)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	日高 百代
						実務経験	
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

解剖生理学は様々な側面から人間を理解する上で、また、作業療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠な知識である。
生命現象を細胞レベルで理解できるようになるため、生命体の最小単位である細胞や、人間の身体を構成する組織・器官の構造と機能について学習する。そして、身体各部の形態と機能の相互連関を学び、全体として生命を維持する個体としての人体を説明できるようになる。特に解剖生理学Ⅱにおいては、血液、循環器系、免疫、内分泌の範囲に焦点を当てて学習し、各々の構造と機能について説明ができるようになる。

【到達目標】

血液、循環器系、免疫、内分泌に関係する組織、器官についての形態や血液、循環器系、免疫、内分泌の機能、メカニズムを適切な解剖学・生理学用語を用いて説明ができる。
<具体的な目標>
目標①心臓の構造や機能、体循環・肺循環について説明できる。
目標②動脈・静脈・リンパ管の機能や分布について説明ができる。
目標③血管の構造や血液の機能、血液細胞の役割、循環生理について説明ができる。
目標④免疫の機能やそれに関与する細胞の構造、メカニズムについて説明ができる。
目標⑤内分泌の機能や内分泌器官の構造、各ホルモンの作用について説明ができる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)心臓の構造と体循環・肺循環について説明できる。
2回目	(目標①)心臓の機能と刺激伝導系、心電図について説明できる。
3回目	(目標②)脳の動脈と環流域について説明できる。
4回目	(目標②)全身の動脈分布と触知部位について説明できる。
5回目	(目標②)全身の静脈分布について説明できる。
6回目	(目標②)リンパ性器官とリンパ管の役割について説明できる。
7回目	(目標③)血管の構造と血液の機能について説明ができる。
8回目	(目標③)血液細胞の種類と役割について説明ができる。
9回目	(目標③)心拍出量、心拍数および運動時の生理的な循環反応について説明できる。
10回目	(目標④)免疫の機能、メカニズムについて説明ができる。
11回目	(目標④)免疫反応の種類と抗体の機能について説明ができる。
12回目	(目標⑤)視床下部―下垂体系、松果体の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。
13回目	(目標⑤)甲状腺、上皮小体、膵臓の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。
14回目	(目標⑤)副腎、性腺の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。
15回目	目標①～⑤のまとめ
準備学習時間外学習	●血液、循環器系、免疫、内分泌の構造と機能について理解するためには、解剖学・生理学の教科書をもとに、血液、循環器系、免疫、内分泌の項目について予習が必要です。 ●授業の振り返りとして小テストを実施するため、毎回の授業の復習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識の到達評価を行う。授業の振り返りとして小テストを行う(計3回)。 ●定期試験(70%) ●小テスト(30%) 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	作業療法士として対象者を治療するためには、人体の仕組みについて深く理解しておく必要があります。解剖生理学は、人体の仕組みについて理解する上で基盤となる知識であり、疾病・障害とその治療について学んでいくためにも重要です。覚えなければならない解剖生理学用語が多いため、予習・復習を怠らず、記憶に定着させていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：野村嶬　編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学 第5版. 医学書院
　　石澤光郎, 富永淳　著：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　生理学 第6版. 医学書院

2025年度　授業概要

学 科 ：作業療法科

科目名（英）	病理学 (Pathology)	必修選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	和田 裕子
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 月曜・1-2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

病理学は主に形態学的な観察に基づき、生体に発生する種々の疾患における形態と機能の変化を明らかにすることにより、疾患の本態（原因、発生機序、経過および結果）を科学的理論に基づき究明することを目的としている。疾患の本態を理解する事により、作業療法士として臨床に関連した種々の分野における理論的根拠となる医学的背景を洞察する能力を修得する。

【到達目標】

細胞や組織に起こる種々の病的変化が複雑に関連して、一つの疾患体系が構築されていることを理解し、疾病の原因と身体的変化について説明ができるようになる。

〈具体的な目標〉

目標①病理学の意義と概要について説明ができる。

目標②病因論（内因・外因）について説明ができる。

目標③病理学的変化について説明ができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）病理学の意義と疾病・症候の分類について説明ができる。
2回目	（目標②）病因論：内因について説明ができる。
3回目	（目標②）病因論：外因（栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物的因子）について説明ができる。
4回目	（目標③）退行性病変（変性、萎縮）の病因・病態について説明ができる。
5回目	（目標③）退行性病変（壊死）の病因・病態について説明ができる。
6回目	（目標③）老化のメカニズムについて説明ができる。
7回目	（目標③）循環障害の病因・病態について説明ができる。
8回目	（目標③）代謝異常（アミノ酸、脂質、糖質、無機物質、色素代謝異常）の病因・病態について説明ができる。
9回目	（目標③）進行性病変（肥大、過形成、再生、化生、創傷治癒、移植）の病因・病態について説明ができる。
10回目	（目標③）炎症の病因や徴候、局所の組織障害について説明ができる。
11回目	（目標③）免疫不全、自己免疫現象と自己免疫疾患について説明ができる。
12回目	（目標③）アレルギー反応の分類について説明ができる。
13回目	（目標③）腫瘍の定義と形態、診断方法、グレード・ステージについて説明ができる。
14回目	（目標③）腫瘍の分類、腫瘍の浸潤、転移と発生原因について説明ができる。
15回目	（目標③）先天性異常の原因と遺伝子・染色体の構造、染色体異常による疾患及び奇形について説明ができる。
準備学習 時間外学習	・病因論や病理学的変化について理解するためには、基本的な人の構造や生理学的理解が必要です。そのため、解剖生理学で学んだ内容についての理解は必要不可欠です。病理学分野を深めていくため各講義前には事前学習を行うことを推奨します。 ・毎回の授業の復習や予習が必要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士は、様々な疾患を持つ患者様と関わる機会が多いと言えます。病気に苦しむ患者様の問題を解決するためには、まず病態を理解する必要があります。病理学は「病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問」として定義されており、まさに病態を理解するという点では重要な学問といえるでしょう。病気の原因とメカニズムが理解出来ればその後、解決手法としての治療へ展開する事ができます。治療が出来て生活状態の改善が見られることは、患者様の笑顔に繋がります。これはまさに、作業療法士にとって大きなやりがいに繋がると言えます。この機会に病理学を理解し、患者様の治療に役立ててられるような講義への取り組みを期待します。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】

〈教科書〉

笹野 公伸　他：シンプル病理学．改訂第7版．南江堂

〈使用教材〉

講義資料（毎講義前に提示）、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学 科 ：作業療法科

科目名（英）	臨床心理学 (Clinical Psychology)	必修選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	中村 百合香
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜・2限

【授業の学習内容】

臨床心理学とは、様々な問題行動や心理的な不適応をおこしたり、病理的な問題に心理的要因が関係して特定の状態にあると思われる者に対して、問題行動の改善をはかるための適切な助言や診断、治療を行う心理学の一分野である。この授業では、臨床心理学に関する基礎的知識や医療の場で必要とされる態度・技法を修得する。

【到達目標】

臨床心理学の理論と技法を理解し、体験することで、あらゆる対人援助において必要とされる基本的な態度と心構えを修得する。

＜具体的目標＞

目標① 全人的アプローチBiopsycho socialモデルについて説明できる

目標② ライフサイクルと発達課題について説明できる

目標③ ストレスマネジメント、ヘルスプロモーションについて説明できる。

目標④ 臨床で出会う患者への心理学的支援法について理解し説明できる

授業計画・内容	
1回目	医療行動科学としての臨床心理学について説明できる
2回目	全人的アプローチ：Baiopsycho socialモデル
3回目	心身相関について理解し説明できる
4回目	ライフサイクルとライフタスクについて理解し説明できる
5回目	ストレスの考え方について説明できる
6回目	傾聴について説明できる①
7回目	傾聴について説明できる②
8回目	転移・逆転移について説明できる
9回目	がんサバイバーへの心理学的支援について説明できる
10回目	心理的幸福感とQOLについて説明できる
11回目	心理検査について説明できる①
12回目	心理検査について説明できる②
13回目	心理療法について説明できる
14回目	臨床でよく出会う患者について説明できる
15回目	臨床でよく出会う患者についての心理的なアプローチについて説明できる
準備学習 時間外学習	自宅での予習・復習
評価方法	定期試験
受講生へのメッセージ	講義とグループワークを中心にして行っていきます。 体験を通しての気づきから学んでいくことは大切です。

【使用教科書・教材・参考書】

山田冨美雄(編)(2019). シリーズ医療の行動科学Ⅰ　医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー　北大路書房

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	内科学（Internal Medicine）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	勝田 仁
						実務経験	
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜・3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
内科学では、1年次で学習した生理学知識に基づいて、様々な内科的症候や疾患について学ぶ。日常で見られる発熱は、どのような疾患に見られるのかなどを知り、作業療法士として今後関わっていく患者様の状態を想像しながら、病気について学ぶ。同時に解剖生理学で学んだ知識を再確認しながら、疾患との関係性を具体的に説明できる能力を獲得することが本講義の主な学習内容である。

【到達目標】
内科学では、解剖・生理学の知識を用いて、内科疾患に対する理解を深め各病態で見られる症状について説明ができることを到達目標と定める。

＜具体的な目標＞
目標①生理学の知識に基づいて、身体に生じる症候について説明できる。
目標②各臓器における解剖・生理学知識を用いて、その疾患症状などの特徴について説明できる。
目標③細胞・組織・臓器の解剖生理について理解し、その特徴について説明できる。
目標④内科系疾患について理解し、その特徴を説明できる。

授業計画・内容		
1回目	(目標①②)循環器系について(1回目)	心疾患の特徴や弁膜症、先天性心疾患について説明できる。また心電図を読むことができる。
2回目	(目標①②)循環器系について(2回目)	心疾患の特徴や弁膜症、先天性心疾患について説明できる。また心電図を読むことができる。
3回目	(目標①)呼吸器系について(1回目)	異常な呼吸について分類しその特徴を説明できる。呼吸不全を分類し説明できる。胸部X線読影ができる。
4回目	(目標①)呼吸器系について(2回目)	異常な呼吸について分類しその特徴を説明できる。呼吸不全を分類し説明できる。胸部X線読影ができる。
5回目	(目標①②)消化器系について	消化管の役割・症候・疾患の特徴を理解し説明できる。
6回目	(目標①②)肝臓について	肝臓・胆疾患について理解し説明できる。
7回目	(目標③)血液について	血液疾患(赤血球・白血球)を区別することができる。またその疾患を列挙し、特徴を説明できる。
8回目	(目標③④)代謝について	代謝調節の仕組みと代謝性疾患について理解し説明できる。
9回目	(目標③④)内分泌について	器官の構造・形態・機能およびホルモンの作用機序を説明できる。内分泌疾患について理解し説明できる。
10回目	(目標③④)腎・泌尿器について	腎・泌尿器疾患について理解し説明できる
11回目	(目標④)免疫について	自己免疫疾患について説明できる。膠原病について説明できる。
12回目	(目標④)感染症について	感染症を分類しその特徴を説明できる。中毒および環境要因による疾患について列挙し説明できる。
13回目	(目標①)発熱、浮腫、腹脹などの症状および全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐などの症状について説明できる。	
14回目	(目標①)内科学の概念および症候学の必要性を説明できる。作業療法士の関わりを説明できる。	
15回目	(目標①②③④)各疾患の復習	

準備学習 時間外学習	(目標①)内科学は、人の本来持つべき調整機能の破綻からくる病態であり、生理学との関連性が非常に強く解剖生理学Ⅰの理解は必要不可欠です。そのため、特に生理学に関する内容については重点的に復習が必要です。 (目標②)各臓器の役割についての分野もあるため、人の構造的理解が必要です。そのため、解剖生理学ⅠⅡで学んだ構造に関する特徴理解に関する内容は必要不可欠で、解剖生理学の復習が重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士として内科疾患を持つ患者様と関わる機会は多いと言えます。病前と同様の生活が営めない状態に陥った方々が、医師を中心とした他職種との連携により、病状が軽快し、生活状態の改善が見られることで、患者様の笑顔に繋がります。そのためには解剖学・生理学的知識に基づき、内科疾患の特徴を把握した上で適切な治療を選択していく必要があります。内科疾患の多くは服薬治療が中心となりますが、その副作用等を踏まえながら作業療法を実施することは非常に難しいことです。しかし、成果が見られた時には喜びも大きくなります。この機会に内科疾患を理解し、多くの患者様の治療に役立てていただきたいと思います。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は内科の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
奈良勲他：標準理学療法・作業療法学　専門基礎分野　内科学　医学書院
<使用教材>
講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

敬称略

科目名（英）	一般臨床医学Ⅰ（General Clinical Medicine Ⅰ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	北原秀治、上城憲司
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	

救急医療は医の原点とも言われており、救急患者は実に多種多様で、年齢をとってみても新生児から100歳を超える老人までいる。症状も多彩で、疾病もあれば外傷もあり、重症度も軽症から重篤なものまで幅が広い。このような中で、老年医療、救急救命医療は時間的制約の中、医師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、また救急救命士を含む、その他コ・メディカルとの連携のとれたチーム医療により達成される。老年学及び救急医療・災害医療の概念を知り、心肺蘇生法を初めとする各種救命医療について知識を深め、ｺ･ﾒﾃﾞｨｶﾙとしてのチーム医療における役割を説明できる。

【到達目標】

救急患者の各種の特殊病態を理解し、それらをもたらす疾患と各々の症状、必要な処置などの知識について説明でき、ｺ･ﾒﾃﾞｨｶﾙとしてのチーム医療における、理学療法士および作業療法士の役割を理解し説明できる。

目標①救急病態の総論・各論について学び説明できる。
目標②老年医学の病態や治療方法について学び説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）救急医学総論、プレホスピタルケアの基本ついて説明できる。
2回目	（目標①）救命処置（一次、二次救命）の基本ついて説明できる。
3回目	（目標①）救急疾患各論（外傷、熱傷）について理解し説明できる。
4回目	（目標①）救急疾患各論（中毒、環境障害、特殊疾患）について理解し説明できる。
5回目	（目標①）救急疾患各論（内因性障害）について理解し説明できる。
6回目	（目標①）救急疾患各論（ショック）について理解し説明できる。
7回目	（目標①）ICU管理について理解し説明できる。
8回目	（目標①）救急症候学、災害医療について理解し説明できる。
9回目	（目標②）高齢者の一般的概念について理解し説明ができる。
10回目	（目標②）高齢社会 ①（高齢者の健康増進に関わる理学療法について説明できる。）
11回目	（目標②）高齢社会 ②（高齢者に多い疾病の病態について説明できる。）
12回目	（目標②）介護保険制度における仕組みやサービス内容について理解し説明できる。
13回目	（目標②）高齢者へのリハビリテーションについて説明できる。
14回目	（目標②）高齢者に多くみられる疾患 ①（脳障害、骨関節疾患などについて理解し説明できる。）
15回目	（目標②）高齢者に多くみられる疾患 ②（循環器疾患、肺疾患などについて理解し説明できる。）
準備学習時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士として一般臨床医学で学ぶ疾病単独での関わりは多いとは言えませんが、合併症として併発しているものと関わる機会が非常に多いと言えます。特に高齢者においては関わりの深い分野でしょう。超高齢社会となりつつある現代社会において、高齢者の健康増進に関わる作業療法士の役割は多く求められており、一般臨床医学で学ぶ多くの特徴的疾患を理解し、治療に活かせることで、患者様からの信頼を得ることができるといえます。 講義計画：授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学　第5版（医学書院）
メディカルスタッフのための救急医学　第2版（医学出版社）

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

敬称略

科目名（英）	一般臨床医学Ⅱ（General Clinical Medicine Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	鬼塚 龍
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜・2限

【授業の学習内容】
一般臨床医学Ⅱでは臨床薬学について学ぶ。これらを踏まえた上で、リハビリテーションに至るまでの流れを学ぶ。

【到達目標】
臨床で処方される薬剤について、医薬品の用法や薬物動態、効能や副作用および相互作用や、リハビリテーションにおける留意点を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	医薬品の種類と特徴について説明できる。
2回目	医薬品の薬物動態、依存と薬物中毒について説明できる。
3回目	神経の構造、分類とはたらき、睡眠薬、麻酔薬について説明できる。
4回目	精神疾患、循環器系疾患と薬物療法について説明できる。
5回目	アレルギーの疾患の薬物療法について説明できる。
6回目	がん、感染症と治療について説明できる。
7回目	医薬品の処方・調剤・与薬・服用の過程における医療安全上のリスク、多職種連携医療安全対策について説明できる。
8回目	医薬品の処方・調剤・与薬・服用の過程における医療安全上のリスク、多職種連携医療安全対策について説明できる。
準備学習時間外学習	1年次で学習してきた解剖学・生理学・病理学の復習が重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。（場合によっては終講試験を行うことがある。） 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士として一般臨床医学Ⅱで学ぶ薬理学、臨床薬学の基礎知識は、臨床で患者様に関わる際に留意すべき点となることが非常に多いと言えます。一般臨床医学Ⅱで学ぶ多くの知識を理解し治療に活かせることで、患者様からの信頼を得る事ができるといえます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材を講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂3版　羊土社
<使用教材>
講義資料（毎講義前に提示）、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	一般臨床医学Ⅲ（General Clinical MedicineⅢ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	北原　秀治、秋山 謙太
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】

一般臨床医学Ⅰ及びⅡで学んだ内容を踏まえて、一般臨床医学Ⅲでは更に多くの疾患に対する理解を深める。主には内科学の補足として予防医学、栄養学、臨床薬学、画像診断について学ぶ。これらを踏まえた上で、リハビリテーションに至るまでの流れを学ぶ。

【到達目標】
フレイルの病態や予防法などの基礎知識についての基礎を学び説明できる。
身体の画像診断に必要な知識と画像の見方についていえる。
＜具体的な目標＞
目標①栄養に関わる疾患と対応について説明できる。
目標②画像診断の方法について理解し説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)栄養素の消化・吸収の仕組みと体内での挙動を簡潔に説明できる。
2回目	(目標①)糖質と脂質の代謝. 脂質、脂質が関与する疾患について説明できる。
3回目	(目標①)ビタミンとミネラルの体内での代謝と働き、水分と電解質の役割について説明できる。
4回目	(目標①)体内でのタンパク質の代謝と利用. 他の栄養素との関係.、タンパク質が関与する疾患について説明できる。
5回目	(目標①)体内でのタンパク質の代謝と利用. 他の栄養素との関係.、タンパク質が関与する疾患への対応について説明できる。
6回目	(目標②)脳卒中の病態について
7回目	(目標②)脳卒中の症状(陽性徴候・陰性徴候)について
8回目	(目標②)中枢神経系の機能基盤となる局在とその画像について①
9回目	(目標②)中枢神経系の機能基盤となる局在とその画像について②
10回目	(目標②)中枢神経系の機能基盤となる局在とその画像について③
11回目	(目標②)神経原性疾患(ALS)の画像所見とその評価について
12回目	(目標②)神経原性疾患(MS)の画像所見とその評価について
13回目	(目標②)脳卒中における中枢性疼痛の神経メカニズム
14回目	(目標②)脳卒中における中枢性疼痛を画像から捉える
15回目	(目標②)脊椎・脊髄疾患の画像診断評価について
準備学習時間外学習	(目標③)2年次までに学習してきた内科学の復習が重要です。 (目標②)1年～2年次までに学習してきた解剖生理学の復習が重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：作業療法士として一般臨床医学Ⅲで学ぶ臨床医学の基礎知識は、臨床で患者様に関わる際に留意すべき点となることが非常に多いと言えます。特に高齢者においては関わりの深い分野でしょう。超高齢社会となりつつある現代社会において、高齢者の健康増進に関わる作業療法士の役割は多く求められています。一般臨床医学Ⅲで学ぶ多くの知識を理解し治療に活かせることで、患者様からの信頼を得る事ができるといえます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は臨床で診ることの多い一般的内容となっていますが、講義範囲が広いため遅刻・欠席すると内容理解が難しくなります。遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
なし
<使用教材>
講義資料（毎講義前に提示）、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学科：　作業療法科

科目名（英）	人間関係論Ⅰ （ Communication Theory Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	矢野　隆子
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	金曜・2限

【授業の学習内容】
作業療法士としての対人援助における関わりとしてコミュニケーション能力が重要である。基本的な知識を踏まえ、その応用に習熟してコミュニケーションを発揮し実践効果が期待できるようになることが望まれる。この授業では基本的知識を学習することでコミュニケーション の基礎力を向上させ自己理解と気づきを深める。手法として話し方や聴き方を学ぶ。更に社会人として必要な「報告・連絡・相談」、社内外文書の作成スキルなども学ぶ。

【到達目標】
社会人として、他者と適切なコミュニケーションを図ることができるために、基本的な社会的スキルを修得し、適切な対人行動を実践できる。また、社内外での適切な文書の送付の仕方やサービスマインドを持って対象者と接することが実践できる。以上の目標を実施できることで、社会化を図ることを到達目標とする。

＜具体的な目標＞
目標①自己理解をし、肯定的で円滑なコミュニケーションを実践できる。
目標②セルフマネジメントを行いながらグループにおける自身の役割を知ることができる。
目標③社会的スキルを理解し、実践ができる。

授業計画・内容	
1回目	信頼される援助者となるために（教科の目的と授業法）（目標①）コミュニケーションの定義、種類、基本的対話スキルについて説明ができる。
2回目	（目標①基本的対話スキル「話すの基本」「聴くの基本」「上手な質問の仕方」ノンバーバルコミュニケーション・グループでの会話が説明できる。
3回目	（目標②）自己表現スキル、挨拶の意味が説明できる。困ったときの上手な頼み方、断り方を実践できる。
4回目	（目標②）自己表現スキル、仕事の基本「報告・連絡・相談」「交渉」「説得」「プレゼンテーション」の基本.[怒りの感情の扱い方」が説明できる。
5回目	（目標③）社会的スキル（挨拶」敬語」「電話対応」「接客」「訪問」「謝罪」を実践できる。
6回目	（目標③）社会的スキル、「社内文書・社外文書」「（手紙」「メール」「SNS」「FAX」を実践できる。
7回目	（目標③）サービスマインド、サービスとは何かについて説明できる。サービスの基本要素「人」「環境」「プロセス」について説明ができる。
8回目	目標①～③のまとめ
準備学習 時間外学習	（目標①）自己理解は他者を知る上で重要です。他者とコミュニケーションを図る際に意識的に自分自身を評することで、適切な対人行動とはどのようなものか理解できます。自己理解を意識的に取り組みましょう。 （目標②）怒りの感情などは特にコントロールが難しいものです。しかし、これらを含めた感情のセルフマネジメントを実践する事は、非常に重要と言われています。交友関係などのコミュニケーション場面では特に意識して取り組む事で、理解し実践することができるようになります。 （目標③）実際に学習した内容（挨拶などのコミュニケーション手法）を学内や個々の生活状況に合わせて実践できることが重要です。演習内で取り組んで終わりにならないよう、継続して実践する事で今後の実習や臨床へ繋がっていきます。意識的に取り組んでいくことを推奨します。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。
受講生への メッセージ	**魅力**：現代社会においてコミュニケーション能力は、プライベートの関係性・仕事上の関係性問わず重要な技能となります。特に対人援助職者においては、相手の状況に寄り添ったきめ細やかな配慮が必要となり、それらを表現するためのツールとして必須なものがコミュニケーションであると言えます。そのため、作業療法士として今後仕事を行う上で、必要な技能と言えるでしょう。また、それだけに留まらず、自身のプライベートにも応用できるための学びが出来るという意味でも有意義な講義であると考えます。是非この機会に、コミュニケーションとは何か考えるきっかけを持ってもらえたらと思います。 **講義計画**：講義形式になります。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
コミュニケーション　スキルアップ検定テキスト：みつわ印刷

<使用教材>
講義資料（毎講義前に提示）、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	人間関係論Ⅱ （ Communication Theory Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	矢野　隆子
						実務経験	
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
病院や施設などの医療現場では、専門的な知識技術だけではなく、円滑な対人関係を築くための能力が必要である。其のためには人間関係論Ⅰで学んだ適切な対人行動の実践スキルを生かして、コミュニケーションの大前提である接遇マナーを学習する、この講義では、社会人として、医療従事者としてリハビリテーションの実践場面における円滑な人間関係構築のための笑顔、挨拶、身だしなみ、言葉遣い、態度などを身につけ、現場で求められる社会人として、魅力ある人材を目指す。

【到達目標】
社会人として、他者と適切なコミュニケーションを図ることができるために、自己理解ができる。演習を通じて基本的な社会的スキルを習得し、適切な対人行動を実践できる。また、社内外での適切な文書の送付の仕方やサービスマインドを持って対象者と接することが実践できる。以上の目標を実施できることで、社会化を図ることを到達目標とする。

＜具体的な目標＞
目標①職場内でのルールを理解し、適切な関係性を構築するために必要な行動を対象者に実践することができる。
目標②適切な言葉遣いを理解し、具体的な場面で実践できる。
目標③電話応対や来客応対の基本を理解し、具体的な場面で実践できる

授業計画・内容	
1回目	（目標①）職場での基本ルールとマナー、適切な態度と行動が実践できる。
2回目	（目標①）挨拶と声掛け、身だしなみ、メールの書き方・封筒の書き方が説明、実践できる。
3回目	（目標①）心配りを示す言葉づかい、好ましい言葉づかいと好ましくない言葉づかいを説明できる。
4回目	（目標②）信頼感を得る敬語とはどのようなものか説明できる。敬語の種類を理解し、使い分けすることができる。
5回目	（目標②）受付から来客応対までの適切な対応の仕方を理解し説明ができる。
6回目	（目標②）言葉づかいを振り返り、病室からリハビリ室までの案内をロールプレイで実践できる。
7回目	（目標③　電話の受け方、かけ方、伝言の受け方を理解し、実践できる。
8回目	（目標①②③）まとめ
準備学習時間外学習	（目標①②③）仕事を円滑に進めていく上で職場内での基本ルールやマナーを理解し適切な行動が取れることは重要です。アルバイトなどで関係性の構築を深めている学生にはより意識しながら先輩や同僚といった方々との関係を更に深めていただきたいと思います。接遇マナーを理解し、実践するためには1年次に学習した人間関係論Ⅰの復習が重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第10条の通りとする。
受講生へのメッセージ	**魅力**：現代社会においてコミュニケーション能力は、プライベートの関係性、仕事上の関係性を問わず重要な技能となります。特に医療従事者においては、患者様の状況に寄り添ったきめ細やかな配慮が必要となり、それらを表現するためのツールとして必須なものがコミュニケーションの大前提である接遇です。接遇の5原則である挨拶、笑顔、身だしなみ、言葉遣い、態度は作業療法士として今後仕事を行う上で、必要な技能と言えるでしょう。また、それだけに留まらず、自身の日常に応用できるという意味でも有意義な講義です。 講義は講義形式となります。

【使用教科書・教材・参考書】
「接遇マナー」コミュニケーション・ラウンジYANO　矢野隆子
＜参考資料＞
患者接遇マナー基本テキスト　有限会社　ソーシャルスキルアカデミー　編者　田中千恵子

〈使用教材〉　講義資料、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

科目名（英）	解剖生理学Ⅲ（Anatomical Physiology Ⅲ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	西嶋　克司
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	火曜・1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。作業療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学Ⅲでは、解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ解剖生理学の基礎分野を発展させて各臓器別の特徴などを中心に学習する。

【到達目標】
解剖生理学の基礎的知識である人を構成する各臓器の役割や機能について説明ができるようになる。

＜具体的な目標＞
目標①各臓器の構造的特徴について説明できる。
目標②各臓器の調節機能などについて説明できる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）口腔、咽頭、食道の特徴について説明できる。
2回目	（目標①）胃、小腸、大腸の特徴について説明できる。
3回目	（目標①）肝臓、膵臓の特徴について説明できる。
4回目	（目標①）口腔から胃までの消化について説明できる。
5回目	（目標①）小腸から大腸までの消化について説明できる。
6回目	（目標②）吸収について説明できる。
7回目	（目標②）肝臓の機能について説明できる。
8回目	（目標①）呼吸器の形態について説明できる。
9回目	（目標②）呼吸運動と肺気量について説明できる。
10回目	（目標②）ガス交換と呼吸の調節について説明できる。
11回目	（目標①）泌尿器の形態について説明できる。
12回目	（目標①②）排泄について説明できる。
13回目	（目標②）酸・塩基平衡について説明できる。
14回目	（目標①）生殖器の特徴について説明できる。
15回目	目標①・②のまとめ
準備学習時間外学習	（目標①・②）前提条件として、解剖学的基礎知識の修得が必要です。確認のための講義を何回か準備はしていますが、復習の時間が不十分であると、本講義を理解する事ができません。そのため、各臓器の構造的特徴や調節機能について理解するという目標達成が困難となります。予習・復習をしっかりすることを怠らないようにしてください。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	**魅力**：作業療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、作業療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけで見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは作業療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である作業療法士に近づくために、この解剖生理学の理解を深めることが重要と思いますので、この機会にしっかりと学ばれてください。 **講義計画**：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学Ⅰ・Ⅱを深めていくものとなります。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

＜使用教科書＞
野村嶬編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学第5版.医学書院
石澤光郎他：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　生理学第6版.医学書院

＜使用教材＞
講義資料（毎講義前に提示）、人体模型、AV教育機材（液晶プロジェクター、ビデオ装置など）

2025年度　授業概要

学科：作業療法科

敬称略

科目名（英）	神経内科学 (Neuro Internal Medicine)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	小俵　譽子
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	金曜・1限

【授業の学習内容】
神経内科学は解剖生理学で学んだ知識に基づいて、神経内科疾患の概要や各疾患の理解ができるため、講義を中心として進める。神経内科学の主な疾患としては、パーキンソン病、脳血管障害、認知症など高齢者に多い疾患との関わりがあるが、それだけではなく睡眠障害や精神障害など幅広いテーマに基づき、理解を深める事を本講義で学習する。
※実務者経験：2018年より大学病院などで神経内科医として多くの患者様の治療に関わっている。

【到達目標】
神経内科疾患について、それぞれの特徴について説明できる。作業療法士として内科疾患との関わりについて説明できる。
＜具体的な目標＞
目標①神経症候について理解し、運動麻痺などさまざまな症状、障害の違いなどを説明できる。
目標②各神経疾患について理解し、それぞれの疾患特徴について説明できる。
目標③神経疾患の概念について説明できる。またその疾患における検査手法についても説明できる。
目標④各種神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標)神経解剖生理学について理解し、説明できる。
2回目	(目標)神経症候について理解し、運動麻痺、運動失調、不随意運動について説明できる。
3回目	(目標)神経症候について理解し、錐体外路障害、歩行障害、感覚障害について説明できる。
4回目	(目標)神経疾患について理解し、脳神経障害, 構音・嚥下障害、意識障害、神経性疼痛について説明できる。
5回目	(目標)神経症候について理解し、精神障害、睡眠障害、自律神経障害について説明できる。
6回目	(目標)神経症候について理解し、高次脳機能障害、認知症について説明できる。
7回目	(目標)神経内科に関わる各種検査について理解し、説明できる。
8回目	(目標)脳血管障害の症候を理解し説明でき、画像検査所見を読影することができる。
9回目	(目標)脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患について理解し説明できる。
10回目	(目標)代表的な末梢神経障害について理解し説明できる。
11回目	(目標)脳腫瘍、頭部外傷、機能性疾患(主にてんかん)について理解し説明できる。
12回目	(目標)脱髄免疫性疾患、脊椎疾患について説明できる。
13回目	(目標)筋疾患について説明できる。
14回目	(目標)主な中枢神経感染症、代謝性疾患、中毒、先天異常疾患について説明できる。
15回目	(目標)総括
準備学習時間外学習	(目標)各神経症候を理解するためには、学習した解剖生理学の理解が必要不可欠です。それぞれのテーマに基づいて復習が重要です。
評価方法	判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：神経内科疾患は難解なものが多く、その症状の理解には神経に関する解剖生理学の基礎知識が土台になってきます。履修する範囲が広いので、しっかりと復習として知識を身につけてください。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は神経内科の概要～専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
安藤一也他:リハビリテーションのための神経内科学第2版.医歯薬出版
<使用教材>
講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	上城　憲司
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

この講義は主に，障害の構造や疾患の特性，感染症対策，住宅改修，法制度など臨床でコメディカルが必要とする内容について学び，科学的かつ多角的な視点で考えられるようになります．

【到達目標】

①リハビリテーションの理念と障害構造について説明できる．
②保健・医療・福祉の連携について説明できる．
③病期別の疾患特性と介入方法について説明できる．
④住環境，地域の中で作業療法士の活動範囲について説明できる．

授業計画・内容	
1回目	リハビリテーションの歴史について説明ができる．
2回目	障害構造（ICF）・障害受容について説明ができる．
3回目	記録・報告について（SOAP）説明ができる．
4回目	感染症対策について説明ができる．
5回目	リスク管理について説明ができる．
6回目	住環境，住宅改修について説明ができる．
7回目	ノーマライゼーションについて説明ができる．
8回目	予防医学について説明ができる．
9回目	関係法規（障害者総合支援法，医療法，PT・OT法など）について説明ができる．
10回目	地域包括ケアシステムについて説明ができる．
11回目	介護保険制度について説明ができる．
12回目	面接・観察，インフォームドコンセントについて説明ができる．
13回目	保健統計学について説明ができる．
14回目	高齢者，社会情勢について説明ができる．
15回目	臨床実習における対応について説明ができる．
準備学習時間外学習	各講義終了時に次回の講義範囲を提示するので，その部分を予習すること（予習時間60分）．復習は，講義資料を中心に板書を基に講義ノートを作成し，まとめること（復習時間60分）．
評価方法	筆記試験と参加度で成績評価を行う．参加度は，授業への参加態度や回答，発表への積極性を鑑みて，総合的に判断する． ●筆記試験（90%） ●参加度（10%） 割合で成績評価を行う．
受講生へのメッセージ	リハビリテーション医学は医療における基本領域として，幅広い範囲を包括します．医療における法制度，社会情勢，保健統計学，リスクマネジメントなどを学んでいきます．近年の国家試験でも頻出分野ですので，板書，講義資料，演習課題をつかって自分なりに解いてみましょう．そうすることで，具体的に理解できます．

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：なし

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	リハビリテーション概論 (Introduction to Rehabilitation)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	長　彰純・永田敬生
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	前期・後期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念(自立支援、就労支援等を含む)、目的を理解し、作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について学習する必要がある。当事者によるリハビリテーション体験や講義を通して、障害者心理や基本的人権を理解し、クライエント中心の立場に立つ根拠を学ぶ。また、各障害に応じた作業療法士の具体的なアプローチ方法について説明ができるようになる。

【到達目標】

リハビリテーションの理念と目的を理解し、各領域の専門性について説明ができる。障害者心理を理解し、クライエント中心の作業療法の重要性について説明ができる。

〈具体的な目標〉

目標①リハビリテーションの理念と目的について説明ができる。
目標②疾患・障害に応じたリハビリテーションの方法について説明ができる。
目標③障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。
目標④リハビリテーション医療における作業療法士の役割、多職種連携について説明ができる。

	授業計画・内容
1回目	(目標①)リハビリテーションの理念と目的について説明ができる。
2回目	(目標②)活動制限とそのリハビリテーションについて説明ができる。
3回目	(目標②)参加制約とそのリハビリテーションについて説明ができる。
4回目	(目標③)障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。
5回目	(目標②)各領域のリハビリテーションの特性について説明ができる。
6回目	(目標④)リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について説明ができる。
7回目	(目標④)リハビリテーション医療における作業療法士の役割について説明ができる。
8回目	(目標①～④)障害者心理を理解し、クライエント中心の作業療法の重要性について説明ができる。
9回目	(目標③)作業療法を経験した当事者の経験談を聞き、障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。 脳卒中片麻痺当事者A氏「だから、作業療法が大好きです！一旅とパスタとリハビリとーー」
10回目	(目標③)作業療法を経験した当事者の経験談を聞き、障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。 筋ジストロフィー福山型四肢麻痺当事者「小さな夢を一つ一つ叶え続けた人生出来る喜び 人の役に立つ喜びが生きる力にかわる」
11回目	(目標③)作業療法を経験した当事者の経験談を聞き、障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。 脳卒中片麻痺当事者B氏「この出会いに感謝！ ～私の思うリハビリとは…そして作業療法とは…患者に接する心構えをお伝えします～」
12回目	(目標③)作業療法を経験した当事者の経験談を聞き、障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。 脳卒中片麻痺当事者B氏「下町キッチン」…お菓子作りを実際に行う実習型授業
13回目	(目標③)作業療法を経験した当事者の経験談を聞き、障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。 脳卒中片麻痺当事者C氏[人生で今が一番楽しい！～使える右手で夢ができた！～]
14回目	(目標③)作業療法を経験した当事者の経験談を聞き、障害者心理や基本的人権について理解し、説明ができる。 脳卒中片麻痺当事者C氏「「ストーンアート」…絵画描写を実際に起こなう実習型授業」
15回目	リハビリテーションとは何か理解し、説明することができる。
準備学習時間外学習	●疾患に応じたリハビリテーションの方法について理解するため、疾患の症状や特徴についての予習が必要です。 ●定期試験やレポート提出に向けた講義の復習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識の到達評価を行う。授業を通して学んだことについて課題やレポート提出を行う。 ●課題及びレポート(100%)
受講生へのメッセージ	作業療法士として対象者にリハビリテーションを提供するための基盤となる知識を学ぶことができます。 当事者の先生による講義を通して、対象者の視点に立ち、想いに寄り添うことのできる作業療法士の考え方を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

資料

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	職業関連技術論 (Job-related Skill)	必修選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	松﨑　正晃
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
						曜日・時限	水・1限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

本講義では、障がい者の就労支援を中心としたキャリア形成について教授します。そのためには、まず、ひとのキャリア形成について基本的な知識を講義します。次いで、障がい者におけるキャリア形成（再形成）がどのように行われるかを基本的な考えを講義します。これらのキャリア論を根底にして、成人領域に該当する就労支援及び特別支援学校における取り組み、終末期の作業療法がどのように実践されるか現場の見学を通して学びします。

【到達目標】

目標①：キャリア形成について自分なりの見解を述べることができる。
目標②：「障害者の就労」について、背景、評価、支援について述べることができる。

授業計画・内容	
1回目	目標①：オリエンテーション、ひとのキャリア形成について概略を簡潔に説明できる
2回目	目標①：障害者のキャリア形成について概略を簡潔に説明できる
3回目	目標②：ひとと職業（障がい者が働くことの意味）について概略を簡潔に説明できる
4回目	目標②：障害者の就労にかかわる諸制度について概略を簡潔に説明できる
5回目	目標②：障害者の就労支援過程について概略を簡潔に説明できる
6回目	目標②：就労支援に関わる作業療法　＜評価＞の技法を簡潔に説明できる①
7回目	目標②：就労支援に関わる作業療法　＜評価＞の技法を簡潔に説明できる②
8回目	目標②：就労支援に関わる作業療法　＜介入＞の段取りや方法を簡潔に説明できる①
9回目	目標②：就労支援に関わる作業療法　＜介入＞の段取りや方法を簡潔に説明できる②
10回目	目標②：就労継続支援A及びBの施設概要について説明できる
11回目	目標②：福祉工場の施設概要について説明できる
12回目	目標②特別支援学校で行われる教育について概要を説明できる
13回目	目標②：作業学習の実施場所と目的、一般的な方法の概略を説明できる
14回目	目標②：特別支援学校で実践されている「作業学習」の概略を説明できる
15回目	目標②：就労支援に関わる施設の業務について概略を説明できる
準備学習　時間外学習	講義内容や見学内容について、その学びを深めることを目標としたいと思っています。 授業では、就労支援に関わる法制度など時事情報にも触れるので、授業の内容についてくることが容易になるように、ニュースなどの報道で就労支援に関わる情報には関心を持ち視聴して頂きたいと思っています。
評価方法	筆記試験（100%）
受講生へのメッセージ	現代社会に限らず、ひとは社会の中で生きています。言いかえれば、ひとは役割を持って生きており、このことによってひとは生きがいを感じているのであす。作業療法士は、対象者が障害を負うことで失った役割を再度獲得することで「権利」を回復させる役割を持っています。このことを理解のうえで授業に臨んで気ださい。

【使用教科書・教材・参考書】

【教科書】
【参考書】授業の中で、適宜紹介します。
【機　材】PC、プロジェクター、ビデオ装置を使用することがある

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	チーム医療論 (Team Approach to Health Care)	必修選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	永田敬生、臨床実習指導者
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 不定期

【授業の学習内容】

作業療法の周辺領域の理論、治療や援助方法、チーム医療や管理運営の実例を教授する。さらに、臨床実習で作業療法を実施する際の検査・測定および観察事項の解釈、そして治療計画の立案・修正の考えるべき具体的事項について実例などを通して教授する。そして、ここで学んだ臨床現場における多職種連携やチーム医療の実践を臨床実習で活用できるようになる。

【到達目標】

認知症、内部疾患に対する作業療法の基本的事項を言える。
臨床で多々用いられている作業療法の評価技法・理論の概略を説明し、実施方法を列挙できる。
脳血管障害における作業療法の役割とチーム医療の実践について説明することができる。
臨床で求められる作業療法評価及び治療を進めるための段取りと心構えを言える。
臨床現場における多職種連携やチーム医療に関して説明することができる。

授業計画・内容	
1回目	認知症の人に対する作業療法の基本的対応方法を列挙できる
2回目	認知症の人に対する作業療法評価及び治療方法について列挙できる
3回目	認知症の評価技法の演習を通して（教員のアドバイスを得ながらもしくは模倣のうえで）実施できる
4回目	認知症の方に対する作業療法が説明でえきる。
5回目	認知宗の方に対する作業療法の立案ができる（事例を用いて、具体的なケースについて議論し、治療計画を立てる。）。①
6回目	認知宗の方に対する作業療法の立案ができる（事例を用いて、具体的なケースについて議論し、治療計画を立てる。）。②
7回目	MTDLPの基本的事項を言えるようになる
8回目	MTDLPの実施方法を言えるようになる（資料を参照しながら）
9回目	MTDLPの演習を通して（教員のアドバイスを得ながらもしくは模倣のうえで）実施できる
10回目	臨床実習で担当した症例の情報を用いて、MTDLPを活用した現状分析ができる。
11回目	臨床実習で担当した症例の情報を用いて、MTDLPを活用した課題の焦点化ができる。
12回目	臨床実習で担当した症例の情報を用いて、MTDLPを活用した計画立案ができる。
13回目	人間作業モデルの基礎知識を言えるようになる（資料を参照しながら）
14回目	人間作業モデルに基づいた評価方法を簡潔に説明できる（資料を参照しながら）
15回目	人間作業モデルに基づいた評価を実践できる（資料を参照しながら）
準備学習　時間外学習	認知症、内部疾患など、疾患の基礎的な知識について予習が必要です。 MTDLP、人間作業モデルとは何か基礎的な情報を予習しておくことが必要です。 （復習）　講義で配布する資料について、関連文献を用いて復習する。
評価方法	レポート（100%）
受講生へのメッセージ	本講義では、これまで学んできた知識や技術を統合し、かつ臨床で求められる知識を学びます。これは、今後、皆さんが臨床実習で経験する作業療法評価の統合と解釈の際に資することを期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

使用機材：パソコン、プロジェクター
教科書：特定の教科書を使用せず、毎回、講義資料を配布します。
参考文献：授業中に適宜紹介します。

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	基礎作業学Ⅰ（Occupational Therapy Skills Ⅰ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	日高　百代
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 / 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	金曜日・3限目

【授業の学習内容】

作業療法士は対象者の心身の障害及び残存機能・能力、対象者にとって意味、本人にとって望ましい生活、これらにあった作業を選択し、治療あるいは援助の手段として活用します。こうして作業療法は、本来の効果を発揮することができます。そのためには、治療の媒体として用いる作業について理解することが必要です。そこで、本講義では、作業療法で用いる作業とは何かを学び、作業を治療として用いるために求められる技能（作業分析）の体験を通して、なぜ作業が治療となりうるのかを説明します。

【到達目標】

①ひとにとって作業とはどのようなものか説明できる。
②作業療法における作業の意味を簡潔に説明できる。
③作業分析は何のために行われるものか簡潔に説明できる。
④包括的作業分析、限定的作業分析を実施できる。

授業計画・内容	
1回目	目標①：オリエンテーション、作業という言葉の意味について簡潔に説明できる
2回目	目標①：作業の分類の分類について説明できる
3回目	目標①：ひとの生活に作業がどう関わっているか簡潔に説明できる
4回目	目標②：ひとの脳や手などの機能の発達や回復に作業がどう関与しているか簡潔に説明できる
5回目	目標②：治療の媒体として作業が提供する要素、作業に求められる要素を簡潔に説明できる
6回目	目標③：演習を通して治療の媒体として作業が提供する要素と作業に求められる要素を検討することができる
7回目	目標③：作業分析の目的とこれを行うようになった経緯を簡潔に説明できる
8回目	目標③：作業分析の種類にはどのようなものがあるのか簡潔に説明できる
9回目	目標③：一般的作業分析の目的と方法について簡潔に説明できる
10回目	目標④：具体的な作業を実施して一般的作業分析を実施することができる
11回目	目標④：前回実施した一般的作業分析をまとめることができる
12回目	目標④：一般的作業分析をもとにして限定的作業分析を実施できる
13回目	目標④：限定的作業分析をまとめることができる①
14回目	目標④：限定的作業分析をまとめることができる②
15回目	まとめとして、作業が治療手段になりうること、そのために必要な手続きについて説明できる。
準備学習 時間外学習	時間外学習：以下の3つについては、授業時間外にレポート作成とします。 ①作業が提供する要素・求める要素（5回目）　②一般的作業分析（11回目）　③限定的作業分析（13・14回目） 準備学習：毎回の授業で、次回の授業に向けて教科書の予習個所を伝えます。
評価方法	レポート（50%） 試験（50%）
受講生へのメッセージ	5回目の授業では、それぞれ20分程度で完結する作業を実施します。したがって、各自が関心のある20分程度で完結する作業を準備してください。折り紙や塗り絵などのように完成したものが形となる作業でお願いします。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト2　作業学　MEDICALVIE
参考書：ひとと作業・作業活動【新版】作業の知をとき技を育む　三輪書店
　　作業療法学全書　基礎作業学　協同医書
教材：パソコン、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	作業療法評価学Ⅲ（Evaluation MethodⅢ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員 実務経験	
コース		授業形態	実技	総時間（単位）	60 2	開講区分 曜日・時限	後期 月曜3, 4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を実際に展開できることを目的として、学生同士で互いに検査・測定を実施します。そのために検査・測定技法の予習に基づく実技を行います。その結果をカルテ（ケースノート）の形式で記録します。検査・測定の結果をICFに基づいてまとめ、全体像をレポート形式で記述します。実技、記録方法、ICFのまとめ方については、毎回の授業で随時、説明します。

※実務経験：2016年4月～2020年7月

【到達目標】

①身体障害分野における基本的な検査・測定の技法を実践できる。
②実施した検査・測定の結果を記録できる。
③検査・測定の結果をICFで整理し、全体像を記述できる。
※各回の授業では、実施する身体障害分野の代表的な検査・測定手技を指定している。この各回の授業で実技を通して①～③を学ぶことを目標としています。

授業計画・内容	
1・2回目	オリエンテーション、面接を実施してその内容を記録し、ICFに整理できる。
3・4回目	形態測定(四肢長、四肢周径)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
5・6回目	バランス検査と姿勢反射を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
7・8回目	ROM測定(体幹・上肢)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
9・10回目	ROM測定(下肢)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
11・12回目	筋緊張検査を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
13・14回目	反射検査（伸張反射、表在反射、病的反射）を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
15・16回目	筋力評価（MMT【上肢・手指】)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
17・18回目	筋力評価（MMT【下肢】)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
19・20回目	筋力評価（GMT)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
21・22回目	感覚検査(表在感覚)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
23・24回目	感覚検査(深部、複合)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
25・26回目	協調性検査を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
27・28回目	上肢機能検査(STEF)を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
29・30回目	(高次脳機能)スクリーニング検査を実施してその内容を記録し、これまでの結果をICFに整理できる。
準備学習 時間外学習	①各回の授業の1週間前までに実施する予定の検査・測定の目的や方法について、予習資料を配布します。これを授業までに必ず実施しておいてください。 ②到達目標②及び③については、授業時間内だけでまとめることが困難なので、自宅学習してケースノートとして提出してください。
評価方法	ケースノート(50%) 定期試験（記述試験）(50%)
受講生へのメッセージ	本講義の目標としている②および③は、作業療法の治療計画を立てる上で必ず必要とされるスキルです。 授業内容は学生がお互いに検査・測定を行う実技の形で進めますので、欠席がないよう各自体調管理のうえ授業に臨んでください。 本講義では必ず実習着及び実習靴の着用を行い、身だしなみも整えた状態で臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

矢谷令子（監：標準作業療法学 作業療法評価学 第4版. 医学書院）
田崎義昭・斎藤佳雄（著：ベッドサイドの神経の診かた　改定18版　南山堂）

2025年度　授業概要

学 科 :　作業療法科

科目名（英）	身体障害治療学Ⅰ (Occupational Therapy for Physically Disabled Ⅰ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	未定

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、身体障害分野における代表的疾患の一つである脳血管障害に対する作業療法を学びます。そのためには、まず中枢神経系の基本構造と脳血管障害の病態、症状を教授します。次いで、脳血管障害よって引き起こされる中枢神経麻痺（錐体路障害）などの身体障害の特性を教授します。そのうえで、脳血管障害患者に対する作業療法評価および治療に関わる基本知識を学びます。

実務経験：2016年4月～2020年7月

【到達目標】

①脳および中枢神経系（錐体路・錐体外路）の解剖生理に関わる基本的事項をいえる。
②脳血管障害に関わる疾患を列挙し、それぞれの病態をいえる。
③中枢神経麻痺（錐体路障害）や高次脳機能障害、感覚障害、合併症とはどのような症状をきたすか説明できる。
④中枢神経障害（錐体路障害）に対する作業療法評価を列挙し、それぞれの目的を説明できる。
⑤中枢神経障害（錐体路障害）の病期や回復段階に応じた作業療法の方法をいえる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、身体障害分野の対象疾患と作業療法過程を説明できる
2回目	目標①：大脳皮質・視床・大脳基底核・小脳・脳幹・脊髄の機能と解剖、脳の血液循環と主要血管の循環領域について基本的事項を説明できる
3回目	目標①：錐体路・錐体外路・感覚の伝導路の経路をいえる。脊髄反射・γ系について基本的事項を説明できる。
4回目	目標②：脳出血の定義・分類（成因・特徴・診断・好発部位）について基本的事項を説明できる
5回目	目標②：脳出血の定義・分類（成因・特徴・診断・好発部位）について基本的事項を説明できる
6回目	目標③：中枢神経麻痺と末梢神経麻痺の違い、中枢神経麻痺の主要な症状をいえる
7回目	目標③：代表的な高次脳機能障害を列挙し、その症状ををいえる
8回目	目標③：代表的な合併症を列し、その症状をいえる
9回目	目標④：中枢性麻痺（錐体路障害）に対する基本的な評価の過程と手段を列挙できる
10回目	目標④：中枢性麻痺（錐体路障害）に対する基本的な評価技法を列挙し、その実施方法をいえる
11回目	目標⑤：片麻痺の作業療法の原則を説明できる。ICFにおける各構成要素へのアプローチをいえる
12回目	目標⑤：急性期～維持期、それぞれの時期に行うべき作業療法アプローチをいえる
13回目	目標⑤：ブルンストロームの回復段階に応じた機能訓練について基本的事項を説明できる
14回目	目標⑤：ブルンストロームの回復段階に応じた作業及び段階付けについて基本的事項を説明できる
15回目	目標⑤：事例を用いて作業療法プログラムを検討することができる
準備学習 時間外学習	準備学習・時間外学習：この授業の前半では、1年次に学んだ解剖生理学の神経系の知識が求められます。授業の前後に関連個所の予習及び復習を実施してください。この予習復習に関しては、重要個所については宿題として学習資料を課すこともあります。
評価方法	学習課題（30%） 筆記試験（70%）
受講生へのメッセージ	脳血管障害は、身体障害分野の作業療法では担当する機会が多い疾患です。ある意味、身体障害分野の基本となる作業療法をこの講義で学ぶことになります。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害
参考書：病気が見える（vol.7）脳・神経　メディックメディア
使用機材：パソコン、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	日常生活活動学Ⅰ (Activity of Daily Living Ⅰ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	
						実務経験	
コース		授業形態	講義	総時間（単位）	60 / 4	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜　3.4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

日常生活活動(ADL)の概念と範囲について理解し、代表的なADL評価について学ぶ。さらに疾患ごとの日常生活動作やユニバーサルデザイン、自助具についても理解を深めます。ADL評価においては、臨床実習で用い、国家試験で出題されているため、理解し、説明出来る事を求められます。

実務経験：

【到達目標】

＜具体的な目標＞

日常生活活動学Ⅰでは、日常生活活動の概念やその歴史、また基本的な評価や介助方法について学ぶ。また後半はより具体的に疾患ごとの日常生活動作方法や介助方法について学ぶ為、各疾患についての基礎知識が重要となる。その為、授業の中で基礎知識の復習を行いながら評価や介助方法の模倣・実演を通して学んでいく。ユニバーサルデザインは、昨今の社会情勢を反映し誰にでも簡単に分け隔てなく使用できるものである。その為、学生のうちから敏感にユニバーサルデザインについて捉え、生活の中に溢れているものについてイメージができるよう実践を通して学んでいく。自助具作成に関しては、作業療法士が現場で作成する機会も多く求められる部分であることから、自助具の基礎・使用する素材・作成方法・使用用途などを重点的に学び、対象者に合わせた自助具作成を学んでいく。

目標①　日常生活活動の概念について理解し、それらについて説明することができる
目標②　日常生活活動の評価について理解し、模擬的に評価を実施・判定することができる
目標③　起居・移乗・移動動作について理解し、介助まで実施できる
目標④　ADL・IADL動作について理解し、模擬的に実施できる
目標⑤　ユニバーサルデザインについて理解し、その位置づけと社会との協働について調査・分析・考察ができる
目標⑥　障害別日常生活活動について、疾患ごとの特徴および特異的な日常生活動作の手段・介助方法について理解できる
目標⑦　自助具についての基礎的知識について学び、計画・作成・発表を通して自助具の必要性について理解できる
目標⑧　前期で学んだ内容について理解し、復習を通して知識の定着を図ることができる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)日常生活活動の概念とその範囲について知り、それらについて説明することができる
2回目	(目標②)日常生活活動(ADL)評価について理解し説明できる　(BI・Kenny・PUSES・Katz・寝たきり度)
3回目	(目標②)日常生活活動(ADL)評価について理解し説明できる　(FIM)①
4回目	(目標②)日常生活活動(ADL)評価について理解し説明できる　(FIM)②
5回目	(目標②)FIM・BIについて模擬症例を通して分析・採点することができる①
6回目	(目標②)FIM・BIについて模擬症例を通して分析・採点することができる②
7回目	(目標③)起居動作　その介助について理解し、介助方法の実施ができる
8回目	(目標③)移乗動作　その介助について理解し、介助方法の実施ができる
9回目	(目標③)移動動作　車椅子の構造・寸法　杖の種類と歩行について理解し、模擬的に実施できる
10回目	(目標④)排泄動作(おむつ交換とトイレ介助)を模擬的に実施できる
11回目	(目標④)摂食・嚥下動作(機能と構造)、摂食・嚥下の姿勢による違い(摂食訓練)について理解し模擬的に体験できる
12回目	(目標④)車椅子の種類(リクライニングとティルト、片麻痺用など)、特殊寝台の使用方法と注意点について理解し操作できる
13回目	(目標④)入浴動作と更衣動作における構成要素について理解し、疾患による方法の違いについて模擬的に実施できる
14回目	(目標④)コミュニケーションの構成要素について理解し、気管切開者のカニューレにおける機能と構造について理解する
15回目	(目標④)手段的日常生活活動(IADL)の構成要素を理解し説明することができる　(家事・生理整頓・外出(環境基準)など)
16回目	(目標⑤)共用品・共用サービス　ユニバーサルデザインとは何か理解し身近なユニバーサルデザインについて考察することができる
17回目	(目標⑤)日常生活に存在しているユニバーサルデザインについて、調査・分析・考察することができる①
18回目	(目標⑤)日常生活に存在しているユニバーサルデザインについて、調査・分析・考察することができる②
19回目	(目標⑥)障害別日常生活活動の援助の実際(片麻痺者のADLと治療について)について理解し模擬的に体験・実施できる①
20回目	(目標⑥)障害別日常生活活動の援助の実際(片麻痺者のADLと治療について)について理解し模擬的に体験・実施できる②
21回目	(目標⑥)障害別日常生活活動の援助の実際(脊髄損傷のADLとADL指導など)について理解し模擬的に体験・実施できる①
22回目	(目標⑥)障害別日常生活活動の援助の実際(脊髄損傷のADLとADL指導など)について理解し模擬的に体験・実施できる②
23回目	(目標⑥)障害別日常生活活動の援助の実際(RA・PDのADLとADL指導など)について理解し模擬的に体験・実施できる
24回目	(目標⑦)自助具と福祉用具の位置づけ定義について理解し、各ADL動作で用いる自助具を紹介し使用方法を理解する事ができる
25回目	(目標⑦)自助具作製に使える素材を用いて作成することができる
26回目	(目標⑦)自助具作成計画を立てることができる
27回目	(目標⑦)自助具作成計画を立て、作成することができる①
28回目	(目標⑦)自助具作成計画を立て、作成することができる②
29回目	(目標⑦)自助具作成計画発表　計画通りに作成した自助具を実演発表ができる
30回目	(目標⑧)日常生活活動学Ⅰまとめ(試験対策)
準備学習 時間外学習	(目標①)　日常生活活動の概念・歴史はこの授業の中で重要な位置づけとなるので、教科書を見て復習してほしい (目標②)　日常生活活動の評価は実習でも必須となる評価の為、時間外学習も使い知識の定着を図ってほしい (目標③)　臨床場面でも頻繁に行う動作の為、現時点で基礎知識や介助方法を身に着け、クラスメイトとともに練習してほしい (目標④)　ADL・IADL動作は作業療法士として専門性の高い部分である為、復習を通して知識の定着を図ってほしい (目標⑤)　普段の日常生活の中からユニバーサルデザインを意識し、イメージができる程度に準備・予習してほしい (目標⑥)　障害別日常生活活動について自己学習し、疾患の特徴を掴んでほしい (目標⑦)　自助具作成は時間がかかる為、時間外学習も利用してグループで協力して取り組んでほしい (目標⑧)　前期で学んだ内容について復習し、日常生活活動学Ⅰの知識を定着化してほしい
評価方法	全講義終了後に試験を行う。 前期定期試験：60% ユニバーサルデザインについてのレポート課題：20% 自助具作製についての発表点：20%
受講生へのメッセージ	障害のある方々の立場に立ち、日常生活活動の動作にどのような課題があるのか考え、知る事は大切ですので、学んだことを日々の生活の中で考えながら過ごしてみてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：新版　日常生活活動(ADL)　評価と支援の実際　医歯薬出版

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	日常生活活動学Ⅱ (Activity of Daily LivingⅡ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

疾患別の日常生活活動(ADL)動作について学ぶ。また、障害者対応住宅や新たなリハビリ支援ロボットなどの演習や学外実習を通して具体的なADL・IADLの改善方法等について学ぶ。
実務経験：

【到達目標】

疾患別の日常生活活動(ADL)動作について、様々な模擬的体験、障害者対応住宅見学、せき損センター見学、新たなリハビリ支援ロボット演習などを通して具体的なADL・IADLや改善方法等について学び理解し模擬的に実践できる。
＜具体的な目標＞
(目標①)臥位、坐位、立位といった基本姿勢や、起き上がり、立ち上がり、歩行、そして異常歩行の運動学
分析について理解し、説明できる。
(目標②)「体幹機能」に関する解剖学的構造や機能について理解し、説明できる。疾患における特徴を理解し、動作分析を行い説明ができる。
(目標③)片麻痺者のADLと評価・分析・課題の抽出について模擬的に体験・実施できる
(目標④)呼吸器疾患のADLと評価・分析・課題の抽出について模擬的に体験・実施できる
(目標⑤)パーキンソン病・リウマチ・運動器疾患患者のADLと評価・分析・課題の抽出について模擬的に体験・実施できる
(目標⑥)循環器疾患者のADLと評価・分析・課題の抽出について模擬的に体験・実施できる
(目標⑦)
(目標⑧)福祉用具および福祉住宅施設を見学し、福祉用具の使用用途・住宅改修の基礎について理解することができる
(目標⑨)起居・移乗動作の介助方法を実施できる
(目標⑩)リハビリ支援ロボットについて、それぞれの機器の特徴を理解し、基本的な使用ができる
(目標⑪)脊髄損傷の病態及び日常生活動作について知識を深め、症例を通して模擬的に体験・実施できる
(目標⑫)脊髄損傷のリハビリに特化した施設を見学し、脊髄損傷者の評価とそのリハビリテーションについて理解できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)「関節可動域制限」について学び、拘縮と強直の相違を説明できる。日常生活活動上の「機能的肢位」の意義と役割を学習し、それらについて説明することができる。
2回目	(目標①)「体幹」の機能と解剖を理解し、基本動作(寝返り・起き上がり)における姿勢分析・動作分析を知り、それらについて説明できる。
3回目	(目標①)「体幹」の機能と解剖を理解し、基本動作(立ち上がり)における姿勢分析・動作分析を知り、それらについて説明できる。
4回目	(目標①)基本動作 「歩行」について、その姿勢分析・動作分析を知り、それらについて説明できる。
5回目	(目標②)「体幹」の機能と解剖を理解し、呼吸器疾患、中枢・神経疾患、運動器疾患における日常生活活動上の注意事項を理解し、説明ができる。
6回目	(目標②)「体幹」の機能と解剖を理解し、呼吸器疾患、中枢・神経疾患、運動器疾患における日常生活活動上の注意事項を理解し、安全な活動方法を学び、説明することがで
7回目	(目標③)模擬症例(片麻痺)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出しプログラム立案を行う①
8回目	(目標③)模擬症例(片麻痺)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出し、「運動学習」や「記憶」のメカニズムを学び、プログラム実施に活かすことができ
9回目	(目標④)模擬症例(呼吸器疾患)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出しプログラム立案を行う①
10回目	(目標④)模擬症例(呼吸器疾患)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出しプログラム立案を行う②
11回目	(目標⑤)模擬症例(パーキンソン病・RA・運動器疾患)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出しプログラム立案を行う①
12回目	(目標⑤)模擬症例(パーキンソン病・RA・運動器疾患)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出しプログラム立案を行う②
13回目	(目標⑥)模擬症例(循環器疾患)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出しプログラム立案を行う①
14回目	(目標⑥)模擬症例(循環器疾患)を通して、日常生活活動評価・分析・対応すべき生活課題を抽出しプログラム立案を行う②
15回目	まとめ　試験対策および授業内容の再確認
16回目	(目標⑥)福祉用具や福祉住宅における基本的な知識について学び理解を深めることができる
17回目	(目標⑥)福祉住宅/クローバープラザ見学において、住宅改修の実際について学び、体験し理解を深めることができる
18回目	(目標⑧)福祉用具・福祉住宅/クローバープラザ見学において、福祉用具や住宅改修について理解・体験し知見を深めることができる
19回目	(目標⑦)トランスファ実習(起居動作とその介助方法を状況別に学び、模擬的に演じることができ、介助の実施ができる)①
20回目	(目標⑦)トランスファ実習(起居動作とその介助方法を状況別に学び、模擬的に演じることができ、介助の実施ができる)②
21回目	(目標⑦)トランスファ実習(起居動作とその介助方法を状況別に学び、模擬的に演じることができ、介助の実施ができる)③
22回目	(目標⑦)実技テスト(起居動作・移動動作の介助における実技試験で実施できる)①
23回目	(目標⑦)実技テスト(起居動作・移動動作の介助における実技試験で実施できる)②
24回目	(目標⑧)リハビリ支援ロボットについて、それぞれの機器の特徴を理解し、基本的な使用ができる ①
25回目	(目標⑧)リハビリ支援ロボットについて、それぞれの機器の特徴を理解し、基本的な使用ができる ②
26回目	(目標⑨)脊髄損傷における病態および起居動作・移乗動作・移動動作の実態を学び、実演を通して理解を深めることができる①
27回目	(目標⑨)脊髄損傷における病態および起居動作・移乗動作・移動動作の実態を学び、実演を通して理解を深めることができる①
28回目	(目標⑫)せき損センターを見学し、脊髄損傷患者におけるリハビリテーションの評価やリハビリ内容、日常生活動作練習について、見学を通して理解できる①
29回目	(目標⑫)せき損センターを見学し、脊髄損傷患者におけるリハビリテーションの評価やリハビリ内容、日常生活動作練習について、見学を通して理解できる②
30回目	日常生活活動学Ⅱまとめ(試験対策)
準備学習 時間外学習	(目標①)1・2年で学習した内容の復習をして授業に臨んで下さい (目標②)見学後レポート提出があります。自己学習をしてください。 (目標③)実技試験がありますので、実技の練習をしてください。 (目標④)施設見学があります。節度ある行動を心がけてください。
評価方法	レポート提出を義務付ける。定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●レポート ・各疾患別レポート(10%) ・クローバープラザ見学レポート(10%) ・リハビリ支援ロボットに関するレポート(10%) ・脊損センターに関するレポート(10%) ●実技　：　トランスファー試験(10%) ●定期テスト(50%) 総合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	前期の日常生活活動学Ⅰより実践的な授業となります。実技が多くなります。臨床実習でも必要になりますので復習をしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：　日常生活活動(ADL)　医歯薬出版株式会社

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	臨床見学実習 (Educational Tour at Clinical Facilities)	必修選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	作業療法科教員・臨床実習教育者
コース		授業形態	実習	総時間（単位）	40 1	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】

本実習では、地域リハビリテーション（通所リハビリ・訪問リハビリ）における診療チームの一員として臨床実習教育者（作業療法士）と共に行動し、作業療法の見学ならびに対象者や他スタッフ（医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネージャーなど）との関わりを通して、以下の項目を学ぶ。1. 地域リハビリテーションにおける対象者の障害の多様性・作業療法の役割　2. 作業療法に対する社会からのニーズ　3. 作業療法における対象者とのコミュニケーションに関する基本的な事項　4. 地域包括ケアシステムにおけるマネジメントと通所・訪問リハビリテーションの役割　5. 社会人・職業人・医療人としての基本的な態度と自学自己学習の態度

【到達目標】

1. 実習施設の概要を理解する。
2. 作業療法士、対象者との関わりを通して職業人としての基本的態度をとることができる。
3. 作業療法士の仕事を理解できる。
4. 対象者について共感的理解ができる。
5. 見学した作業療法の介入方法の概要を理解できる。
6. 作業療法士になるという目的意識を自覚できる。

授業計画・内容	
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	オリエンテーション（初日）
7回目	各施設のスケジュールに合わせて実習を行うことができる（実習時間は8時間/日　合計5日）
8回目	臨床実習教育者は、実習施設の作業療法士が担当します。
9回目	実習の中間の時期には、本校作業療法科専任教員による訪問や電話連絡等により、学生の現状の課題を整理し今後の実習の方針を学生・臨床実習教育者の3者で協議します。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習　時間外学習	施設での実習時間外も見学の結果や学んだ内容をノートに整理することが求められます。これができていないと、翌日の見学実習でどのように行動すればよいか困難になる可能性があります。このほか、検査等の予習も求められます。
評価方法	①実習への取り組み態度 ②実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度 ③提出物と報告内容 ①～③を総合して評価します
受講生へのメッセージ	医療の現場に出ますので、学生の皆さんにとって、将来の職業イメージがつきやすいと思います。同時に、社会人としての基礎力を学ぶことができる職業実践の学習機会になります。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	臨床評価実習 Clinical Evaluation Practice	必修選択	必修	年次	3	担当教員	作業療法科教員・臨床実習教育者 実務経験
コース		授業形態	実習	総時間（単位）	200 5	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】

作業療法を行う現場にて、そこで勤務している臨床経験5年以上の作業療法士（臨床実習教育者）の助言などを受けて、作業療法対象者に対する検査・測定を行い、作業療法治療計画を立てるまでを経験します。この実習では、学生が作業療法の検査・測定の実施を経験するだけでなく、臨床実習教育者の行う検査・測定、治療の場面の見学・模倣・実施し作業療法士の業務を学ぶます。毎日の実習後は、ケースノート等を作成し、日々の実習の経験を書面にまとめる作業を行います。施設での実習が終了したら、学校にて担当症例をA3用紙（1枚）にまとめて発表します。
＊臨床実習教育者に関しては、5年以上の臨床経験を有する者である。

【到達目標】

①対象者への直接的な働きかけを通して、社会人・職業人としての基本的な態度をとることができる
②臨床実習教育者の援助のもと、対象者に必要な評価の立案及び評価の適切な実施ができる
③臨床実習教育者の援助のもと、評価結果から更に全体像をまとめ短期目標達成のための作業療法プログラムを計画できる
④毎日必要な記録の作成や口頭や文章での報告ができる
⑤実習施設の特性、及び作業療法士の役割と機能をいえる

授業計画・内容	
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	オリエンテーション（初日）
7回目	各施設のスケジュールに合わせて実習を行うことができる（実習時間は8時間/日　合計25日）
8回目	臨床実習教育者は、実習施設の臨床経験5年以上の作業療法士が担当します。
9回目	実習の中間の時期には、本校作業療法科専任教員が訪問して、学生の現状の課題を整理し今後の実習の方針を学生・臨床実習教育者の3者で協議します。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習　時間外学習	施設での実習時間外も検査・測定の結果や対象者の情報をノートに整理することが求められます。これができていないと、次回対象者を見るときにどのようにかかわればよいか対応が困難になる可能性があります。このほか、検査等の予習も求められます。
評価方法	①実習への取り組み態度 ②実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度 ③提出物と報告内容 ①～③を総合して評価します
受講生へのメッセージ	医療の現場に出ますので、学生の皆さんにとって、将来の職業イメージがつきやすいと思います。同時に、社会人としての基礎力を学ぶことができる職業実践の学習機会になります。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	臨床実習Ⅰ Occupational Therapy Fieldwork Ⅰ	必修選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	作業療法科教員・臨床実習教育者
コース		授業形態	実習	総時間（単位）	400 10	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

作業療法を行う現場にて、そこで勤務している臨床経験5年以上の作業療法士（臨床実習教育者）の助言などを受けて、作業療法対象者に対する検査・測定、作業療法治療、効果判定、治療再計画までを経験します。この実習では、学生が担当する対象者の作業療法評価の見学・模倣・実施をするだけではなく、臨床実習教育者の行う検査・測定、治療場面の見学・模倣・実施を行います。毎日の実習後は、デイリーノート・ケースノート等を作成し、日々の実習の経験を書面にまとめる作業を行います。施設での実習が終了したら、学校にて担当症例をA3用紙（1枚）にまとめて発表します。

【到達目標】

①対象者への直接的な働きかけを通して、社会人・職業人としての基本的な態度をとることができる
②臨床実習教育者の援助のもと、対象者に必要な評価・評価結果に基づく治療・治療の効果判定・治療の再計画立案ができる
③臨床実習教育者の援助のもと、評価結果から更に全体像をまとめ長期・短期目標達成のための作業療法プログラムを計画・実行できる
④毎日必要な記録の作成や口頭や文章での報告ができる
⑤実習施設の特性、及び作業療法士の役割と機能をいえる

授業計画・内容	
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	オリエンテーション（初日）
7回目	各施設のスケジュールに合わせて実習を行うことができる（実習時間は8時間/日　合計50日）
8回目	臨床実習教育者は、実習施設の臨床経験5年以上の作業療法士が担当します。
9回目	実習の中間の時期には、本校作業療法科専任教員が訪問して、学生の現状の課題を整理し今後の実習の方針を学生・臨床実習教育者の3者で協議します。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	病院での実習時間外も検査・測定の結果や対象者の情報をノートに整理することが求められます。これができていないと、次回対象者を見るときにどのようにかかわればよいか対応が困難になる可能性があります。このほか、検査・治療等の予習も求められます。
評価方法	①実習への取り組み態度 ②実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度 ③提出物と報告内容 ①～③を総合して評価します
受講生へのメッセージ	医療の現場に出ますので、学生の皆さんにとって、将来の職業イメージがつきやすいと思います。同時に、社会人としての基礎力を学ぶことができる職業実践の学習機会になります。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学　科　：作業療法科

科目名（英）	臨床実習Ⅱ Occupational Therapy Fieldwork Ⅱ	必修選択	必修	年次	4	担当教員	作業療法科教員・臨床実習教育者
						実務経験	
コース		授業形態	実習	総時間（単位）	400 10	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

作業療法を行う現場にて、そこで勤務している臨床経験5年以上の作業療法士（臨床実習教育者）の助言などを受けて、作業療法対象者に対する検査・測定、作業療法治療、効果判定、治療再計画までを経験します。この実習では、学生が担当する対象者の作業療法評価の見学・模倣・実施をするだけではなく、臨床実習教育者の行う検査・測定、治療場面の見学・模倣・実施を行います。毎日の実習後は、デイリーノート・ケースノート等を作成し、日々の実習の経験を書面にまとめる作業を行います。施設での実習が終了したら、学校にて担当症例をA3用紙（1枚）にまとめて発表します。

①対象者への直接的な働きかけを通して、社会人・職業人としての基本的な態度をとることができる
②臨床実習教育者の援助のもと、対象者に必要な評価・評価結果に基づく治療・治療の効果判定・治療の再計画立案ができる
③臨床実習教育者の援助のもと、評価結果から更に全体像をまとめ長期・短期目標達成のための作業療法プログラムを計画・実行できる
④毎日必要な記録の作成や口頭や文章での報告ができる
⑤実習施設の特性、及び作業療法士の役割と機能をいえる

授業計画・内容	
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	オリエンテーション（初日）
7回目	各施設のスケジュールに合わせて実習を行うことができる（実習時間は8時間/日　合計50日）
8回目	臨床実習教育者は、実習施設の臨床経験5年以上の作業療法士が担当します。
9回目	実習の中間の時期には、本校作業療法科専任教員が訪問して、学生の現状の課題を整理し今後の実習の方針を学生・臨床実習教育者の3者で協議します。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	病院での実習時間外も検査・測定の結果や対象者の情報をノートに整理することが求められます。これができていないと、次回対象者を見るときにどのようにかかわればよいか対応が困難になる可能性があります。このほか、検査・治療等の予習も求められます。
評価方法	①実習への取り組み態度 ②実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度 ③提出物と報告内容 ①～③を総合して評価します
受講生へのメッセージ	医療の現場に出ますので、学生の皆さんにとって、将来の職業イメージがつきやすいと思います。同時に、社会人としての基礎力を学ぶことができる職業実践の学習機会になります。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学 科 ：　作業療法科

科目名（英）	作業療法特論Ⅰ (Advanced Occupational Therapy Ⅰ)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	永田 敬生 他・学科教員
						実務経験	
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	15 / 1	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

業界で即戦力となるためには、先進的な学習・演習を行い、現在および今後、最も求められている実践的な能力を身につける必要性がある。そこで、本科目では、アクティブラーニングに基づいた活動に取り組む中で、学習方法やスキルなどを体験的に学習し、思考力や判断力、表現力などの育成も目的としている。なお、この活動では、専門的な分野として、障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）期より選択した一分野における作業療法の最新知識と治療方法、社会的な動向を学ぶ。

【到達目標】

本科目における学習活動の遂行と達成を通して、自分が目指す将来像に向けて学び続ける基本的態度をとることができる。
（具体的な目標）
①3つの専門的分野について概要をいうことができる。
②専攻した専門的分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）と作業療法の関係の概要をいうことができる
③専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践ができる。

授業計画・内容	
1回目	①オリエンテーション、障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）の概要をいえる
2回目	②障がい者スポーツにおける社会問題と将来的展望をいえる
3回目	②障がい者スポーツと作業療法との関係をいえる
4回目	②医療・福祉における社会問題と将来的展望をいえる
5回目	②医療・福祉と作業療法との関係をいえる
6回目	②子ども家庭福祉における社会問題と将来的展望をいえる
7回目	②子ども家庭福祉と作業療法との関係をいえる
8回目	③まとめ
準備学習時間外学習	●報道をもとに探究学習の課題または自分の選択した分野に関わる情報をノートなどにメモをしておくこと。時間が許せば、そのことについて図書室などの文献を読み自分なりに情報を整理しておくこと。
評価方法	レポート課題にて知識の評価を行う。学習への取り組みにて技能・態度の評価を行う。 ●レポート課題（80%） ●学習への取り組み（20%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	本科目で行う「探究学習」は、皆さんが小学校や中学校で「総合的な学習の時間」の科目で体験した学習方法です。この学習体験を通して、作業療法を通して、自分がそのような社会貢献ができるのかを学ぶことにもなります。さらに、働き始めてからのスキルアップに必要な自学自習の方法についても習得することも可能です。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学 科 ：　作業療法科

科目名（英）	作業療法特論Ⅱ（Advanced Occupational Therapy Ⅱ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	永田 敬生 他・学科教員
						実務経験	
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

業界で即戦力となるためには、先進的な学習・演習を行い、現在および今後、最も求められている実践的な能力を身につける必要性がある。そこで、本科目では、アクティブラーニングに基づいた活動に取り組む中で、学習方法やスキルなどを体験的に学習し、思考力や判断力、表現力などの育成も目的としている。本科目では、社会からの要請が高まることが予想される専門的な分野として、障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）期より選択した一分野における基礎的な知識と技法を学ぶ。

【到達目標】

障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）期より選択した一分野における対象者を理解する視点と具体的方法、援助や態度の基本を具体的に言える。
〈具体的な目標〉
①対象者を正しく理解する上での基本的な考え方を説明できる。
②対象者を理解するための具体的な方法（行動）を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	①対象分野における主要な活動の特性を理解し説明できる
3回目	①対象分野における主要な活動を体験し、対象者らにとっての意義を理解し説明できる。
4回目	①対象分野における主要な活動を体験し、対象者らにとっての意義を理解し説明できる
5回目	②対象分野における主要な活動における基本的な介入の目的を理解し説明できる
6回目	②対象分野における主要な活動における基本的な介入の目的を理解し説明できる
7回目	②対象分野における主要な活動における基本的な介入の目的を理解し説明できる
8回目	①②まとめ
準備学習時間外学習	●報道をもとに探究学習の課題または自分の選択した分野に関わる情報をノートなどにメモをしておくこと。時間が許せば、そのことについて図書室などの文献を読み自分なりに情報を整理しておくこと。
評価方法	レポート課題にて知識の評価を行う。学習への取り組みにて技能・態度の評価を行う。 ●レポート課題（80%） ●学習への取り組み（20%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	本科目で行う「探究学習」は、皆さんが小学校や中学校で「総合的な学習の時間」の科目で体験した学習方法です。この学習体験を通して、作業療法を通して、自分がそのような社会貢献ができるのかを学ぶことにもなります。さらに、働き始めてからのスキルアップに必要な自学自習の方法についても習得することも可能です。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学 科 ：　作業療法科

科目名（英）	作業療法特論Ⅲ (Advanced Occupational Therapy Ⅲ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	永田 敬生 他・学科教員
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	15 / 1	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】

業界で即戦力となるためには、先進的な学習・演習を行い、現在および今後、最も求められている実践的な能力を身につける必要性がある。そこで、本科目では、アクティブラーニングに基づいた活動に取り組む中で、学習方法やスキルなどを体験的に学習し、思考力や判断力、表現力などの育成も目的としている。なお、この活動では、専門的な分野として、障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）期より選択した一分野における作業療法の最新知識と治療方法、社会的な動向を学ぶ。

本科目では、学外実習を通して、業界・当事者の課題に基づいた活動に取り組む中で、支援方法や必要なスキルを体験的に学習し、現場のニーズに合わせたプログラムの立案、計画、実施、再考を繰り返し臨機応変な対応を模倣・実践する。

【到達目標】

本科目における学習活動の遂行と達成を通して、自分が目指す将来像に向けて学び続ける基本的態度をとることができる。

（具体的な目標）

①専攻した専門的分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）と作業療法の関係の概要を説明できる

②専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が模倣実践できる。

③産学連携に参加し、実践の場で模倣実践できる。

授業計画・内容	
1回目	①オリエンテーション、障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）の概要が説明できる
2回目	②専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が模倣実践できる①
3回目	②専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が模倣実践できる②
4回目	②専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が模倣実践できる③
5回目	③専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）の産学連携に参加し、実践の場で模倣実践できる。
6回目	
7回目	
8回目	
準備学習時間外学習	●報道をもとに探究学習の課題または自分の選択した分野に関わる情報をノートなどにメモをしておくこと。時間が許せば、そのことについて図書室などの文献を読み自分なりに情報を整理しておくこと。
評価方法	レポート課題にて知識の評価を行う。学習への取り組みにて技能・態度の評価を行う。 ●レポート課題（80%） ●学習への取り組み（20%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	本科目で行う「探究学習」は、皆さんが小学校や中学校で「総合的な学習の時間」の科目で体験した学習方法です。この学習体験を通して、作業療法を通して、自分がそのような社会貢献ができるのかを学ぶことにもなります。さらに、働き始めてからのスキルアップに必要な自学自習の方法についても習得することも可能です。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学 科 ：　作業療法科

科目名（英）	作業療法特論Ⅳ (Advanced Occupational Therapy Ⅳ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	永田 敬生 他・学科教員
						実務経験	
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	15 / 1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

業界で即戦力となるためには、先進的な学習・演習を行い、現在および今後、最も求められている実践的な能力を身につける必要性がある。そこで、本科目では、アクティブラーニングに基づいた活動に取り組む中で、学習方法やスキルなどを体験的に学習し、思考力や判断力、表現力などの育成も目的としている。なお、この活動では、専門的な分野として、障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）期より選択した一分野における作業療法の最新知識と治療方法、社会的な動向を学ぶ。

本科目では、学外実習を通して、業界・当事者の課題に基づいた活動に取り組む中で、支援方法や必要なスキルを体験的に学習し、現場のニーズに合わせたプログラムの立案、計画、実施、再考を繰り返し臨機応変な対応を模倣・実践する。

【到達目標】

本科目における学習活動の遂行と達成を通して、自分が目指す将来像に向けて学び続ける基本的態度をとることができる。
（具体的な目標）
①専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が模倣実践できる。
②産学連携に参加し、実践の場で模倣実践できる。

授業計画・内容		
1回目	①専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が模倣実践できる。 ②専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）の産学連携に参加し、実践の場で模倣実践できる。 ①②産学連携に参加し、模倣実践していく中で、実施内容を振り返り、再評価を行い情報を収集・統合・分析し、再計画の立案、実施を模倣実践できる。	
2回目		
3回目		
4回目		
5回目		
6回目		
7回目		
8回目		
準備学習時間外学習	●報道をもとに探究学習の課題または自分の選択した分野に関わる情報をノートなどにメモをしておくこと。時間が許せば、そのことについて図書室などの文献を読み自分なりに情報を整理しておくこと。	
評価方法	レポート課題にて知識の評価を行う。実際の現場で実践を繰りかえし、臨機応変な対応が模倣実践できる。 ●課題解決（50%） ●実践の取り組み（50%） 割合で成績評価を行う。	
受講生へのメッセージ	本科目で行う「探究学習」は、皆さんが小学校や中学校で「総合的な学習の時間」の科目で体験した学習方法です。この学習体験を通して、作業療法を通して、自分がそのような社会貢献ができるのかを学ぶことにもなります。さらに、働き始めてからのスキルアップに必要な自学自習の方法についても修得することも可能です。	

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学 科 ：　作業療法科

科目名（英）	作業療法特論Ⅴ (Advanced Occupational Therapy Ⅴ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	永田 敬生 他・学科教員
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	15 / 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】

業界で即戦力となるためには、先進的な学習・演習を行い、現在および今後、最も求められている実践的な能力を身につける必要性がある。そこで、本科目では、アクティブラーニングに基づいた活動に取り組む中で、学習方法やスキルなどを体験的に学習し、思考力や判断力、表現力などの育成も目的としている。なお、この活動では、専門的な分野として、障がい者スポーツ、医療・福祉、子ども（発達）期より選択した一分野における作業療法の最新知識と治療方法、社会的な動向を学ぶ。

本科目では、学外実習を通して、業界・当事者の課題に基づいた活動に取り組む中で、支援方法や必要なスキルを体験的に学習し、現場のニーズに合わせたプログラムの立案、計画、実施、再考を繰り返し臨機応変な対応を模倣・実践する。

【到達目標】

本科目における学習活動の遂行と達成を通して、自分が目指す将来像に向けて学び続ける基本的態度をとることができる。
（具体的な目標）
①専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が実践できる。
②産学連携に参加し、実践の場で実践できる。
③チームとしてマネージメンが行え、リーダーシップを持った行動が実践できる。

授業計画・内容	
1回目	①専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）における作業療法的応用と実践が模倣実践できる。 ②専攻した専門分野（スポーツリハビリ、子どもリハビリ、医療福祉）の産学連携に参加し、実践の場で模倣実践できる。 ③実践する中においてリーダシップをとり、チームとしてマネージメントが行え、地域のニーズに応じた産学連携が実践できる。 ①②③産学連携に参加し、模倣実践していく中で、実施内容を振り返り、再評価を行い情報を収集・統合・分析し、再計画の立案、実施を実践できる。
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
準備学習時間外学習	●報道をもとに探究学習の課題または自分の選択した分野に関わる情報をノートなどにメモをしておくこと。時間が許せば、そのことについて図書室などの文献を読み自分なりに情報を整理しておくこと。
評価方法	レポート課題にて知識の評価を行う。実際の現場で実践を繰りかえし、臨機応変な対応を実践できる。 ●課題解決（50%） ●実践の取り組み（50%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	本科目で行う「探究学習」は、皆さんが小学校や中学校で「総合的な学習の時間」の科目で体験した学習方法です。この学習体験を通して、作業療法を通して、自分がそのような社会貢献ができるのかを学ぶことにもなります。さらに、働き始めてからのスキルアップに必要な自学自習の方法についても修得することも可能です。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	作業療法総合演習Ⅰ (Occupational Therapy Integrated practice Ⅰ)	必修選択	必修	年次	4
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	60 / 4

担当教員	永田敬生、後藤拓見、宮永洋祐、山下浩平 片山華結果、長嶺元気、春口春奈
実務経験	
開講区分	後期
曜日・時限	未定

【授業の学習内容】　（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法士国家試験に合格するレベルの知識・技術を総合的に修得するために、専門基礎科目と専門科目の学習をします。この学習では、国家試験に合格するだけの知識を得るだけではなく、グループ学習を用いて、臨床現場で求められるコミュニケーションスキルと自ら課題を発見し解決行動をとる経験を積むようにしています。また、国家試験の実地問題への対策をすることで、臨床実習で培ってきた知識と学内で学んだ知識を統合することも狙いとしています。

【到達目標】

目標①作業療法に関わる基礎及び専門的な知識（国家試験の合格水準）を問われたときに答えることができる。

目標②グループ学習を成り立たせることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
3・4回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
5・6回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
7・8回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
9・10回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
11・12回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
13・14回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
15・16回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
17・18回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
19・20回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
21・22回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
23・24回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
25・26回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
27・28回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
29・30回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
準備学習 時間外学習	これまでに学んだ内容を分野別にまとめ、グループ学習で互いに質疑応答を重ね理解を深めます。なお、この学習には、学内および自宅での自己学習が不可欠です。要するに、学校で学んだ内容を自宅での復習、さらに国家試験対策セミナーへ毎回出席し、そこでの学習を通して知識を深化させることが不可欠になります。
評価方法	①筆記試験 ②国試対策セミナーへの出席状況 ③グループ学習に取り組む姿勢（グループ学習における決まりの遵守） ①～③を総合的に判断します。
受講生への メッセージ	・授業目標を達成するためには、国試対策セミナーへの出席・参加は必須である。 ・作業療法に関わる基礎及び専門的な知識については、作業療法士国家試験出題基準（厚生労働省）を参考にするとよい。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント、理学療法士・作業療法士クエスチョンバンク

三輪模試、医歯薬模試

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	作業療法総合演習Ⅱ (Occupational Therapy Integrated practice Ⅱ)	必修選択	必修	年次	4
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4

担当教員	永田敬生、後藤拓真、宮永洋祐、山下浩平 片山華緒里、長嶺元気、春口恭崇
実務経験	
開講区分	後期
曜日・時限	未定

【授業の学習内容】　（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法士国家試験に合格するレベルの知識・技術を総合的に修得するために、専門基礎科目と専門科目の学習をします。この学習では、国家試験に合格するだけの知識を得るだけではなく、グループ学習を用いて、臨床現場で求められるコミュニケーションスキルと自ら課題を発見し解決行動をとる経験を積むようにしています。また、国家試験の実地問題への対策をすることで、臨床実習で培ってきた知識と学内で学んだ知識を統合することも狙いとしています。

【到達目標】

目標①作業療法に関わる基礎及び専門的な知識（国家試験の合格水準）を問われたときに答えることができる。

目標②グループ学習を成り立たせることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
3・4回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
5・6回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
7・8回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
9・10回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
11・12回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
13・14回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
15・16回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
17・18回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
19・20回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
21・22回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
23・24回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
25・26回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
27・28回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
29・30回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
準備学習 時間外学習	これまでに学んだ内容を分野別にまとめ、グループ学習で互いに質疑応答を重ね理解を深めます。なお、この学習には、学内および自宅での自己学習が不可欠です。要するに、学校で学んだ内容を自宅での復習、さらに国家試験対策セミナーへ毎回出席し、そこでの学習を通して知識を深化させることが不可欠になります。
評価方法	①筆記試験 ②国試対策セミナーへの出席状況 ③グループ学習に取り組む姿勢（グループ学習における決まりの遵守） ①～③を総合的に判断します。
受講生へのメッセージ	・授業目標を達成するためには、国試対策セミナーへの出席・参加は必須である。 ・作業療法に関わる基礎及び専門的な知識については、作業療法士国家試験出題基準（厚生労働省）を参考にするとよい。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント、理学療法士・作業療法士クエスチョンバンク

三輪模試、医歯薬模試

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	作業療法総合演習Ⅲ (Occupational Therapy Integrated practice Ⅲ)	必修選択	必修	年次	4
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	60 / 4
担当教員	永田敬生、後藤拓見、室永洋祐、山下浩平 片山華絵美、長坂元気、春口春奈	実務経験			
開講区分	後期	曜日・時限	未定		

【授業の学習内容】　（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法士国家試験に合格するレベルの知識・技術を総合的に修得するために、専門基礎科目と専門科目の学習をします。この学習では、国家試験に合格するだけの知識を得るだけではなく、グループ学習を用いて、臨床現場で求められるコミュニケーションスキルと自ら課題を発見し解決行動をとる経験を積むようにしています。また、国家試験の実地問題への対策をすることで、臨床実習で培ってきた知識と学内で学んだ知識を統合することも狙いとしています。

【到達目標】

目標①作業療法に関わる基礎及び専門的な知識（国家試験の合格水準）を問われたときに答えることができる。

目標②グループ学習を成り立たせることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
3・4回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
5・6回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
7・8回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
9・10回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
11・12回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
13・14回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
15・16回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
17・18回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
19・20回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
21・22回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
23・24回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
25・26回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
27・28回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
29・30回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
準備学習 時間外学習	これまでに学んだ内容を分野別にまとめ、グループ学習で互いに質疑応答を重ね理解を深めます。なお、この学習には、学内および自宅での自己学習が不可欠です。要するに、学校で学んだ内容を自宅での復習、さらに国家試験対策セミナーへ毎回出席し、そこでの学習を通して知識を深化させることが不可欠になります。
評価方法	①筆記試験 ②国試対策セミナーへの出席状況 ③グループ学習に取り組む姿勢（グループ学習における決まりの遵守） ①～③を総合的に判断します。
受講生へのメッセージ	・授業目標を達成するためには、国試対策セミナーへの出席・参加は必須である。 ・作業療法に関わる基礎及び専門的な知識については、作業療法士国家試験出題基準（厚生労働省）を参考にするとよい。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント、理学療法士・作業療法士クエスチョンバンク

三輪模試、医歯薬模試

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	作業療法総合演習Ⅳ (Occupational Therapy Integrated practice Ⅳ)	必修選択	必修	年次	4
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4

担当教員	永田敬生、後藤拓見、宮永洋祐、山下浩平 片山華絵里、長嶺元気、春口春奈
実務経験	
開講区分	後期
曜日・時限	未定

【授業の学習内容】　（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法士国家試験に合格するレベルの知識・技術を総合的に修得するために、専門基礎科目と専門科目の学習をします。この学習では、国家試験に合格するだけの知識を得るだけではなく、グループ学習を用いて、臨床現場で求められるコミュニケーションスキルと自ら課題を発見し解決行動をとる経験を積むようにしています。また、国家試験の実地問題への対策をすることで、臨床実習で培ってきた知識と学内で学んだ知識を統合することも狙いとしています。

【到達目標】

目標①作業療法に関わる基礎及び専門的な知識（国家試験の合格水準）を問われたときに答えることができる。

目標②グループ学習を成り立たせることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
3・4回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
5・6回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
7・8回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
9・10回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
11・12回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
13・14回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
15・16回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
17・18回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
19・20回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
21・22回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
23・24回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
25・26回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
27・28回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
29・30回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
準備学習 時間外学習	これまでに学んだ内容を分野別にまとめ、グループ学習で互いに質疑応答を重ね理解を深めます。なお、この学習には、学内および自宅での自己学習が不可欠です。要するに、学校で学んだ内容を自宅での復習、さらに国家試験対策セミナーへ毎回出席し、そこでの学習を通して知識を深化させることが不可欠になります。
評価方法	①筆記試験 ②国試対策セミナーへの出席状況 ③グループ学習に取り組む姿勢（グループ学習における決まりの遵守） ①～③を総合的に判断します。
受講生へのメッセージ	・授業目標を達成するためには、国試対策セミナーへの出席・参加は必須である。 ・作業療法に関わる基礎及び専門的な知識については、作業療法士国家試験出題基準（厚生労働省）を参考にするとよい。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント、理学療法士・作業療法士クエスチョンバンク

三輪模試、医歯薬模試

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	作業療法総合演習Ⅴ (Occupational Therapy Integrated practice Ⅴ)	必修選択	必修	年次	4
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 / 4
コース					
担当教員	永田敬生、後藤拓見、宮永洋和、山下浩平、片山華緒里、長坂元気、春口恭宗				
実務経験					
開講区分	後期				
曜日・時限	未定				

【授業の学習内容】　（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法士国家試験に合格するレベルの知識・技術を総合的に修得するために、専門基礎科目と専門科目の学習をします。この学習では、国家試験に合格するだけの知識を得るだけではなく、グループ学習を用いて、臨床現場で求められるコミュニケーションスキルと自ら課題を発見し解決行動をとる経験を積むようにしています。また、国家試験の実地問題への対策をすることで、臨床実習で培ってきた知識と学内で学んだ知識を統合することも狙いとしています。

【到達目標】

目標①作業療法に関わる基礎及び専門的な知識（国家試験の合格水準）を問われたときに答えることができる。

目標②グループ学習を成り立たせることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
3・4回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
5・6回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
7・8回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
9・10回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
11・12回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
13・14回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
15・16回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
17・18回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
19・20回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
21・22回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
23・24回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
25・26回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
27・28回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
29・30回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
準備学習 時間外学習	これまでに学んだ内容を分野別にまとめ、グループ学習で互いに質疑応答を重ね理解を深めます。なお、この学習には、学内および自宅での自己学習が不可欠です。要するに、学校で学んだ内容を自宅での復習、さらに国家試験対策セミナーへ毎回出席し、そこでの学習を通して知識を深化させることが不可欠になります。
評価方法	①筆記試験 ②国試対策セミナーへの出席状況 ③グループ学習に取り組む姿勢（グループ学習における決まりの遵守） ①～③を総合的に判断します。
受講生へのメッセージ	・授業目標を達成するためには、国試対策セミナーへの出席・参加は必須である。 ・作業療法に関わる基礎及び専門的な知識については、作業療法士国家試験出題基準（厚生労働省）を参考にするとよい。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント、理学療法士・作業療法士クエスチョンバンク

三輪模試、医歯薬模試

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	作業療法総合演習Ⅵ (Occupational Therapy Integrated practiceⅥ)	必修選択	必修	年次	4
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	60 / 4
担当教員	永田敬生、後藤拓見、室永洋祐、山下浩平 片山草緒里、長島光紀、春口春奈				
実務経験					
開講区分	後期				
曜日・時限	未定				

【授業の学習内容】　（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法士国家試験に合格するレベルの知識・技術を総合的に修得するために、専門基礎科目と専門科目の学習をします。この学習では、国家試験に合格するだけの知識を得るだけではなく、グループ学習を用いて、臨床現場で求められるコミュニケーションスキルと自ら課題を発見し解決行動をとる経験を積むようにしています。また、国家試験の実地問題への対策をすることで、臨床実習で培ってきた知識と学内で学んだ知識を統合することも狙いとしています。

【到達目標】

目標①作業療法に関わる基礎及び専門的な知識（国家試験の合格水準）を問われたときに答えることができる。

目標②グループ学習を成り立たせることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
3・4回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
5・6回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
7・8回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
9・10回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
11・12回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
13・14回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
15・16回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
17・18回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
19・20回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
21・22回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
23・24回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
25・26回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
27・28回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
29・30回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
準備学習 時間外学習	これまでに学んだ内容を分野別にまとめ、グループ学習で互いに質疑応答を重ね理解を深めます。なお、この学習には、学内および自宅での自己学習が不可欠です。要するに、学校で学んだ内容を自宅での復習、さらに国家試験対策セミナーへ毎回出席し、そこでの学習を通して知識を深化させることが不可欠になります。
評価方法	①筆記試験 ②国試対策セミナーへの出席状況 ③グループ学習に取り組む姿勢（グループ学習における決まりの遵守） ①～③を総合的に判断します。
受講生へのメッセージ	・授業目標を達成するためには、国試対策セミナーへの出席・参加は必須である。 ・作業療法に関わる基礎及び専門的な知識については、作業療法士国家試験出題基準（厚生労働省）を参考にするとよい。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント、理学療法士・作業療法士クエスチョンバンク

三輪模試、医歯薬模試

2025年度　授業概要

学　科　：　作業療法科

科目名（英）	作業療法総合演習Ⅶ (Occupational Therapy Integrated practiceⅦ)	必修選択	必修	年次	4	担当教員	永田敬生、後藤拓夏、宮永洋地、山下浩平 片山華絵里、長谷元気、春口春奈
						実務経験	
コース		授業形態	演習	総時間（単位）	60 / 4	開講区分	後期
						曜日・時限	未定

【授業の学習内容】　（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本講義では、作業療法士国家試験に合格するレベルの知識・技術を総合的に修得するために、専門基礎科目と専門科目の学習をします。この学習では、国家試験に合格するだけの知識を得るだけではなく、グループ学習を用いて、臨床現場で求められるコミュニケーションスキルと自ら課題を発見し解決行動をとる経験を積むようにしています。また、国家試験の実地問題への対策をすることで、臨床実習で培ってきた知識と学内で学んだ知識を統合することも狙いとしています。

【到達目標】

目標①作業療法に関わる基礎及び専門的な知識（国家試験の合格水準）を問われたときに答えることができる。

目標②グループ学習を成り立たせることができる。

授業計画・内容	
1・2回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
3・4回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
5・6回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
7・8回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
9・10回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
11・12回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
13・14回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
15・16回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
17・18回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
19・20回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
21・22回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
23・24回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
25・26回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
27・28回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
29・30回目	（目標①・②）シェア学習（グループ学習）を通して、国家試験レベルの知識にかかわる問いに答え、振り返りの学習ができる。
準備学習 時間外学習	これまでに学んだ内容を分野別にまとめ、グループ学習で互いに質疑応答を重ね理解を深めます。なお、この学習には、学内および自宅での自己学習が不可欠です。要するに、学校で学んだ内容を自宅での復習、さらに国家試験対策セミナーへ毎回出席し、そこでの学習を通して知識を深化させることが不可欠になります。
評価方法	①筆記試験 ②国試対策セミナーへの出席状況 ③グループ学習に取り組む姿勢（グループ学習における決まりの遵守） ①～③を総合的に判断します。
受講生へのメッセージ	・授業目標を達成するためには、国試対策セミナーへの出席・参加は必須である。 ・作業療法に関わる基礎及び専門的な知識については、作業療法士国家試験出題基準（厚生労働省）を参考にするとよい。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント、理学療法士・作業療法士クエスチョンバンク

三輪模試、医歯薬模試

2025年度　授業概要

学 科 ：作業療法科

科目名（英）	国際リハビリテーションセミナー (International Rehabilitation seminar)	必修 選択	選択 必修	年次	2年	担当教員	片山 華緒里／春口 春奈
						実務経験	
		授業形態	講習	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

海外の医療制度やリハビリテーション専門職の養成教育の違い、さらにはリハビリテーションの実際について説明できる。

【到達目標】

＜具体的な目標＞

目標①：海外の医療制度やリハビリテーション専門教育の違いについて理解し、国際的な視野を持つことができる。

目標②：国際的なリハビリテーションの実践についての共通点や相違点を理解し、異文化間でのリハビリテーションの提供に対応できる能力を身に付けることができる。

目標③国際協力とリハビリテーションの関係について理解し、国際協力やグローバルな視点に基づいたリハビリテーションの実践事例について知ることができる。

授業計画・内容	
1回目	国際リハビリテーションの概要について説明できる。
2回目	海外の医療制度とリハビリテーションの位置づけと概要について説明できる。
3回目	北米のリハビリテーション専門職の養成教育の歴史と現状について説明できる。
4回目	欧州のリハビリテーション専門職の養成教育の歴史と現状について説明できる。
5回目	アジアのリハビリテーション専門職の養成教育の歴史と現状について説明できる。
6回目	国際的なリハビリテーションの実際について説明できる。
7回目	外国人患者へのリハビリテーションの提供における課題と問題点について説明できる。
8回目	国際協力とリハビリテーションについて説明できる。
準備学習 時間外学習	授業の前後に適宜、準備学習や時間外学習のための課題やアドバイスを提供された場合は、積極的に事前・事後学習に取り組んでください。また、授業内でのグループワークやディスカッションを通じて、学生同士で情報交換や意見交換を行うことも重要です。
評価方法	レポート課題にて知識・技能の到達評価を行う。 成績評価は、レポート課題（100%）の割合で行うが、その他、出席率（欠席1回につき1点減点、遅刻・早退は3回につき1点減点）にて行う。
受講生へのメッセージ	「国際リハビリテーションセミナー」の授業を通じて、海外の医療制度やリハビリテーション専門職の養成教育の違い、そしてリハビリテーションの実際について学ぶことができます。授業内での積極的な参加や、授業外での準備学習や時間外学習にも取り組んで、自分自身の知識やスキルを高めていきましょう。また、国際的な視点を持つことによって、様々な文化や背景を持つ人々に対しても理解を深め、適切なリハビリテーションの提供につなげていくことができるようになります。

【使用教科書・教材・参考書】

特になし